

2026年9月の地震活動の評価

1. 主な地震活動

目立った活動はなかった。

2. 各領域別の地震活動

(1) 北海道地方

目立った活動はなかった。

(2) 東北地方

目立った活動はなかった。

(3) 関東・中部地方

- 9月17日に茨城県南部の深さ約65 kmでマグニチュード(M) 4.9の地震が発生した。この地震の発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、太平洋プレート内部で発生した地震である。
- 9月29日に茨城県南部の深さ約45 kmでM4.9の地震が発生した。この地震の発震機構は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。

(4) 近畿・中国・四国地方

目立った活動はなかった。

(5) 九州・沖縄地方

- 7月28日16時27分に熊本県熊本地方でM7.1の地震が発生した後、発生前に比べ地震回数は多い状態が継続しているが、大局的には緩やかに減少している。9月中に最大震度1以上を観測した地震は79回(震度4:2回、震度3:4回、震度2:19回、震度1:54回)発生した。このうち最大震度4を観測した地震は、16日に熊本県天草・芦北地方で発生したM4.0の地震及び26日に熊本県熊本地方で発生したM4.6の地震である。
今回の地震活動域付近には布田川断層帯・日奈久断層帯が存在している。
GNSS観測によると、7月28日のM7.1の地震の後、日奈久断層帯の日奈久区間の南西部を中心に、熊本県及びその周辺で余効変動と考えられる地殻変動が観測されている。
これまでの地震活動を踏まえると、平常時より地震発生数の多い状態は当分続くと考えられる。
- 9月20日に奄美大島近海の深さ約65 kmでM5.0の地震が発生した。この地震の発震機構は北北西－南南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、フィリピン海プレート内部で発生した地震である。
- 9月30日に与那国島近海の深さ約20 kmでM5.9の地震が発生した。この地

震の発震機構は北北西－南南東方向に圧力軸を持つ型であった。

(6) 南海トラフ周辺

- 南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていない。

(7) その他の地域

- 9月23日にマリアナ諸島の深さ約310 kmでM6.0の地震が発生した。

注：GNSSとは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称である。

2026年9月の地震活動の評価についての補足説明

令和8年10月9日
地震調査委員会

1. 主な地震活動について

2026年9月の日本及びその周辺域におけるマグニチュード(M)別の地震の発生状況は以下のとおり。

M4.0以上及びM5.0以上の地震の発生は、それぞれ91回(8月は106回)及び9回(8月は13回)であった。また、M6.0以上の地震の発生は1回(8月は1回)であった。

- (参考) M4.0以上の月回数81回(69-104回)
(1998-2017年の月回数の中央値、括弧の値は半数が入る範囲)
M5.0以上の月回数10回(7-14回)
(1973-2017年の月回数の中央値、括弧の値は半数が入る範囲)
M6.0以上の月回数1回(0-2回)
(1919-2017年の月回数の中央値、括弧の値は半数が入る範囲)
M6.0以上の年回数16回(12-21回)
(1919-2017年の年回数の中央値、括弧の値は半数が入る範囲)

2025年9月以降2026年8月末までの間、主な地震活動として評価文に取り上げたものは次のものがあつた。

ー トカラ列島近海	2025年9月17日	M4.7
ー 根室半島南東沖	2025年10月25日	M5.8(深さ約40 km)
ー 三陸沖	2025年11月9日	M6.9(深さ約15 km)
ー 熊本県阿蘇地方	2025年11月25日	M5.8(深さ約10 km)
ー 青森県東方沖	2025年12月8日	M7.5(深さ約55 km)
ー 島根県東部	2026年1月6日	M6.4(深さ約10 km)
ー 茨城県南部	2026年4月1日	M5.0(深さ約50 km)
ー 長野県北部	2026年4月18日	M5.0(深さ約10 km)
ー 長野県北部	2026年4月18日	M5.1(深さ約10 km)
ー 三陸沖	2026年4月20日	M7.7(深さ約20 km)
ー 十勝地方南部	2026年4月27日	M6.2(深さ約85 km)
ー 宮城県沖	2026年5月15日	M6.4(深さ約45 km)
ー 沖縄本島近海	2026年5月20日	M5.9(深さ約50 km)
ー フィリピン諸島、ミンダナオ	2026年6月8日	Mw7.7
ー 茨城県南部	2026年6月16日	M5.5(深さ約50 km)
ー 岩手県沖	2026年6月25日	M7.2(深さ約45 km)
ー 山梨県東部・富士五湖	2026年6月26日	M5.6(深さ約20 km)
ー 令和8年熊本地震	2026年7月28日	M7.1(深さ約15 km)
ー 令和8年熊本地震	2026年8月1日	M4.7(深さ約10 km)
ー 茨城県南部	2026年8月23日	M5.9(深さ約70 km)

2. 各領域別の地震活動

(1) 北海道地方

北海道地方では特に補足する事項はない。

(2) 東北地方

ー 三陸沖から岩手県沖にかけては、2025 年 11 月以降、2025 年 11 月 9 日の三陸沖 (M6.9)、2026 年 4 月 20 日の三陸沖 (M7.7)、2026 年 6 月 25 日の岩手県沖 (M7.2) の地震活動が見られており、これら一連の地震活動域では、9 月中に震度 1 以上を観測した地震が 7 回発生した (8 月は 17 回)。これらの地震活動域の東側では、2025 年 11 月 4 日の三陸沖の地震 (M5.3) が発生して以降、微動活動が断続的に継続している。

G N S S 観測によると、4 月 20 日の M7.7 の地震の後、およそ 5 か月間で、岩手県の久慈観測点が東南東方向に約 8 cm 変動するなど、岩手県を中心に余効変動と考えられる水平変動が観測されている。余効変動から推定される余効すべりは、4 月 20 日の M7.7 の地震活動域とその西側及び 6 月 25 日の M7.2 の地震活動域の東側で継続していると考えられる。また、その周辺では、繰り返し地震の解析から、非地震性すべりが継続していると考えられる。

6 月 25 日の M7.2 の地震以降の地震活動は、「平成 6 年 (1994 年) 三陸はるか沖地震」 (M7.6) の震源域の西端付近における最大余震 (1995 年 1 月 7 日の M7.2) の震央付近で発生している。なお、これらの地震活動域を含む 2025 年 11 月からの三陸沖から岩手県沖にかけての一連の地震活動域、「平成 6 年 (1994 年) 三陸はるか沖地震」の震源域及び 2025 年 12 月 8 日の青森県東方沖 (M7.5) の地震活動域は、「1968 年十勝沖地震」 (M7.9) の震源域内のそれぞれ南部、中部及び北部に位置する。

(3) 関東・中部地方

ー G N S S 観測によると、2022 年初頭から、静岡県西部から愛知県東部にかけて、それまでの傾向とは異なる地殻変動が観測されている。これは、渥美半島周辺から浜名湖周辺にかけてのフィリピン海プレートと陸のプレートの境界深部における長期的ゆっくりすべりに起因するものと考えられる。すべりの中心は渥美半島周辺から浜名湖の東側に移動している。

ー 東海で 9 月 3 日から 4 日にかけて、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界付近で深部低周波地震 (微動) を観測している。ひずみ及び傾斜データによると、その周辺では深部低周波地震 (微動) とほぼ同期してわずかな地殻変動を観測している。これらは、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界深部における短期的ゆっくりすべりに起因するものと考えられる。

(4) 近畿・中国・四国地方

ー 2025 年 2 月から、山口県北部の地殻下部の深さ 25 km から 35 km 程度でまとまった微小地震活動が継続している。これら一連の微小地震活動に伴って、わずかな地殻変動が観測されている。また、2025 年半ば頃から、山口県北部の地殻内の深さ 5 km 程度から 20 km 程度でまとまった微小地震活動が継続しており、9 月 29 日には、深さ約 15 km で M3.0 の地震 (最大震度 1) が発生した。

(5) 九州・沖縄地方

九州・沖縄地方では特に補足する事項はない。

(6) 南海トラフ周辺

ー「南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていない。」：

（なお、これは、10月7日に開催された定例の南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会における見解（参考参照）と同様である。）

（参考）南海トラフ地震関連解説情報についてー最近の南海トラフ周辺の地殻活動ー（令和8年10月7日気象庁地震火山部）

「現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時（注）と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

（注）南海トラフ沿いの大規模地震（M8からM9クラス）は、「平常時」においても今後30年以内に発生する確率が高い（詳細は「南海トラフの地震活動の長期評価（第二版一部改訂）」参照）と評価されており、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から約80年が経過していることから切迫性の高い状態です。

1. 地震の観測状況

（顕著な地震活動に関係する現象）

南海トラフ周辺では、特に目立った地震活動はありませんでした。

（ゆっくりすべりに関係する現象）

プレート境界付近を震源とする深部低周波地震（微動）のうち、主なものは以下のとおりです。

- （1）四国東部：8月21日から9月3日、9月6日から9月8日
- （2）東海：9月3日から9月4日
- （3）四国中部：9月17日から9月24日
- （4）四国西部：9月27日から継続中
- （5）東海：10月2日から継続中

これらとは別にプレート境界付近で浅部超低周波地震を観測しています。

- （6）日向灘及びその周辺域：8月中旬から9月上旬

2. 地殻変動の観測状況

（ゆっくりすべりに関係する現象）

上記（1）から（5）の深部低周波地震（微動）とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計でわずかな地殻変動を観測しています。周辺の傾斜データでも、わずかな変化が見られています。

GNS S観測によると、2022年初頭から、静岡県西部から愛知県東部にかけて、それまでの傾向とは異なる地殻変動が観測されています。

（長期的な地殻変動）

GNS S観測等によると、御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺では長期的な沈降傾向が継続しています。

3. 地殻活動の評価

（ゆっくりすべりに関係する現象）

上記（1）から（5）の深部低周波地震（微動）と地殻変動は、想定震源域のプレート境界深部において発生した短期的ゆっくりすべりに起因するものと推定しています。

2022年初頭からの静岡県西部から愛知県東部にかけての地殻変動は、渥美半島周辺から浜名湖周辺にかけてのプレート境界深部における長期的ゆっくりすべりに起因するものと推定しています。この長期的ゆっくりすべりは、すべりの中心が渥美半島周辺から、浜名湖の東側に移動しています。

これらの深部低周波地震（微動）、短期的ゆっくりすべり、及び長期的ゆっくりすべりは、それぞれ、従来からも繰り返し観測されてきた現象です。

上記（６）の浅部超低周波地震は従来からも観測されてきた現象で、これまでの観測結果や研究成果から想定震源域のプレート境界浅部において発生したゆっくりすべりに起因する可能性があります。この現象の発生頻度・規模等発生様式については今後も観測・研究が必要です。

（長期的な地殻変動）

御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺で見られる長期的な沈降傾向はフィリピン海プレートの沈み込みに伴うもので、その傾向に大きな変化はありません。

上記観測結果を総合的に判断すると、南海トラフ地震の想定震源域ではプレート境界の固着状況に特段の変化を示すようなデータは得られておらず、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。」

参考１ 「地震活動の評価」において掲載する地震活動の目安

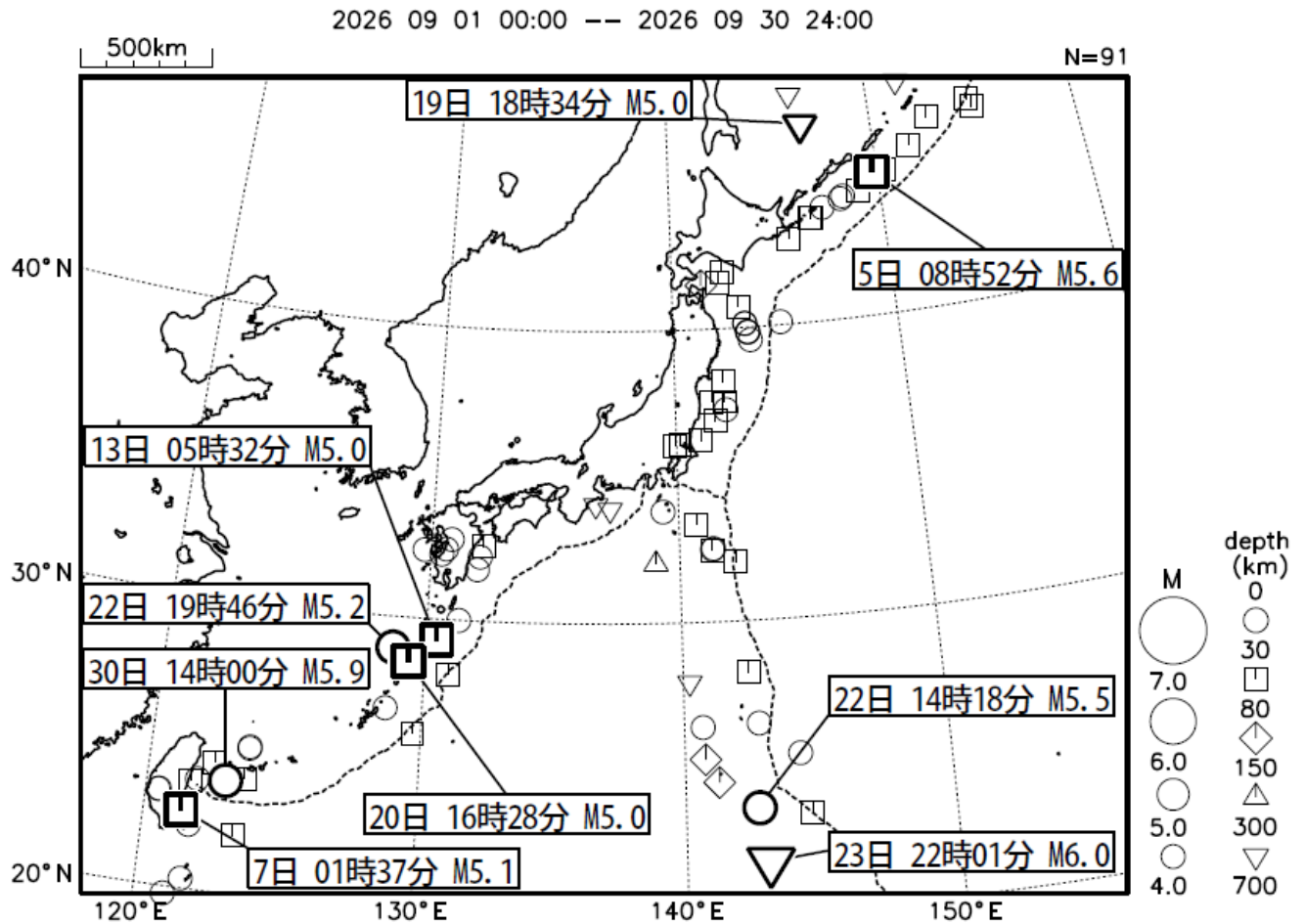
- ①M6.0以上または最大震度が４以上のもの。②内陸 M4.5以上かつ最大震度が３以上のもの。
- ③海域 M5.0以上かつ最大震度が３以上のもの。

参考２ 「地震活動の評価についての補足説明」の記述の目安

- １ 「地震活動の評価」に記述された地震活動に係わる参考事項。
- ２ 「主な地震活動」として記述された地震活動（一年程度以内）に関連する活動。
- ３ 評価作業をしたものの、活動が顕著でなく、かつ、通常の活動の範囲内であることから、「地震活動の評価」に記述しなかった活動の状況。
- ４ 一連で M6.0以上が推定されたゆっくりすべりとそれに伴って発生した低周波地震(微動)。

2026 年 9 月の地震活動の評価に関する資料

2026 年 9 月の全国の地震活動 (マグニチュード 4.0 以上)



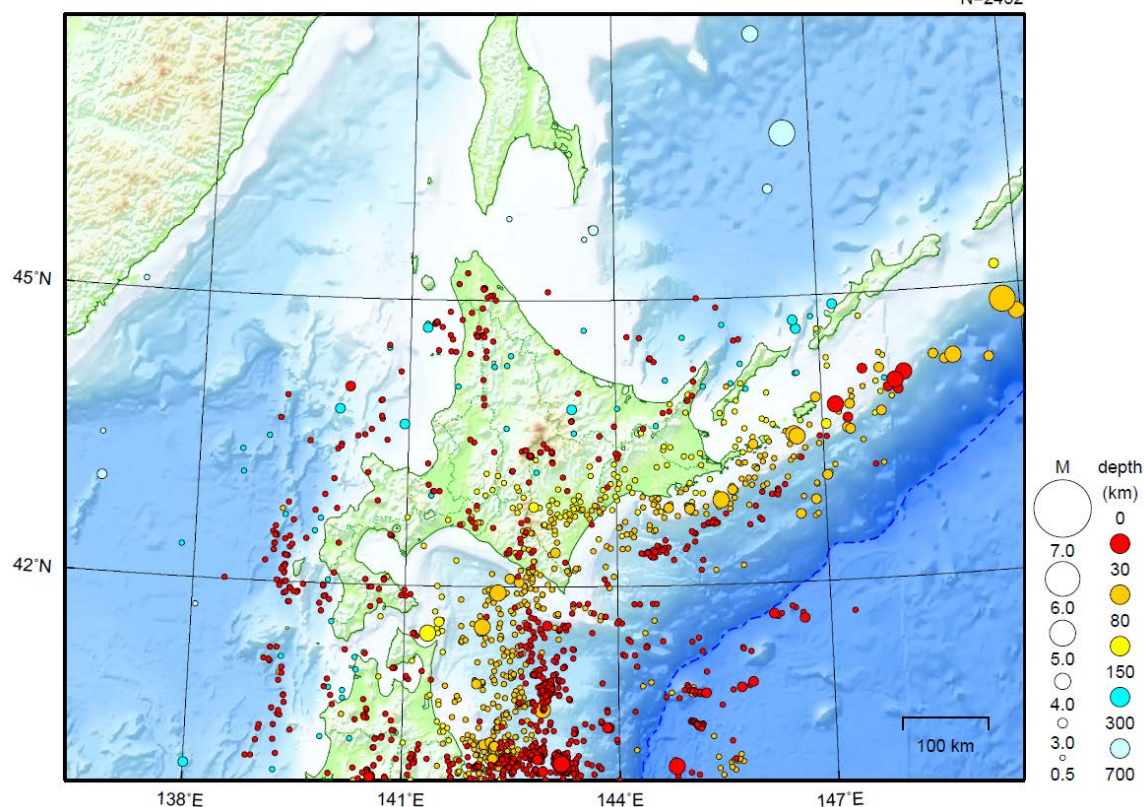
- ・ 9 月 23 日にマリアナ諸島で M6.0 の地震（震度 1 以上を観測した地点はなし）が発生した。

[図中に日時分、マグニチュードを付した地震は M5.0 以上の地震、または M4.0 以上で最大震度 5 弱以上を観測した地震である。
また、上に表記した地震は M6.0 以上、または M4.0 以上で最大震度 5 弱以上を観測した地震である。]

北海道地方

2026/09/01 00:00 ~ 2026/09/30 24:00

N=2452



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

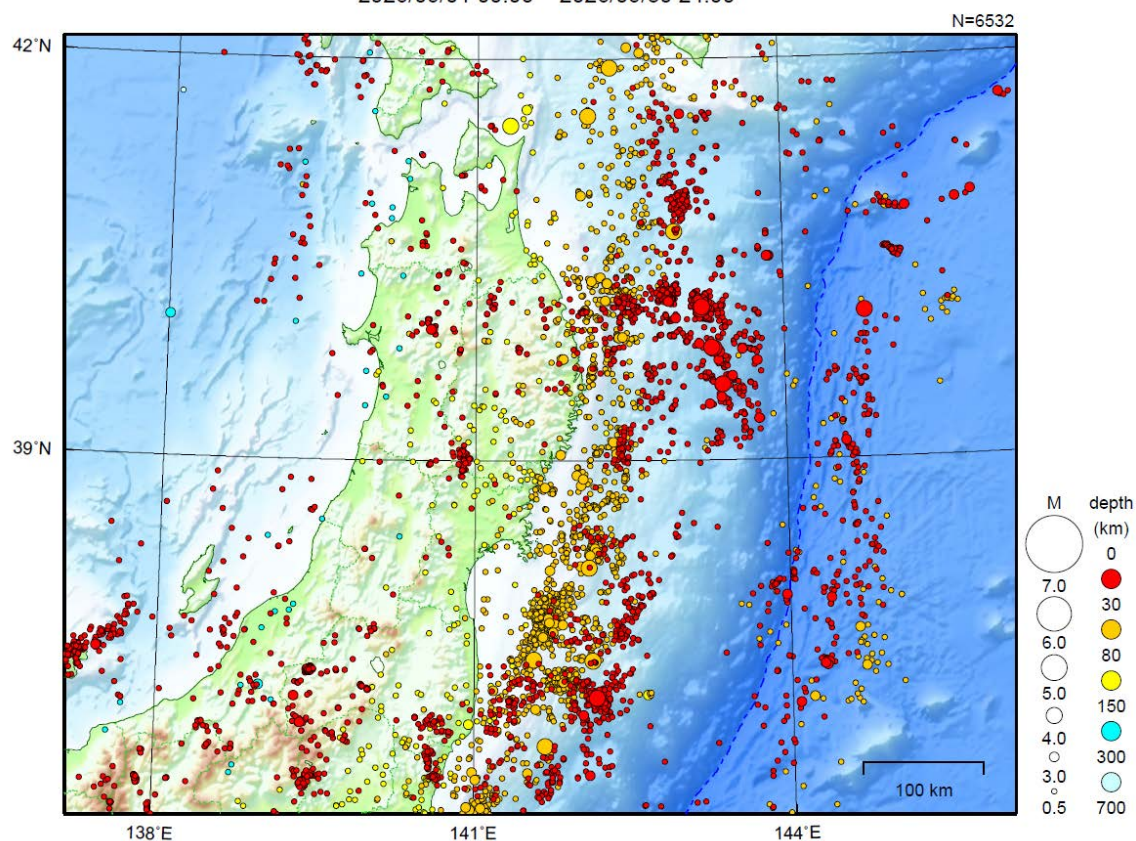
特に目立った地震活動はなかった。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

東北地方

2026/09/01 00:00 ~ 2026/09/30 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った地震活動はなかった。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

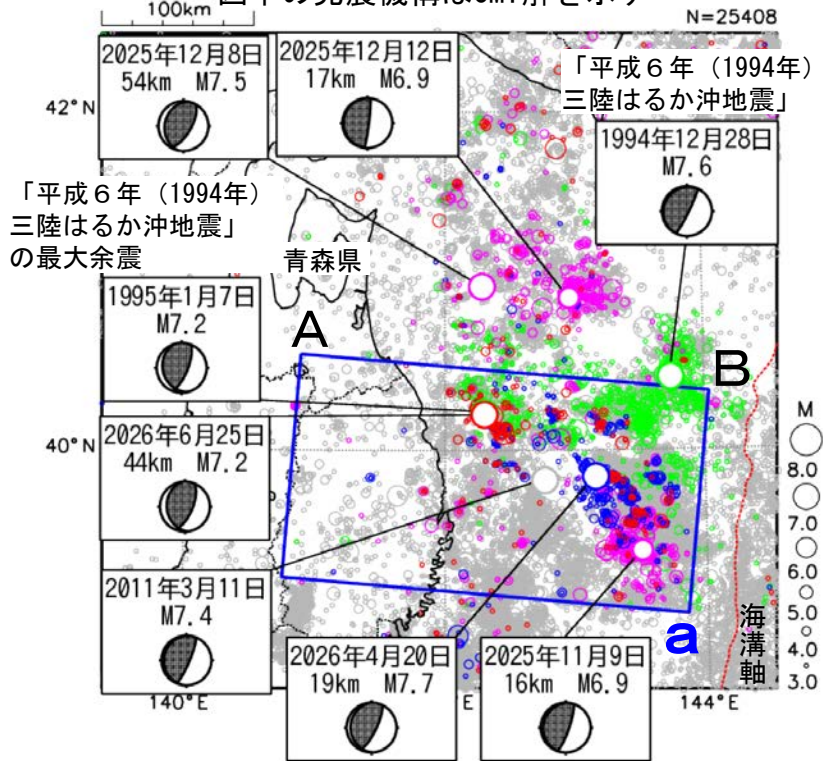
気象庁・文部科学省

2025年11月以降の三陸沖から岩手県沖にかけての地震活動 (1994年12月以降の地震活動経過)

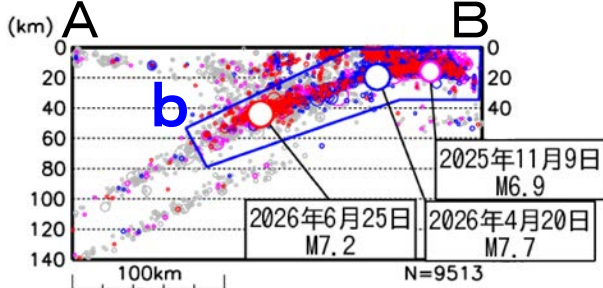
震央分布図

(1994年12月1日～2026年9月30日、深さ0～140km、 $M \geq 3.0$)

図中の発震機構はCMT解を示す



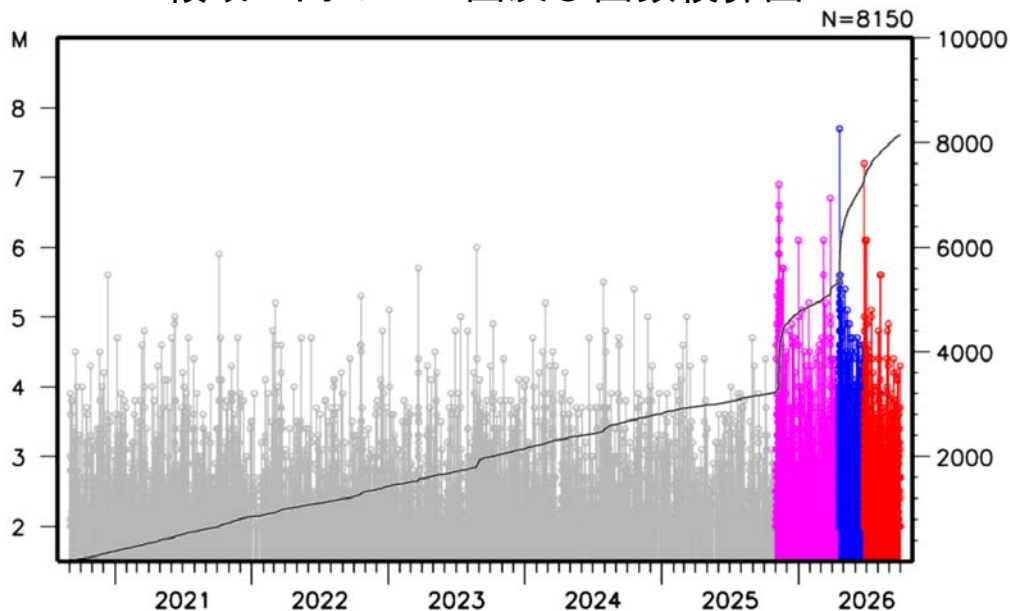
領域a内の断面図 (A-B投影) (2020年9月1日～2026年9月30日、 $M \geq 2.0$)



色の凡例

- 1994年12月1日～1995年1月31日
- 1995年2月1日～2025年10月31日
- 2025年11月1日～2026年4月19日
- 2026年4月20日～2026年6月24日
- 2026年6月25日以降

領域b内のMT図及び回数積算図



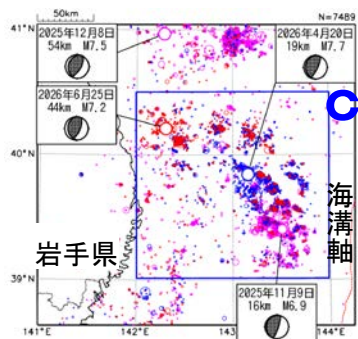
2020年9月以降の活動を見ると、領域b内では2025年11月4日からまとめた地震活動が見られるようになり、11月9日に $M6.9$ の地震(最大震度4)が発生した。その後、この地震の北西側で2026年4月20日に $M7.7$ の地震(最大震度5強)が発生すると、地震活動はさらに活発となり、2026年6月25日に $M7.2$ の地震(最大震度6強)が発生した。この地震は、1995年1月7日に発生した $M7.2$ の地震(最大震度5、「平成6年(1994年)三陸はるか沖地震」の最大余震)の震央付近で発生した。

2025年11月以降の三陸沖から岩手県沖にかけての地震活動 (2025年11月以降の地震活動経過)

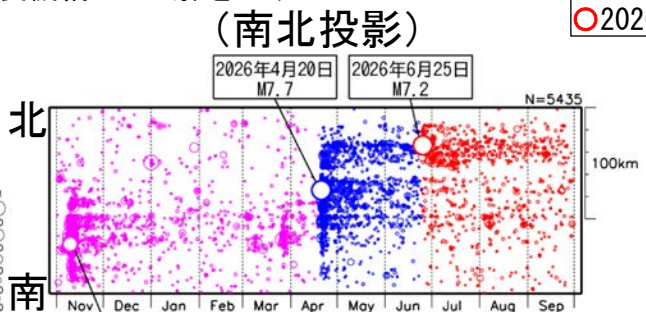
震央分布図及び領域 c 内の時空間分布図
(2025年11月1日～2026年9月30日、深さ0～80km、 $M \geq 2.0$)

図中の発震機構はCMT解を示す

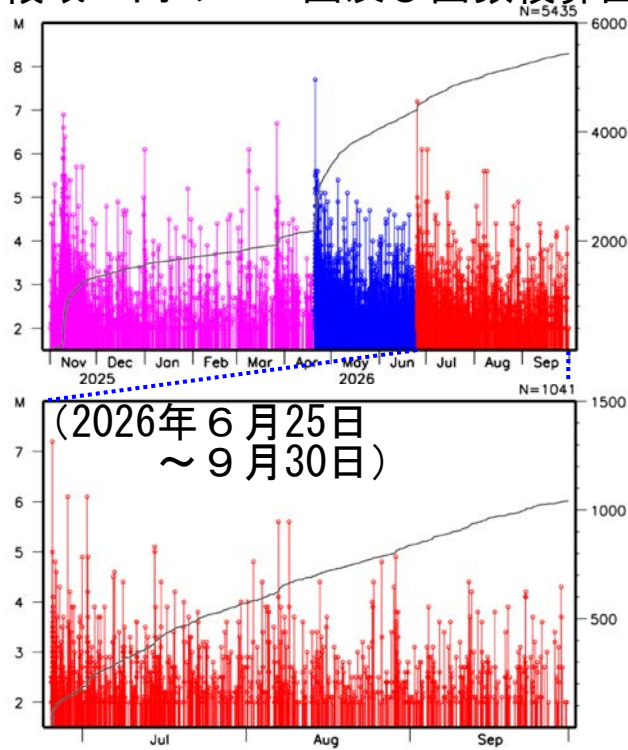
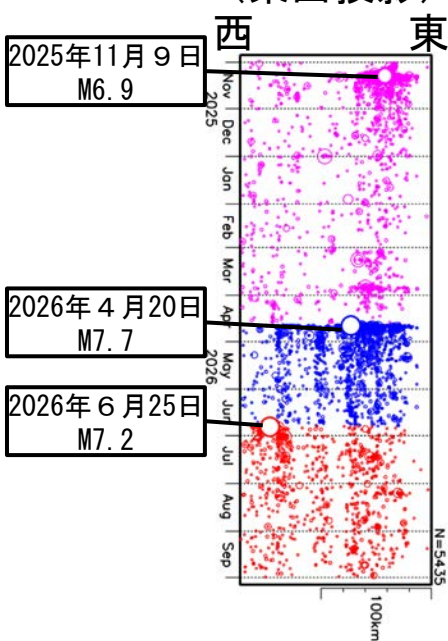
色の凡例
 〇 2025年11月1日～2026年4月19日
 〇 2026年4月20日～2026年6月24日
 〇 2026年6月25日以降



(東西投影)



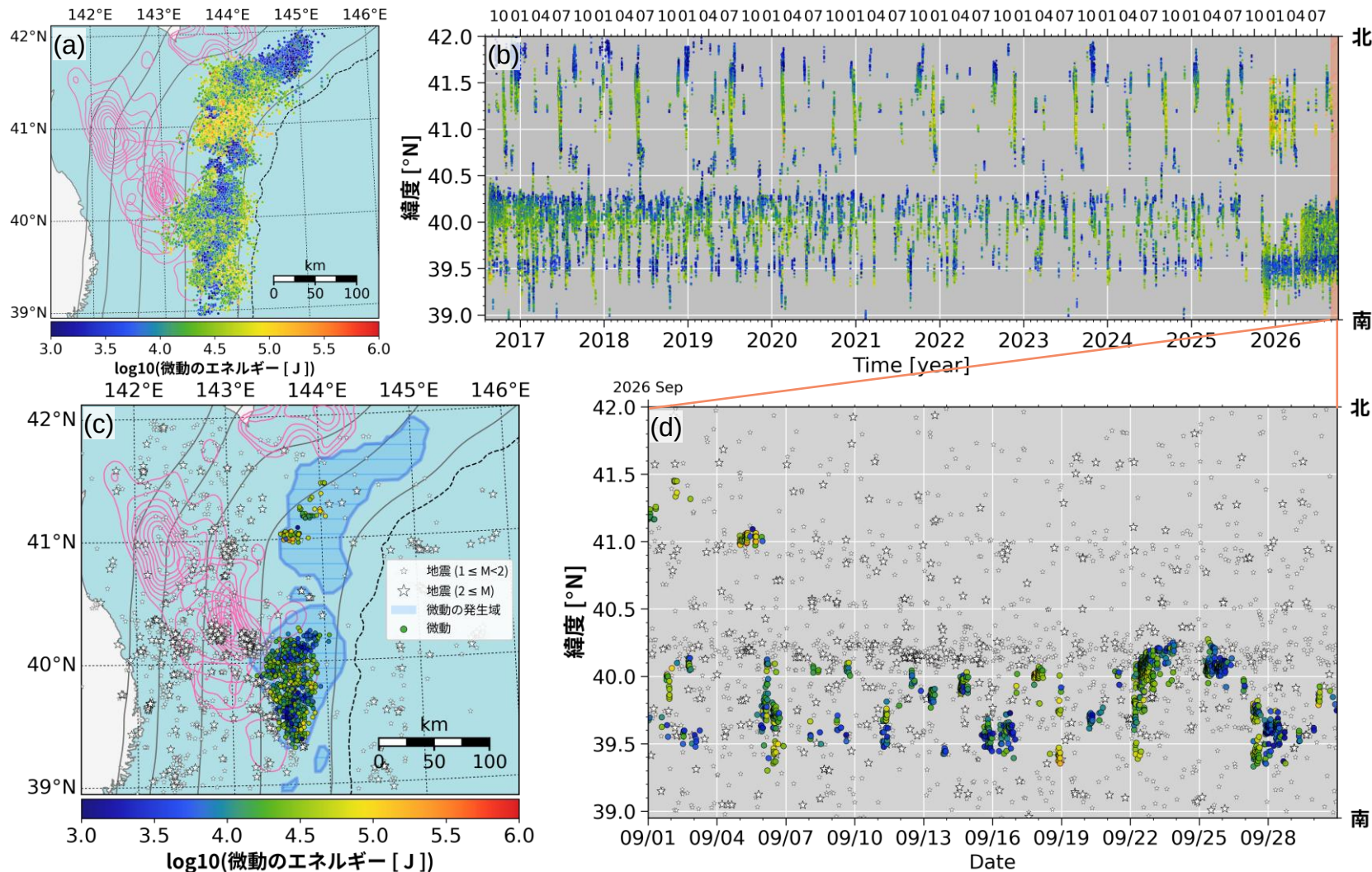
領域 c 内の MT 図及び回数積算図



2025年11月以降の活動を見ると、三陸沖・岩手県沖の領域（領域 c）では活発な地震活動が継続している。2026年4月20日にM7.7の地震が発生すると、地震活動は北西側に広がりながらさらに活発となった。この活動域の北西端では、2026年6月25日にM7.2の地震が発生した。領域 c では、9月1日から30日までに震度1以上を観測する地震が7回（震度2：2回、震度1：5回）発生した。

2026年9月の日本海溝北部における微動活動

- 三陸沖で活発な微動活動を観測
- 青森沖で微動活動を観測

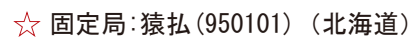


(a-b) 2016/08/15 から 2026/09/30までの微動分布
 (c-d) 2026/09/01 から 2026/09/30までの微動分布
 ※ Sagae et al. (2025) の手法で解析した

謝辞: 2026/09/01-2026/09/30 までの気象庁一元化震源カタログを使用しました。防災科学技術研究所S-netの地震波形データ、F-net Project による広帯域地震波形を用いたメカニズム解析結果を使用しました。文部科学省「情報科学を活用した地震活動・地震動評価技術の高度化事業」(JPJ013735)の助成を受けたものです。記して感謝申し上げます。

地殻変動(水平)

比較期間: 2026-09-25 ~ 2026-09-26 [R5.1: 速報解]



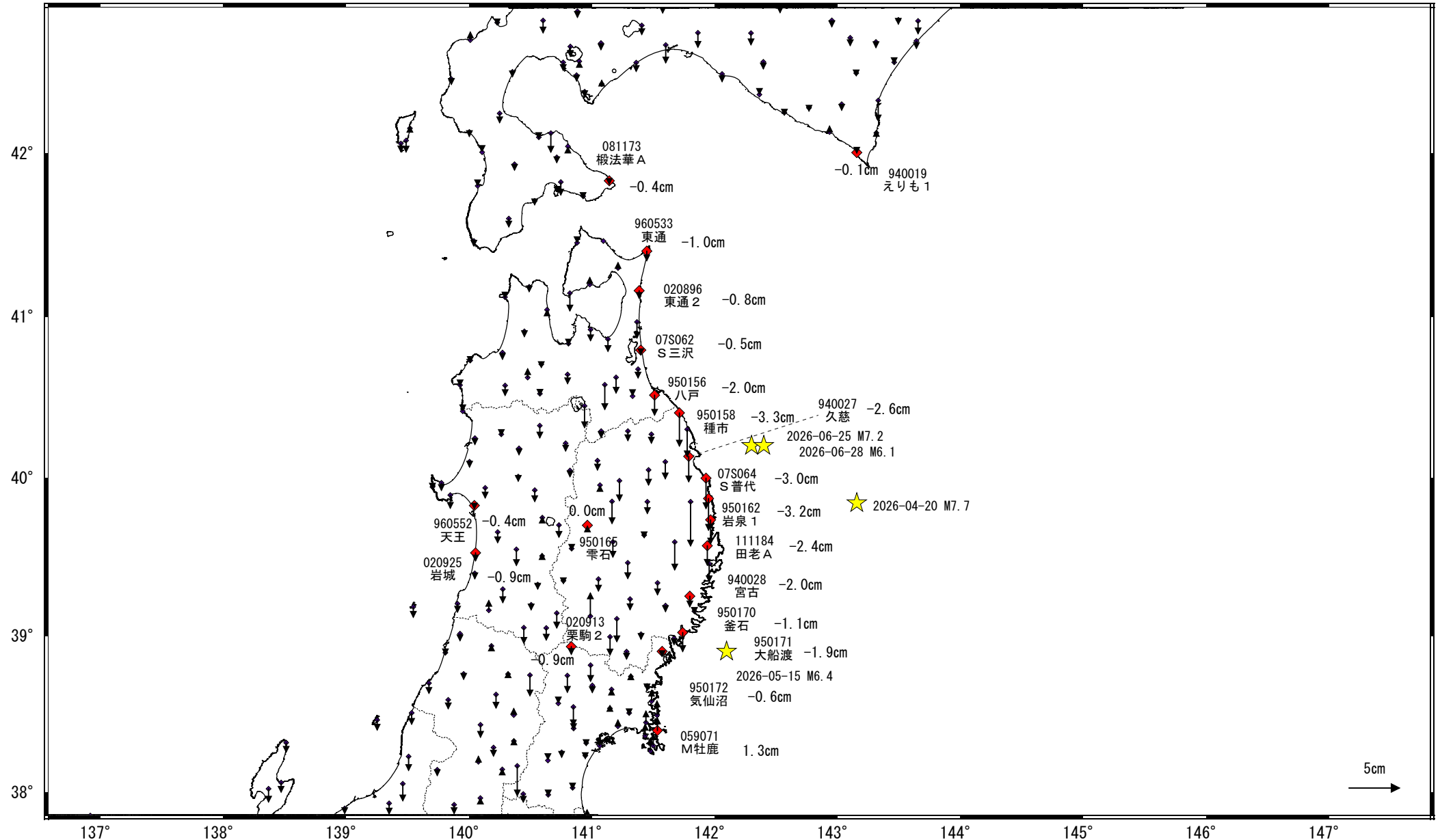
国土地理院

三陸沖の地震(4月20日 M7.7)後の観測データ(暫定)

この地震に伴い余効変動が観測されている.

地殻変動(上下)

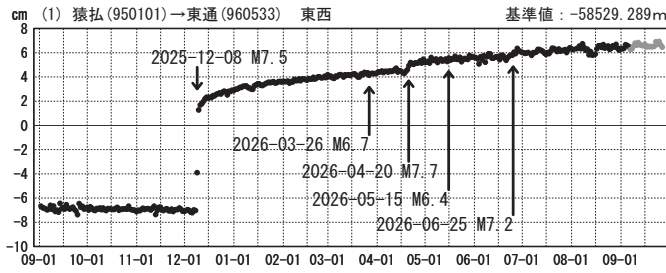
基準期間:2026-04-21~2026-04-21[F5.1:最終解]
比較期間:2026-09-25~2026-09-26[R5.1:速報解]



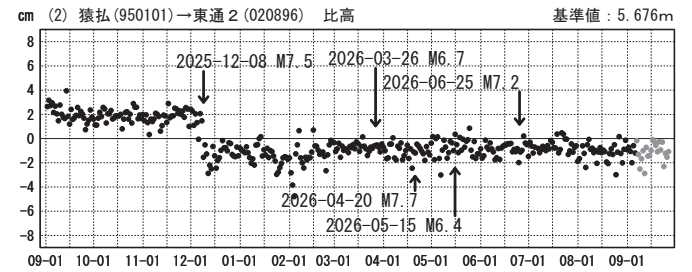
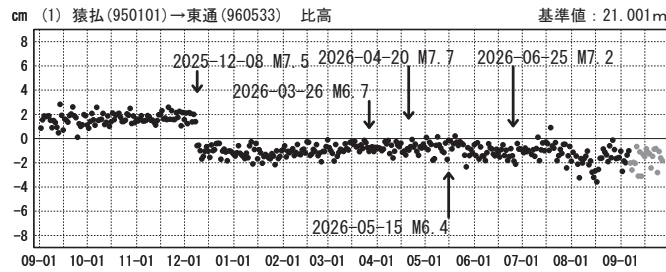
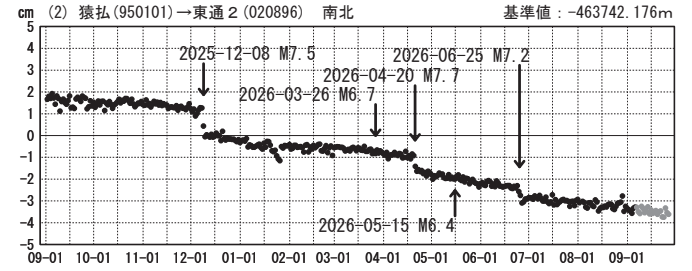
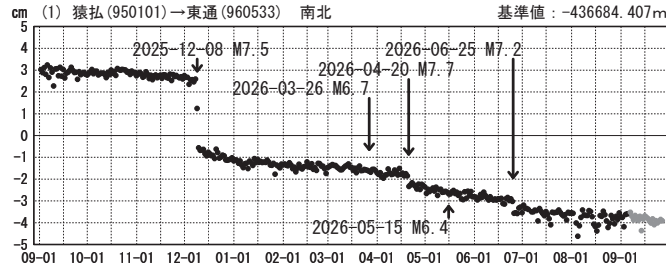
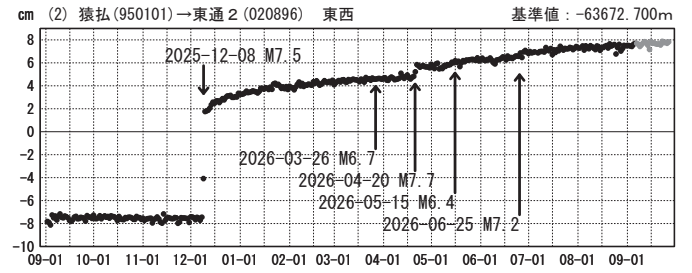
※5月15日の宮城県沖の地震及び6月25日の岩手県沖の地震に伴う地殻変動を含んでいる.
国土地理院

成分変化グラフ

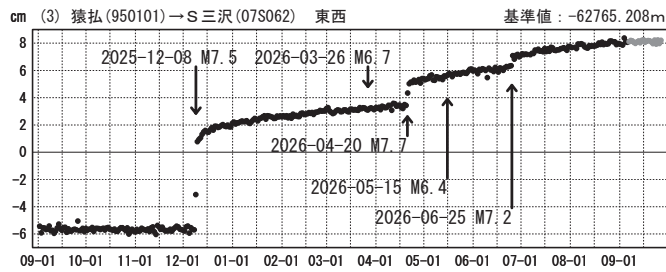
期間：2025-09-01～2026-09-26 JST



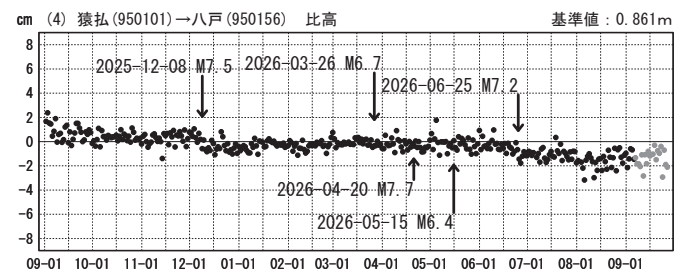
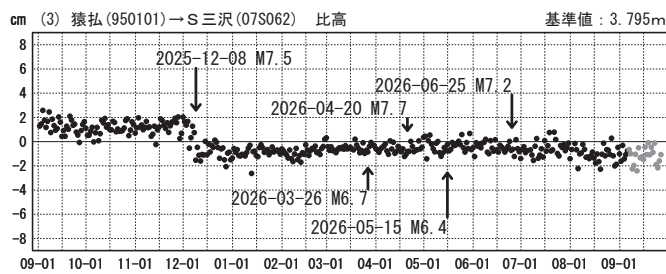
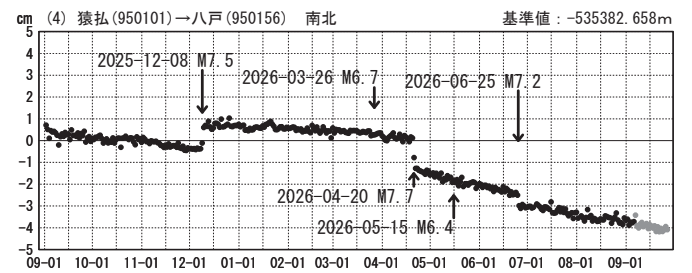
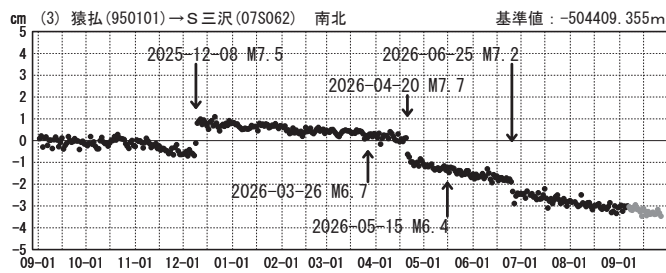
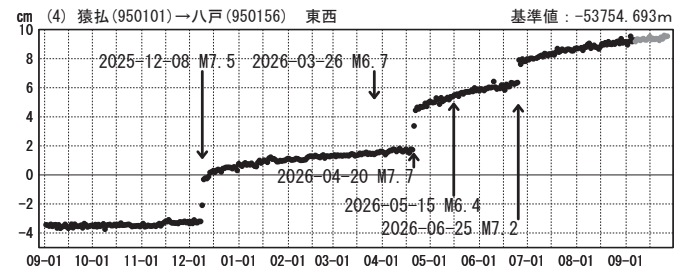
期間：2025-09-01～2026-09-26 JST



期間：2025-09-01～2026-09-26 JST



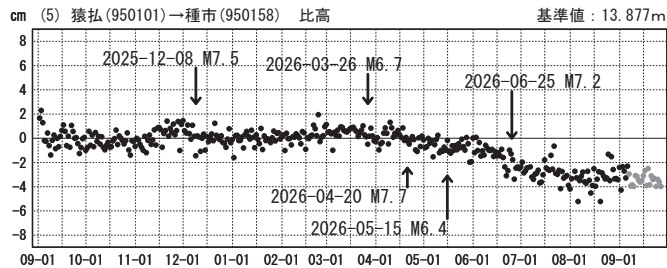
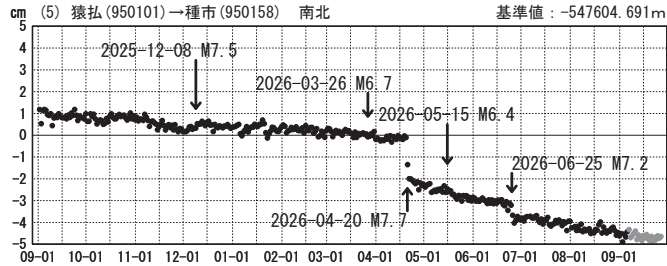
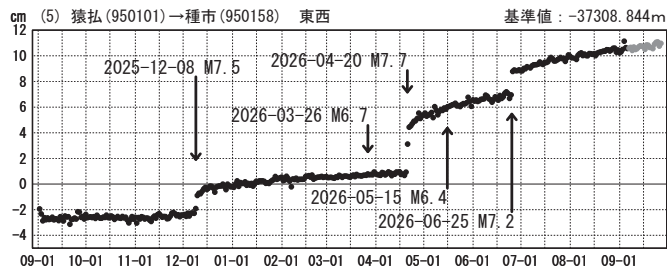
期間：2025-09-01～2026-09-26 JST



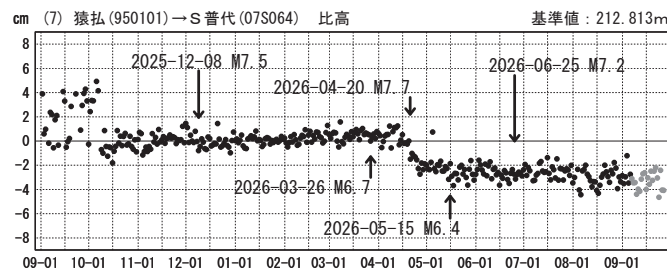
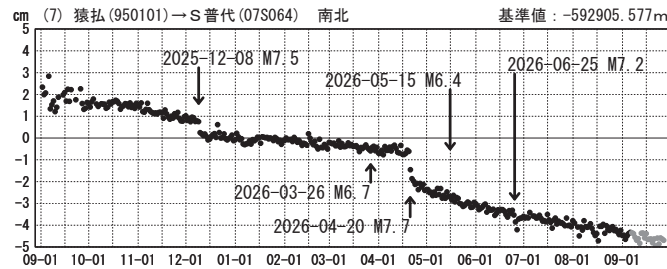
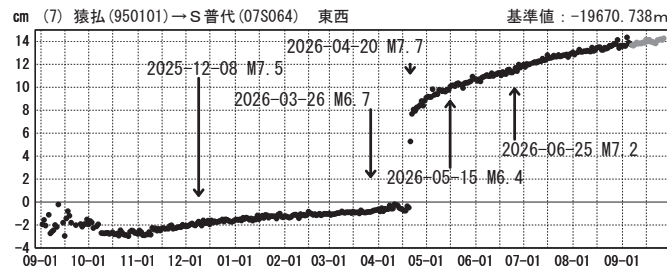
●—[F5. 1:最終解] ●—[R5. 1:速報解]

成分変化グラフ

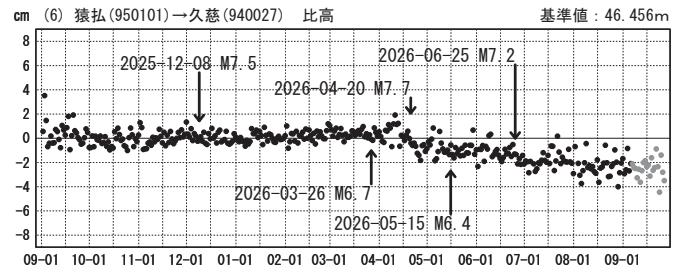
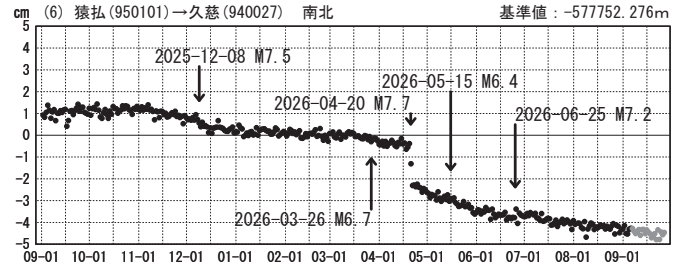
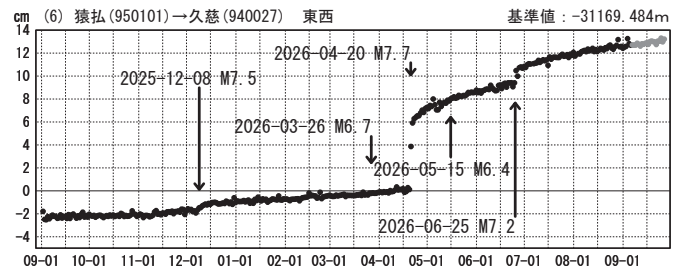
期間：2025-09-01～2026-09-26 JST



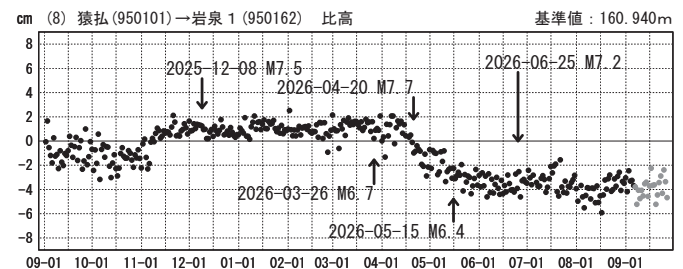
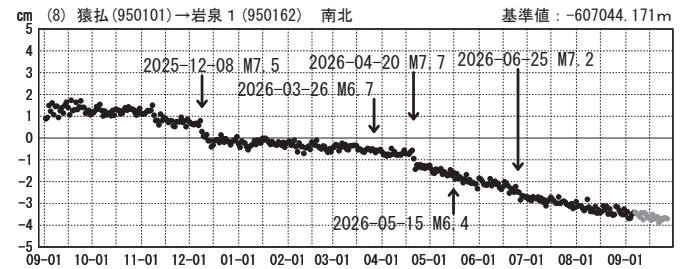
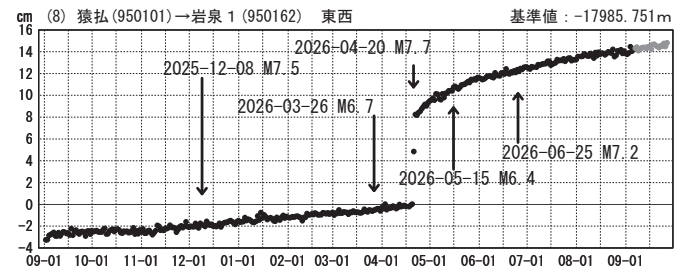
期間：2025-09-01～2026-09-26 JST



期間：2025-09-01～2026-09-26 JST



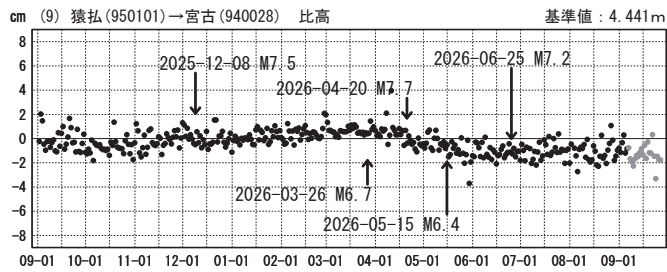
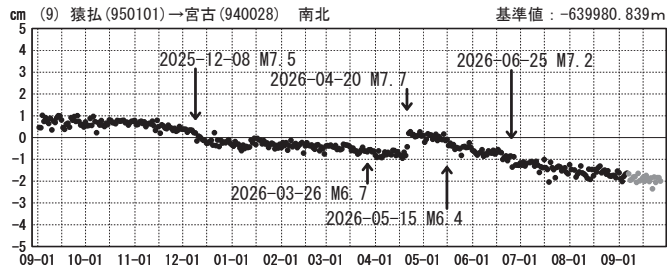
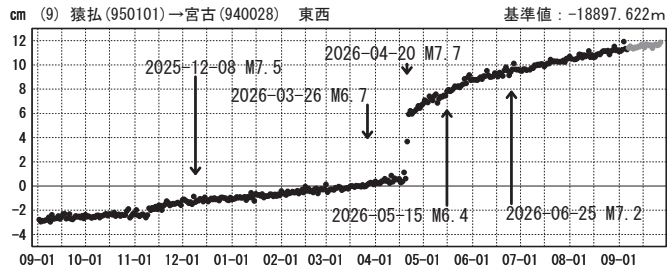
期間：2025-09-01～2026-09-26 JST



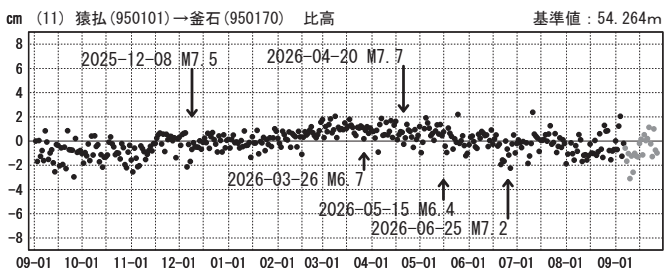
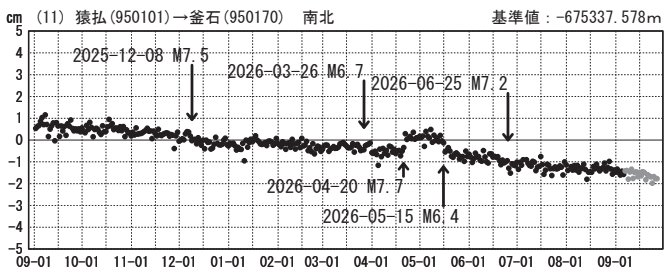
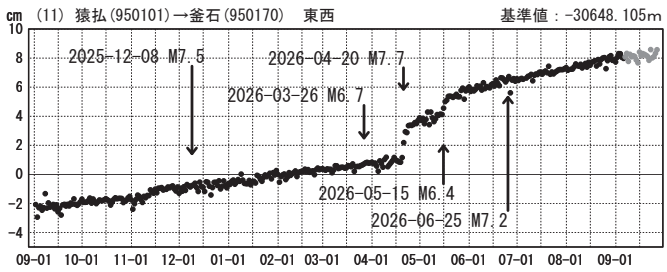
●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解]

成分変化グラフ

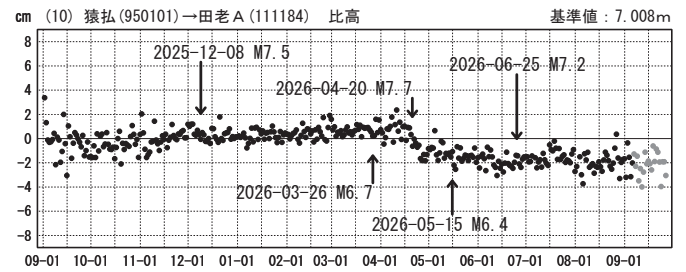
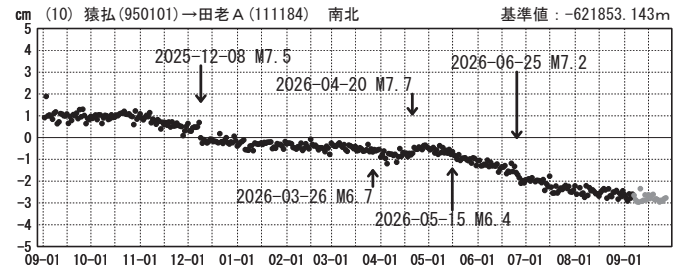
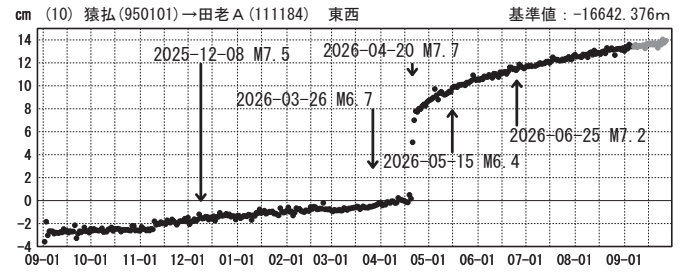
期間：2025-09-01～2026-09-26 JST



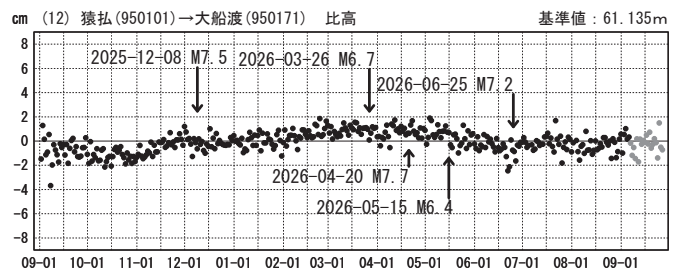
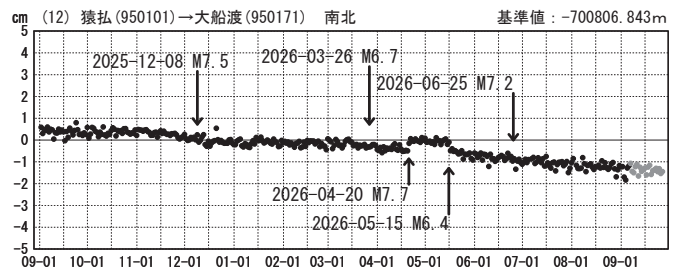
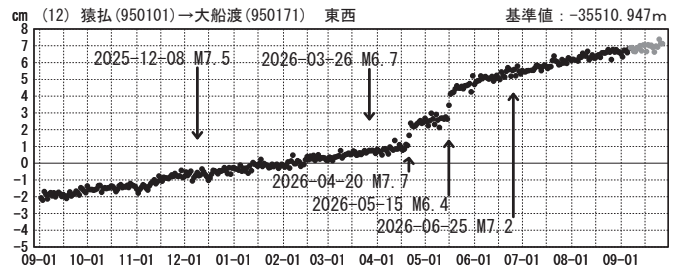
期間：2025-09-01～2026-09-26 JST



期間：2025-09-01～2026-09-26 JST



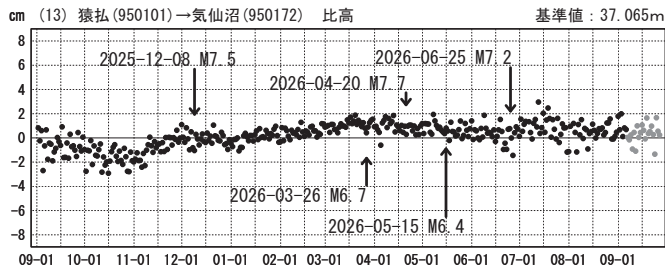
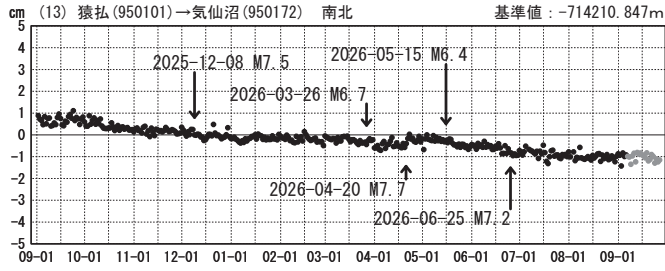
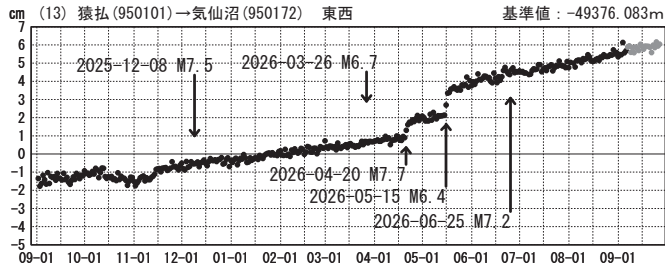
期間：2025-09-01～2026-09-26 JST



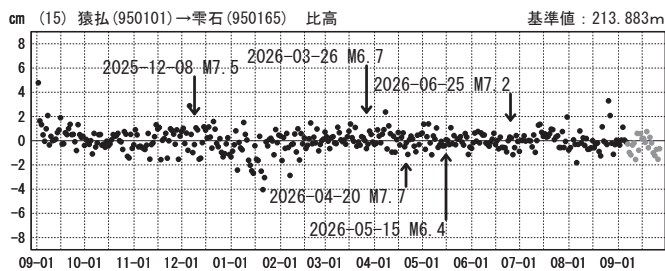
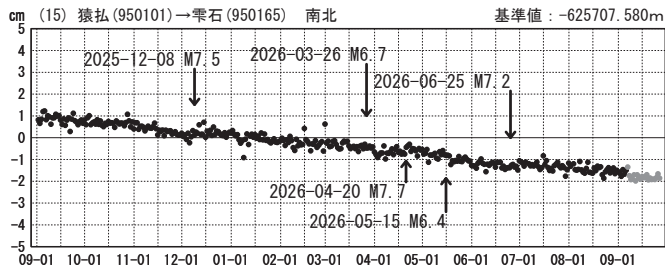
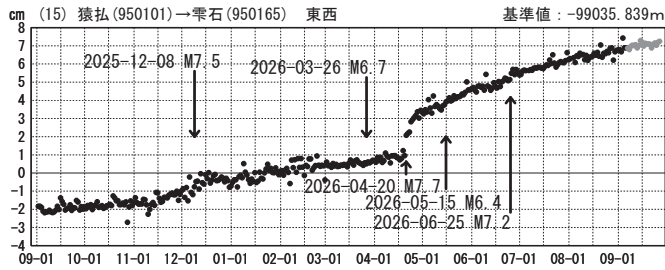
●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

成分変化グラフ

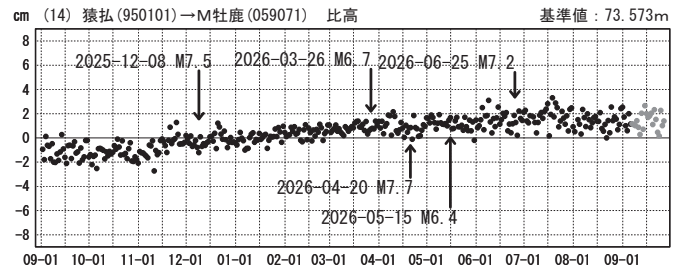
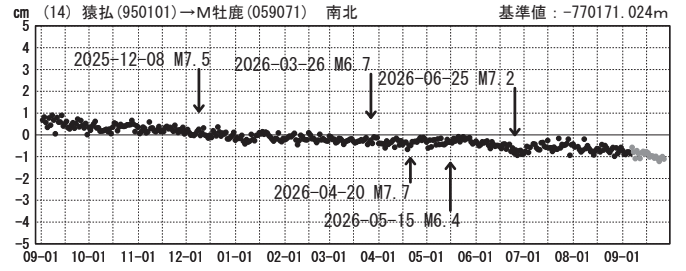
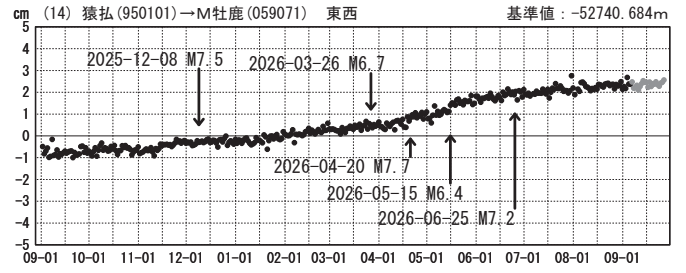
期間：2025-09-01～2026-09-26 JST



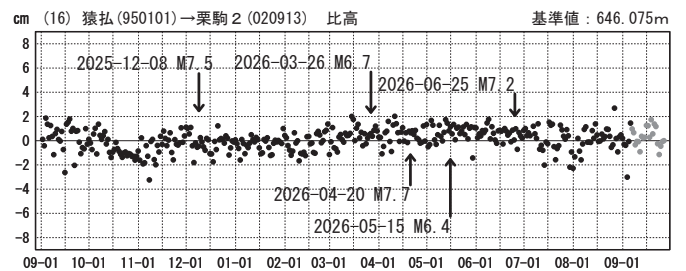
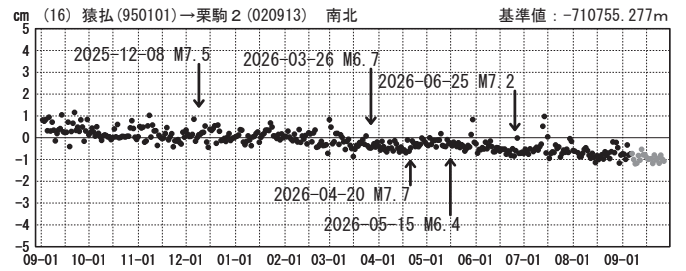
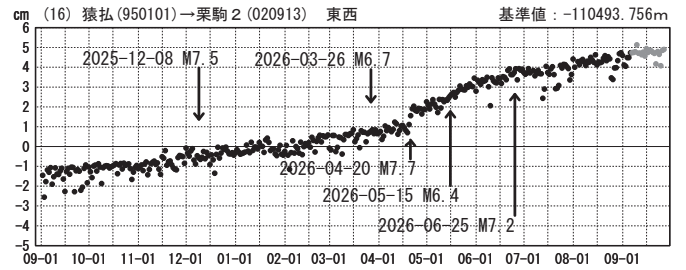
期間：2025-09-01～2026-09-26 JST



期間：2025-09-01～2026-09-26 JST



期間：2025-09-01～2026-09-26 JST

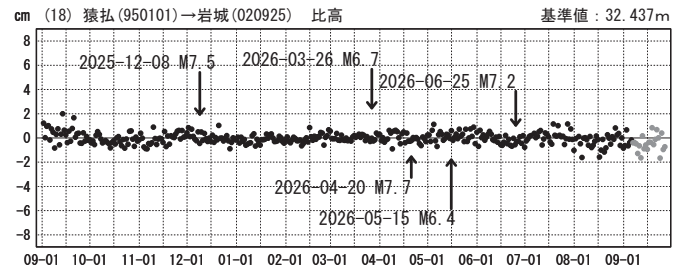
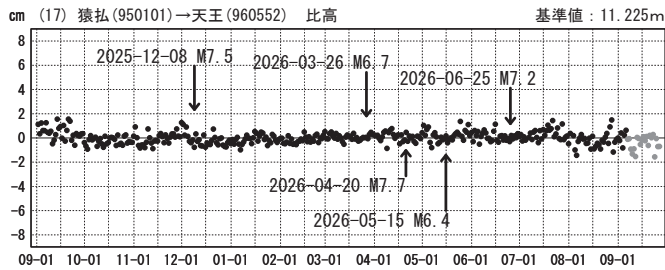
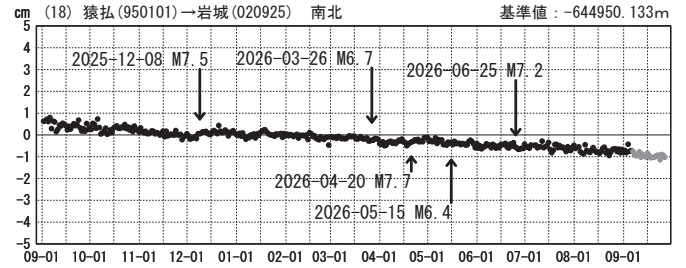
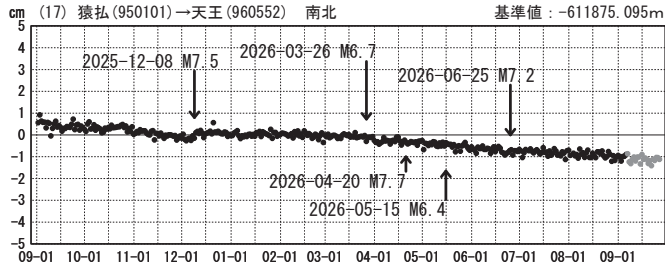
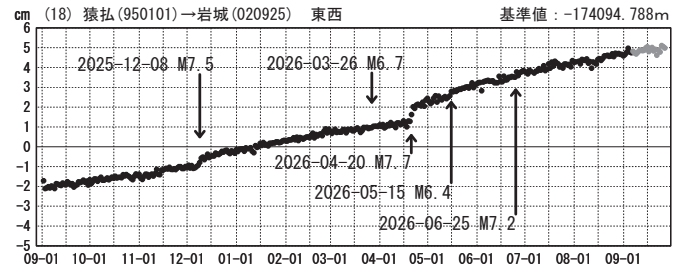
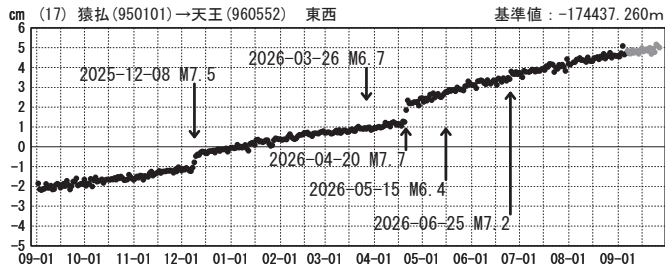


●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

成分変化グラフ

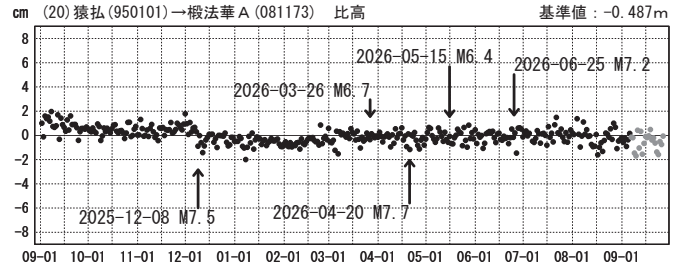
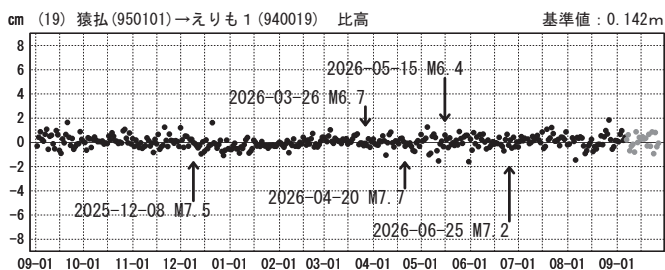
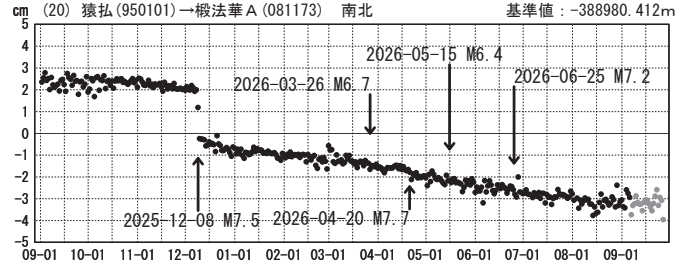
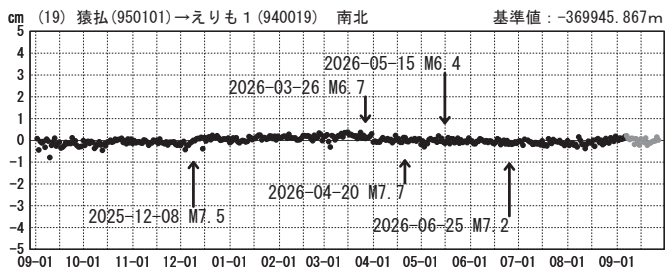
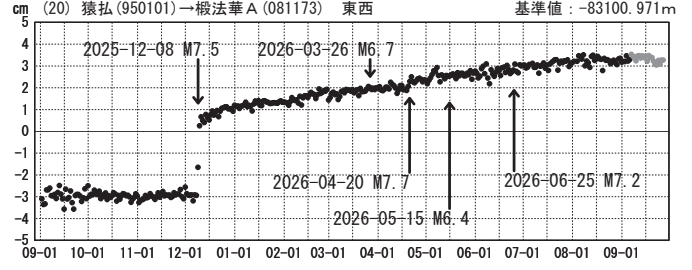
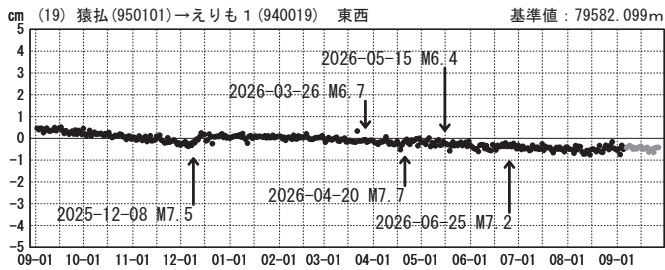
期間：2025-09-01～2026-09-26 JST

期間：2025-09-01～2026-09-26 JST



期間：2025-09-01～2026-09-26 JST

期間：2025-09-01～2026-09-26 JST



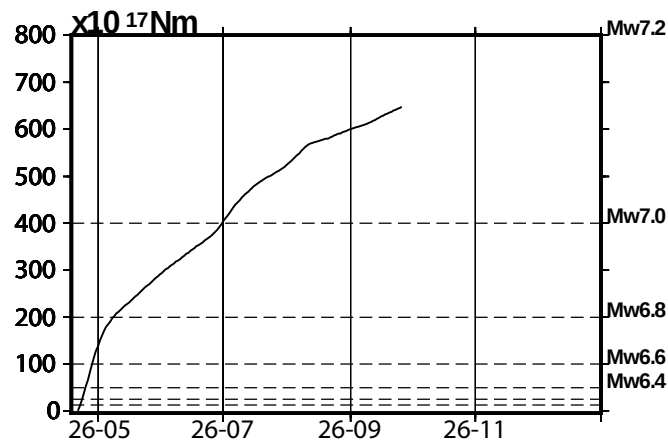
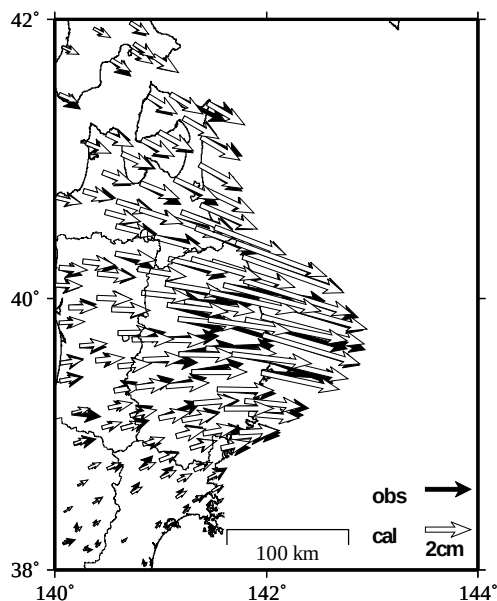
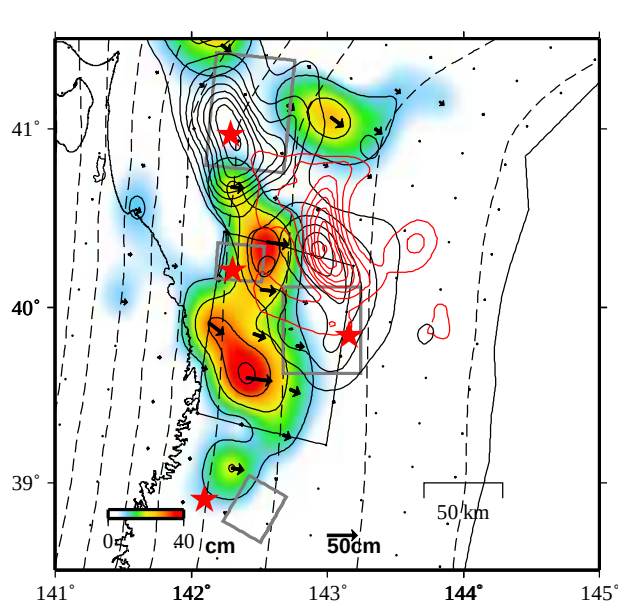
●— [F5. 1:最終解] ●— [R5. 1:速報解]

GNSSデータから推定された東北地方のゆっくりすべり（暫定）

推定すべり分布
(2026-04-21/2026-09-26)

観測値（黒）と計算値（白）の比較
(2026-04-21/2026-09-26)

モーメント* 時系列（試算）



Mw及び最大すべり量はプレート面に沿って評価した値を記載。

すべり量（カラー）及びすべりベクトルは水平面に投影したものを示す。

推定したすべり量が標準偏差(σ)の3倍以上のグリッドを黒色で表示している。

使用データ:GEONETによる日々の座標値(F5.1解、R5.1解)

F5.1解(2025-10-01/2026-09-05)※R5.1解 (2026-09-06/2026-09-26)

トレンド期間:2023-01-01/2024-12-31 (年周・半年周成分は補正なし)

モーメント計算範囲:左図の黒枠内側

観測値:3日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化した値

黒破線:太平洋プレート上面の等深線(Nakajima & Hasegawa 2006; Kita et al. 2010)

すべり方向:プレートの沈み込み方向 $\pm 15^\circ$ に拘束

赤星:2025-12-08青森県東方沖、2026-04-20三陸沖、2026-05-15宮城県沖、2026-06-25岩手県沖の地震の震央（気象庁一元化震源）

矩形断層（灰）：2025-12-08青森県東方沖、2026-04-20三陸沖、2026-05-15宮城県沖、2026-06-25岩手県沖の地震

固定局:猿払

*電子基準点の保守等による変動は補正している。

*令和6年能登半島地震に伴う地殻変動は補正している。

*以下の地震に伴う地殻変動は補正している。

2025-11-09三陸沖の地震、2025-12-08青森県東方沖の地震、2026-03-26三陸沖の地震

2026-04-20三陸沖の地震、2026-05-15宮城県沖の地震、2026-06-25岩手県沖の地震

*平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の粘弾性変形は補正している(Suito 2017)

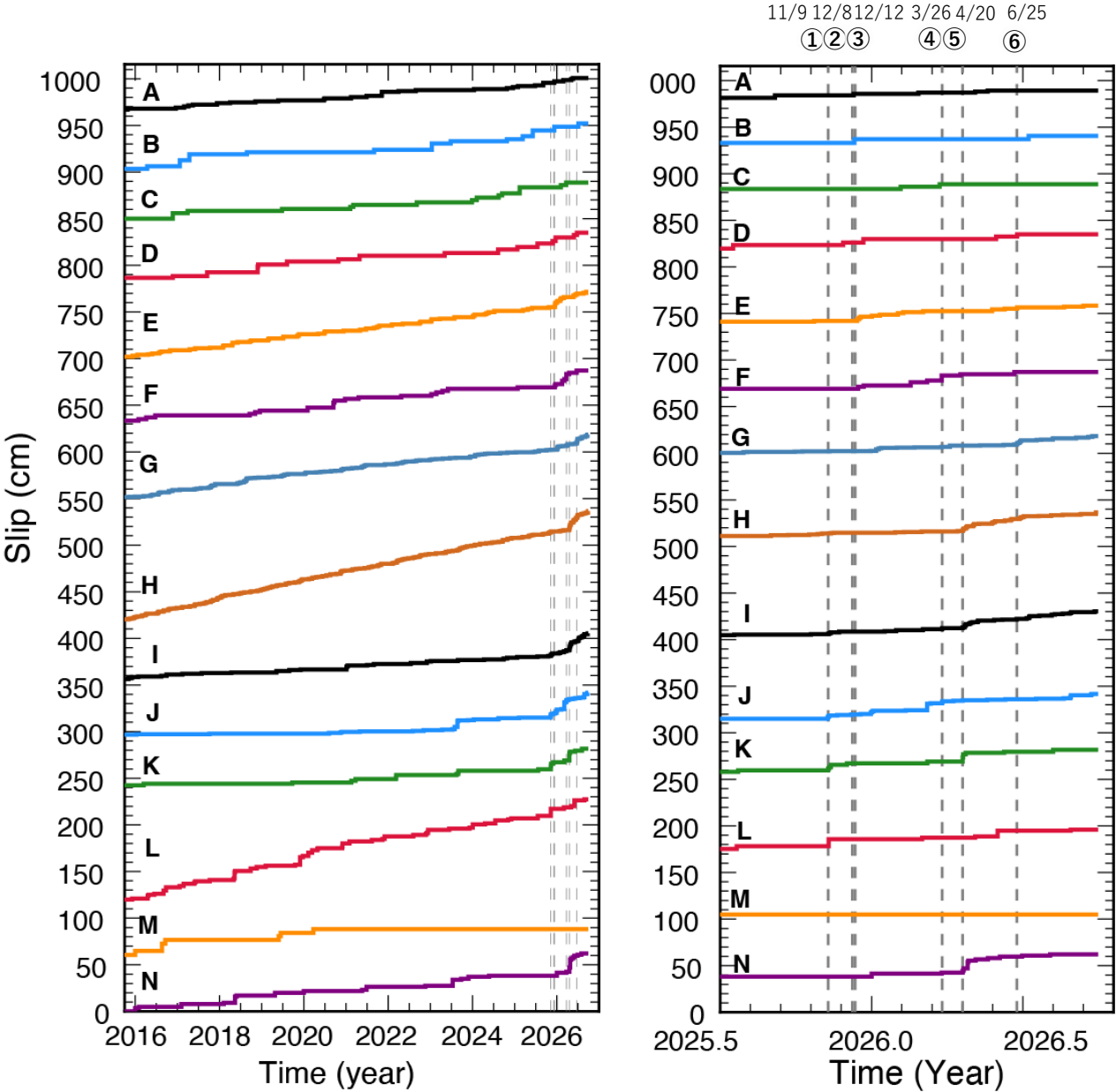
*2025-12-08青森県東方沖、2026-04-20三陸沖の地震の粘弾性変形は補正している(Han et al.(2014)を参考)

*共通誤差成分を推定している。

*モーメント:断層運動のエネルギーの目安となる量。

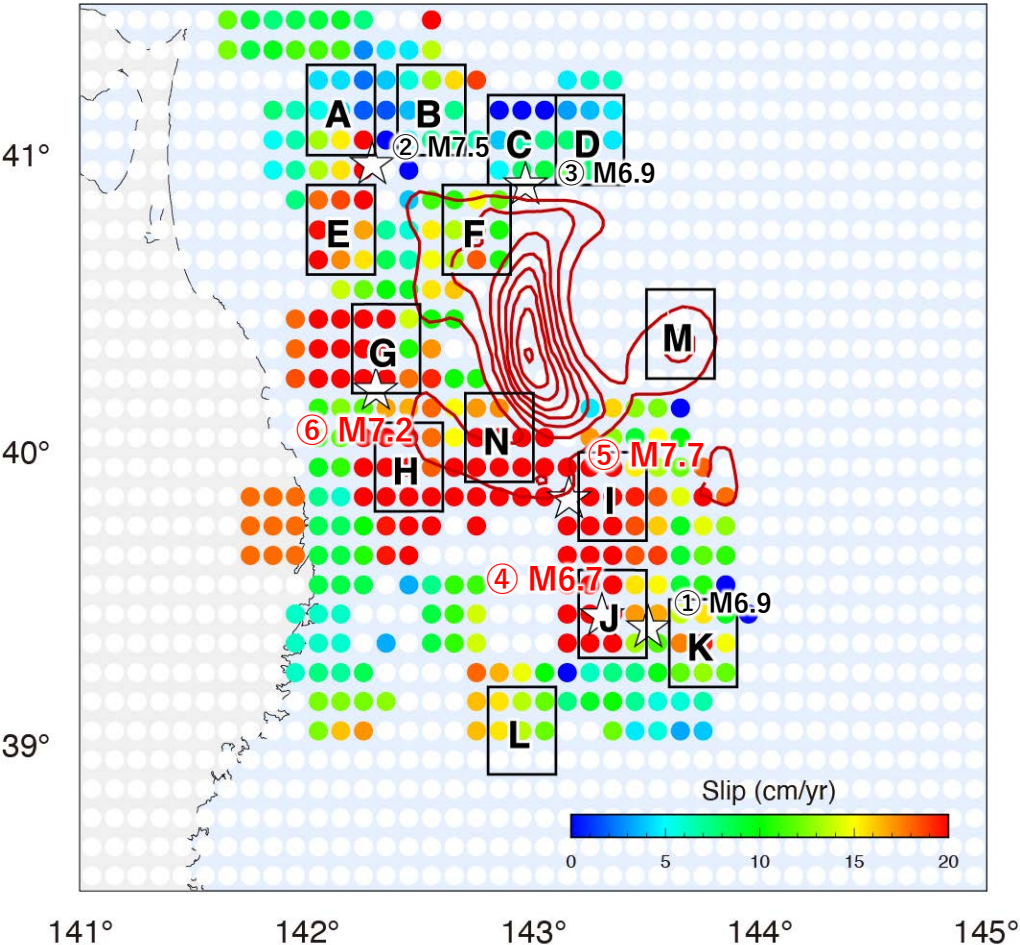
繰り返し地震から推定した非地震性すべりの推移

東京大学地震研究所
繰り返し地震カタログは気象庁作成



領域ごとの繰り返し地震の積算滑り：非地震性すべりの推移を表す

2026 1/1- 9/30 (Earthquake ④-⑥ occurred)



0.3度×0.3度グリッド領域内の平均累積すべり速度を、0.1度シフトで表示
赤コンターは永井・他(2001) による1994年三陸はるか沖地震のすべり分布

繰り返し地震データ： 2015/10/26 -2026/9/30

青森県東方沖から三陸沖の地震活動域比較

震央分布図

(1994年12月28日～1995年1月31日及び2025年11月1日

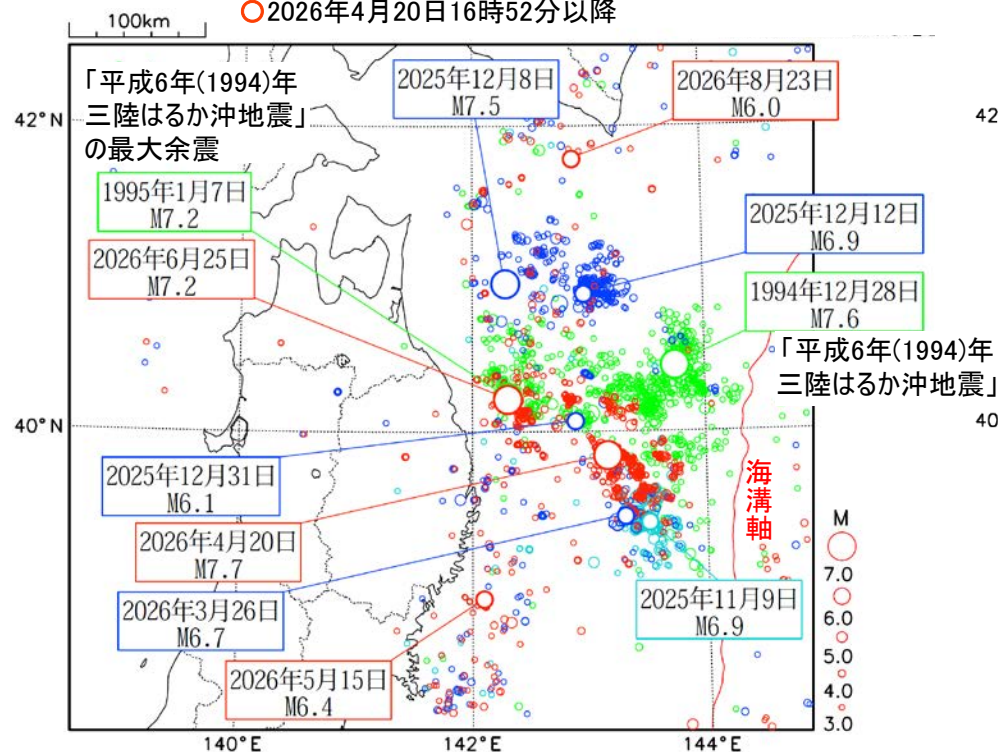
～2026年9月30日、深さ0～90km、M $\geq$ 3.0)

● 1994年12月28日～1995年1月31日

● 2025年11月1日～2025年12月8日23時14分

● 2025年12月8日23時15分～2026年4月20日16時51分

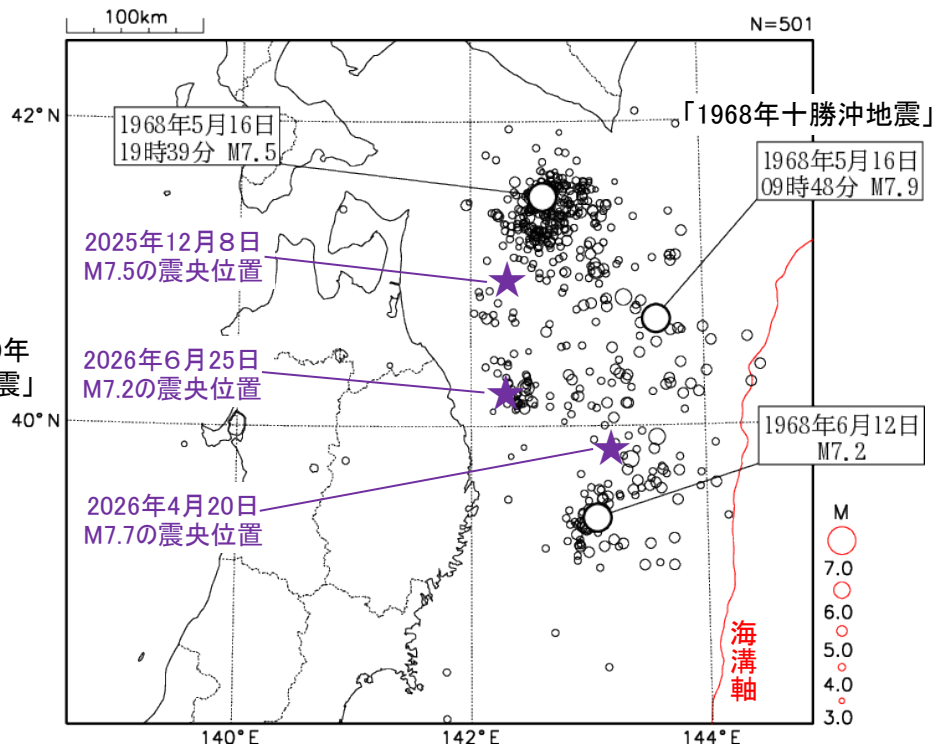
● 2026年4月20日16時52分以降



震央分布図

(1968年5月16日～1968年6月15日、

深さ0～90km、M $\geq$ 3.0)



左図には、「平成6年(1994年)三陸はるか沖地震」の約1か月分の地震活動域、2025年11月9日三陸沖の地震活動域、2025年12月8日青森県東方沖の地震活動域及び2026年4月20日三陸沖の地震活動域等を示している。

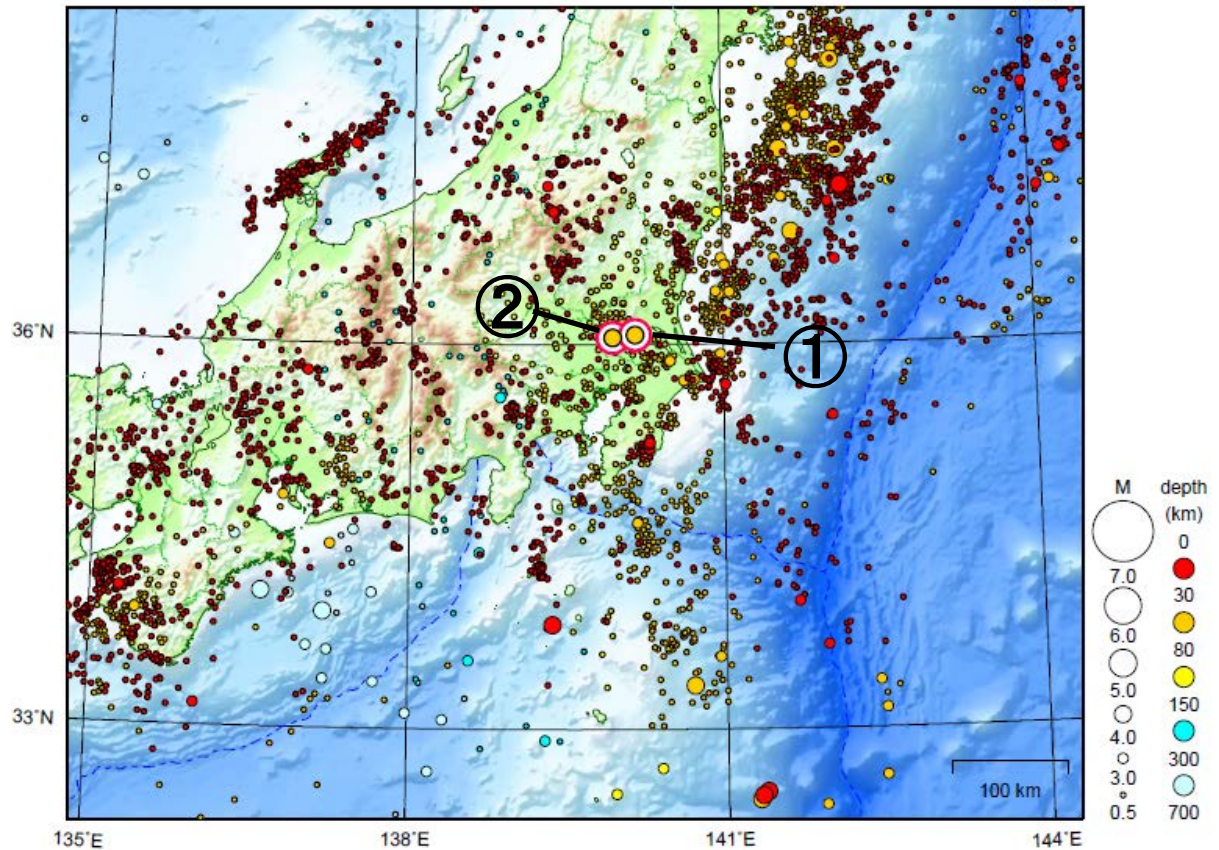
右図には、「1968年十勝沖地震」の約1か月分の地震活動域を示している。

- ・「平成6年(1994年)三陸はるか沖地震」、2025年11月及び2026年4月の三陸沖の地震、2025年12月の青森県東方沖の地震の活動域は、すみ分けて見える。
- ・「1968年十勝沖地震」の活動域は、上記の活動域を包含するように広がっている。
- ・2026年6月25日の岩手県沖の地震(M7.2)は、「平成6年(1994年)三陸はるか沖地震」の最大余震(1995年1月7日、M7.2)とほぼ同じ場所で発生している。

関東・中部地方

2026/09/01 00:00 ~ 2026/09/30 24:00

N=6292



地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOP030及び米国国立地球物理データセンターのETOPO2v2を使用

- ① 9月17日に茨城県南部でM4.9の地震(最大震度3)が発生した。
- ② 9月29日に茨城県南部でM4.9の地震(最大震度4)が発生した。

(図の範囲外)

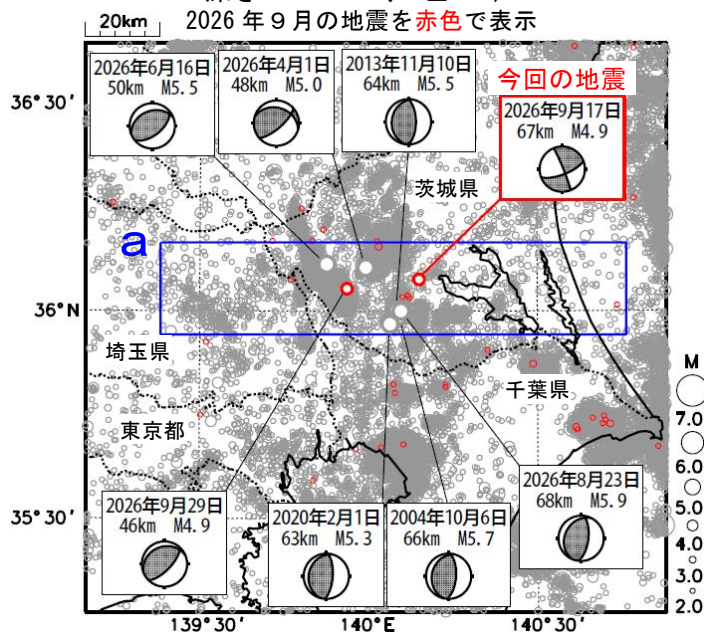
9月23日にマリアナ諸島でM6.0の地震(震度1以上を観測した地点はなし)が発生した。

[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

9月17日 茨城県南部の地震

震央分布図
(1997年10月1日～2026年9月30日、
深さ0～120km、 $M \geq 2.0$)

2026年9月の地震を赤色で表示

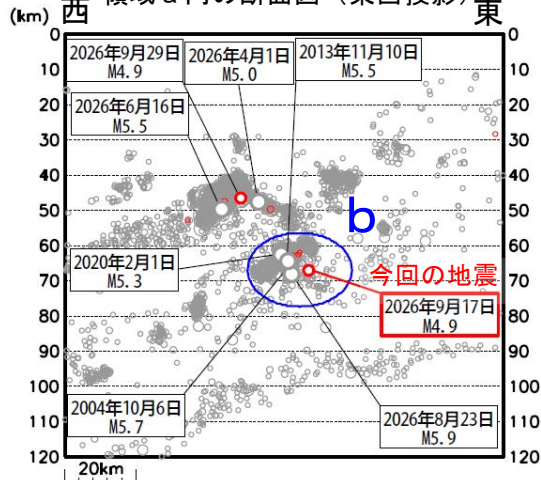


2026年9月17日00時07分に茨城県南部の深さ67kmでM4.9の地震(最大震度3)が発生した。この地震は、発震機構が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、太平洋プレート内部で発生した。

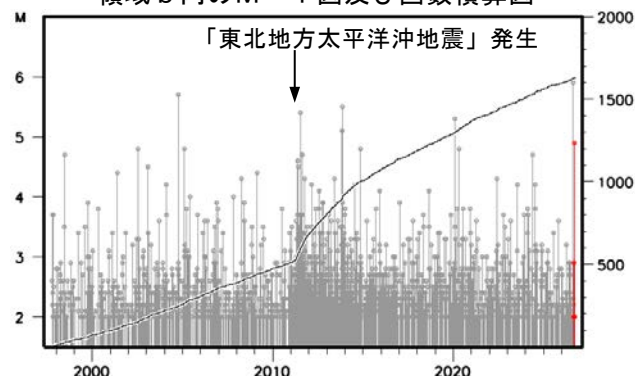
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域b)はM4.0以上の地震が時々発生しており、「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」(以下、「東北地方太平洋沖地震」)発生以降は、より地震活動が活発となった。2026年8月23日にはM5.9の地震(最大震度5弱)が発生し、負傷者38人などの被害が生じた(被害は総務省消防庁による)。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域c)では、M6.0以上の地震が時々発生している。

領域a内の断面図(東西投影)

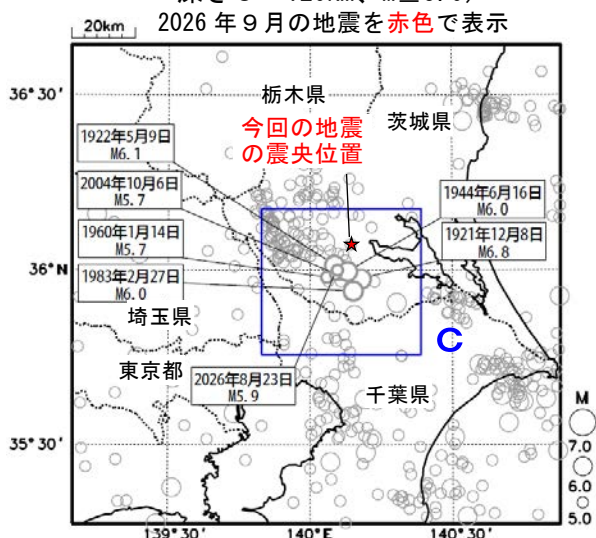


領域b内のM-T図及び回数積算図

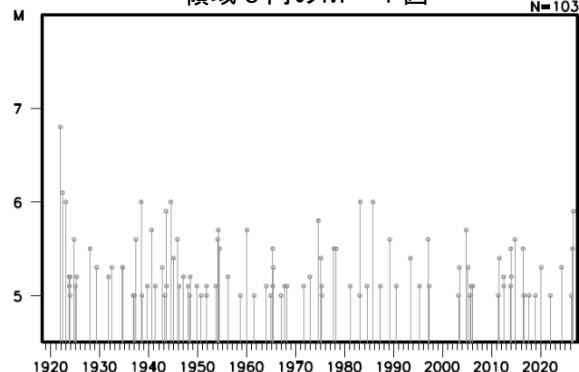


震央分布図
(1919年1月1日～2026年9月30日、
深さ0～120km、 $M \geq 5.0$)

2026年9月の地震を赤色で表示

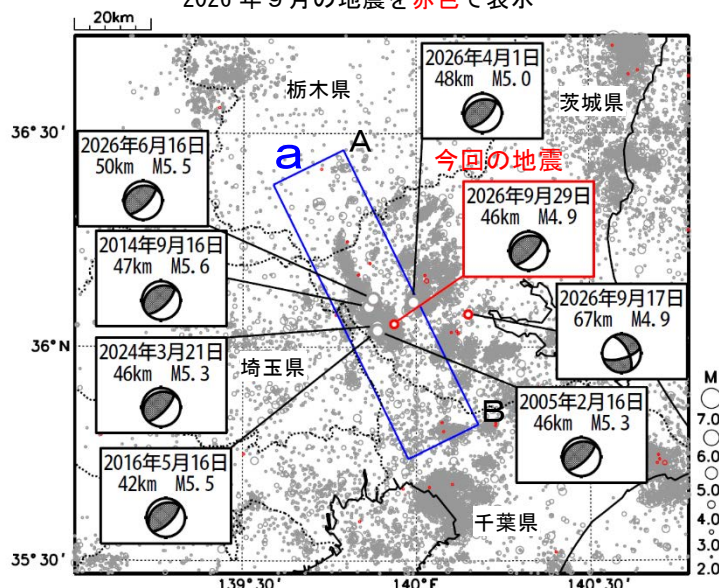


領域c内のM-T図



9月29日 茨城県南部の地震

震央分布図
(1997年10月1日～2026年9月30日、
深さ0～120km、 $M \geq 2.0$)
2026年9月の地震を赤色で表示

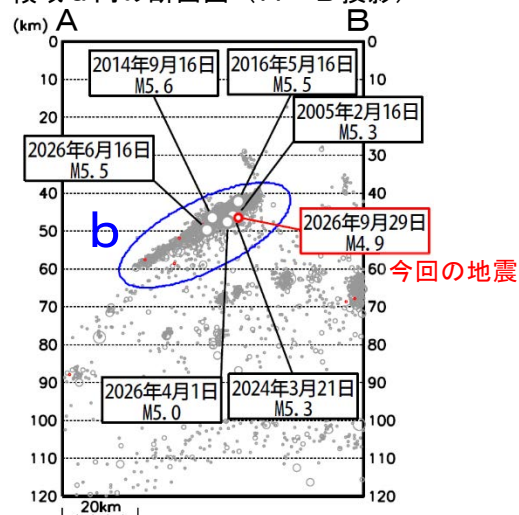


2026年9月29日04時45分に茨城県南部の深さ46kmで $M 4.9$ の地震（最大震度4）が発生した。この地震は、発震機構が北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

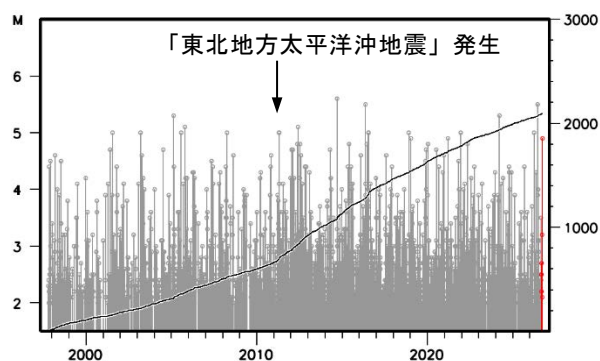
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）は $M 5.0$ 以上の地震が時々発生しており、「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」（以下、「東北地方太平洋沖地震」）発生以降は、より地震活動が活発となった。2014年9月16日には $M 5.6$ の地震（最大震度5弱）が発生し、負傷者9人などの被害を生じた（被害は総務省消防庁による）。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、 $M 6.0$ 以上の地震が時々発生している。

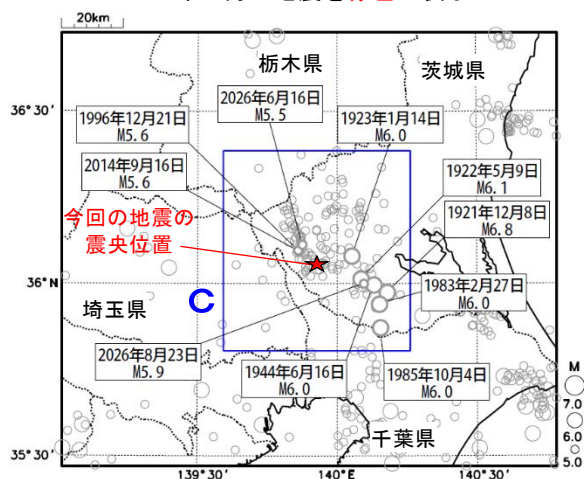
領域a内の断面図（A－B投影）



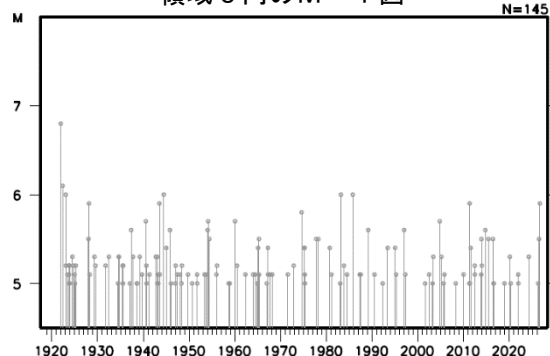
領域b内のM－T図及び回数積算図



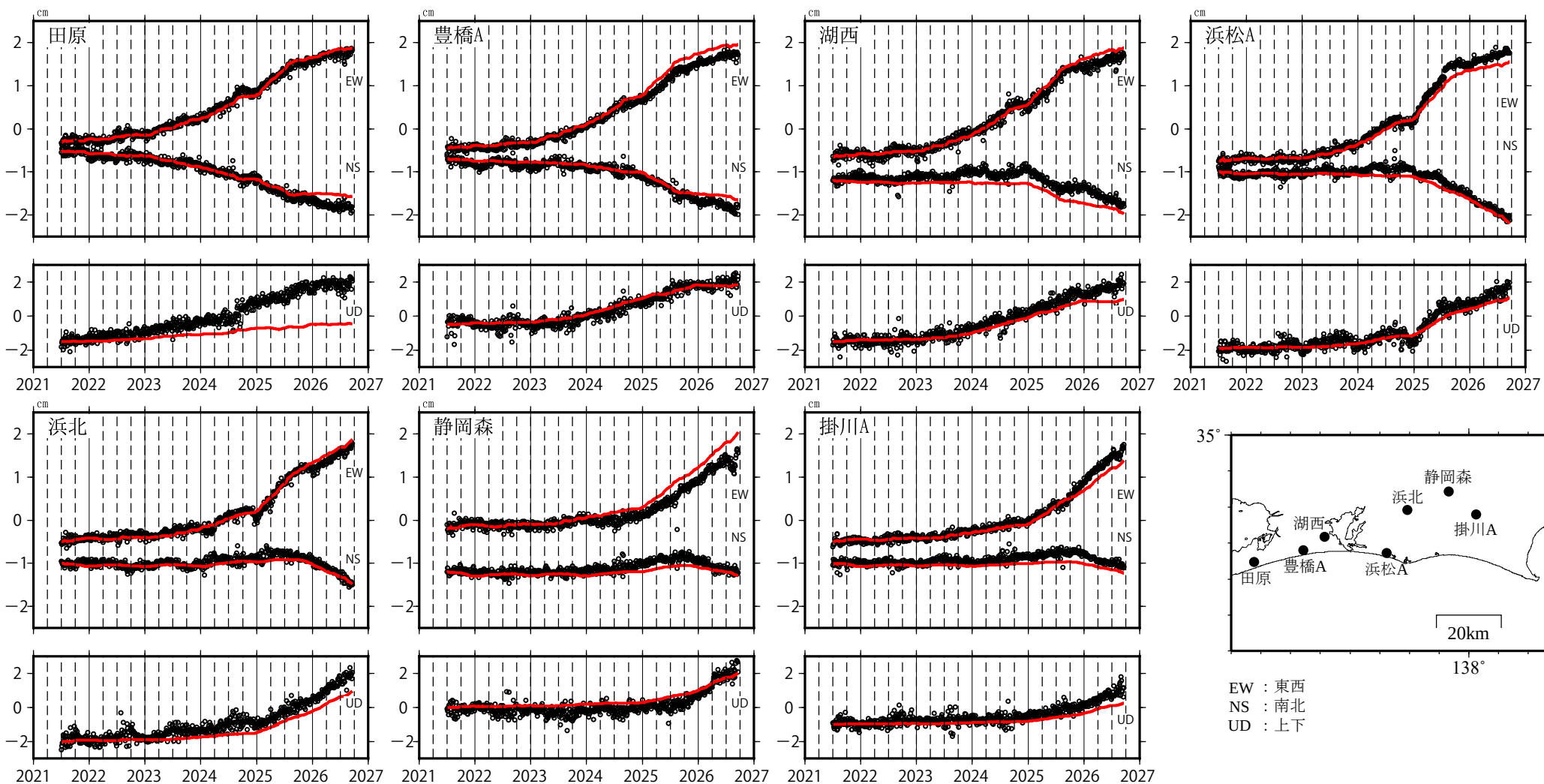
震央分布図
(1919年1月1日～2026年9月30日、
深さ0～120km、 $M \geq 5.0$)
2026年9月の地震を赤色で表示



領域c内のM－T図

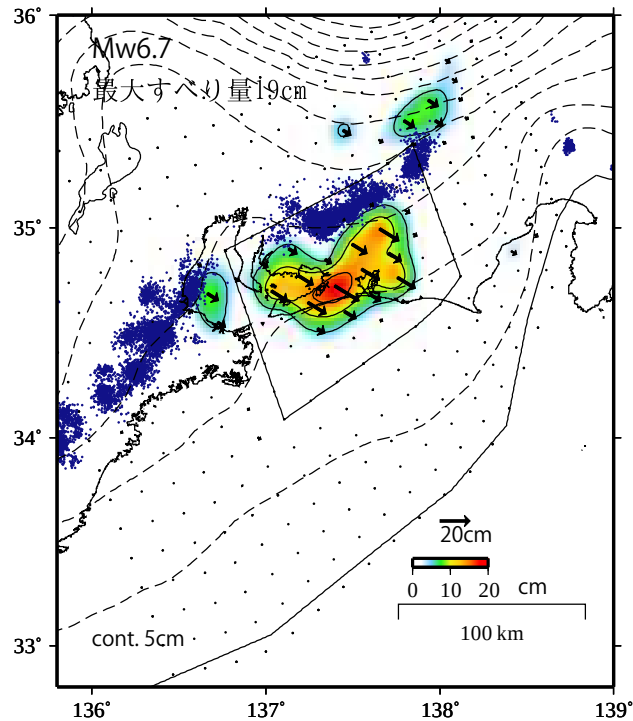


東海地域の観測点の座標時系列(黒丸)と計算値(赤線) 時間依存のインバージョン

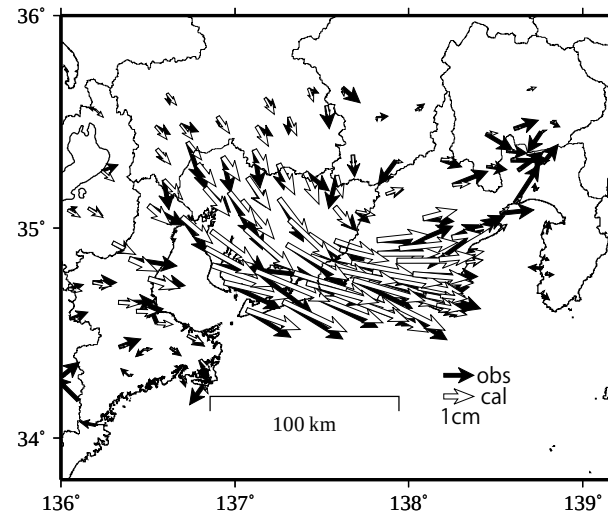


GNSSデータから推定された東海地域の長期的ゆっくりすべり(暫定)

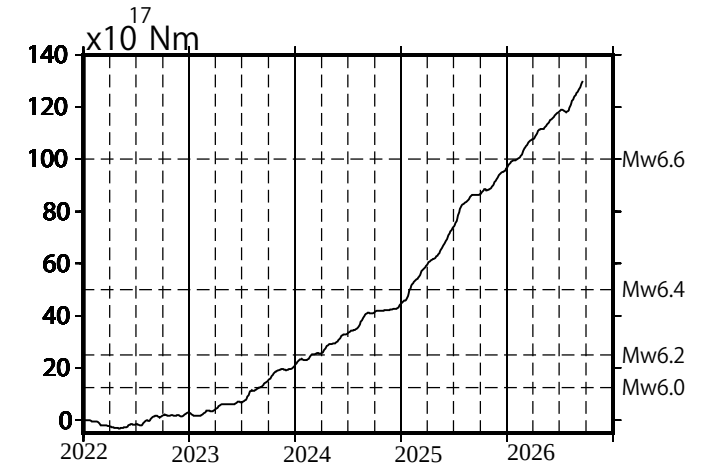
推定すべり分布
(2022-01-01/2026-09-19)



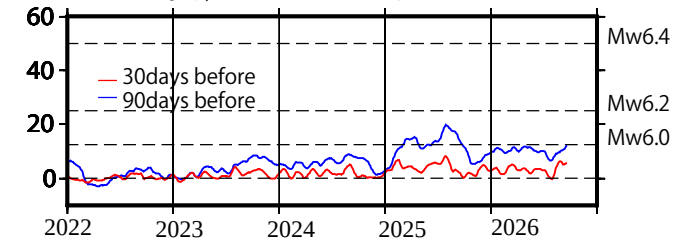
観測値(黒)と計算値(白)の比較
(2022-01-01/2026-09-19)



モーメント時系列(試算)



モーメント変化量の時間変化(30日間及び90日間)



Mw及び最大すべり量はプレート面に沿って評価した値を記載している。
すべり量(カラー)及びすべりベクトルは水平面に投影したものを示している。
推定したすべり量が標準偏差(σ)の3倍以上のグリッドを黒色で示している。

使用データ: GEONETによる日々の座標値(F5.1解、R5.1解)

F5.1解(2021-07-01/2026-08-29) R5.1解(2026-08-30/2026-09-19)

トレンド期間: 2020-01-01/2022-01-01 (年周・半年周成分は補正していない)

モーメント計算範囲: 左図の黒枠内側

観測値: 3日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化した値

黒破線: フィリピン海プレート上面の等深線(Hirose et al., 2008)

すべり方向: プレートの沈み込み方向に拘束

青丸: 低周波地震(気象庁一元化震源)(期間: 2022-01-01/2026-09-19)

モーメント: 断層運動のエネルギーの目安となる量。

解析での補正内容

- * 電子基準点の保守等による変動
- * 共通誤差成分を推定
- * 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の粘弾性変形(Suito 2017)
- * 令和6年能登半島地震に伴う地殻変動
- * 令和6年能登半島地震の粘弾性変形(Suito 2025)
- * 短期的ゆっくりすべりに伴う地殻変動(2017-01/2026-09-02: 気象庁カタログによる)

固定局: 三隅

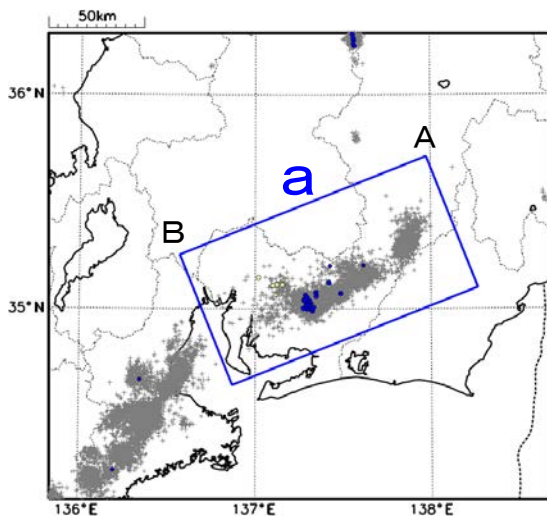
東海の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり

9月3日から9月4日にかけて、東海で深部低周波地震（微動）を観測した。

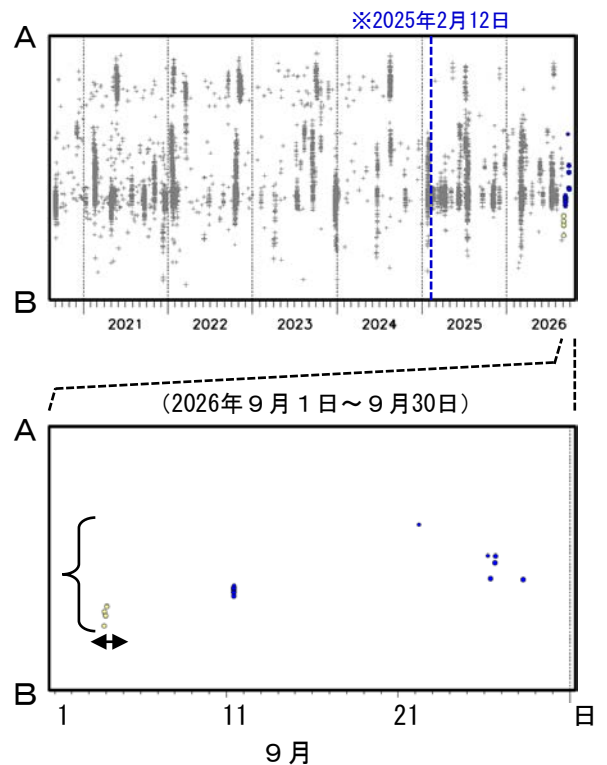
深部低周波地震（微動）活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

深部低周波地震（微動）活動

震央分布図
(2020年9月1日～2026年9月30日、
深さ0～60km、Mすべて)



領域a内の時空間分布図
(A-B投影)



凡例

＋：2020年9月1日～2026年8月31日

●：2026年9月1日～

ただし、ひずみ変化と同期して観測された深部低周波地震（微動）活動の色分けは以下のとおり。

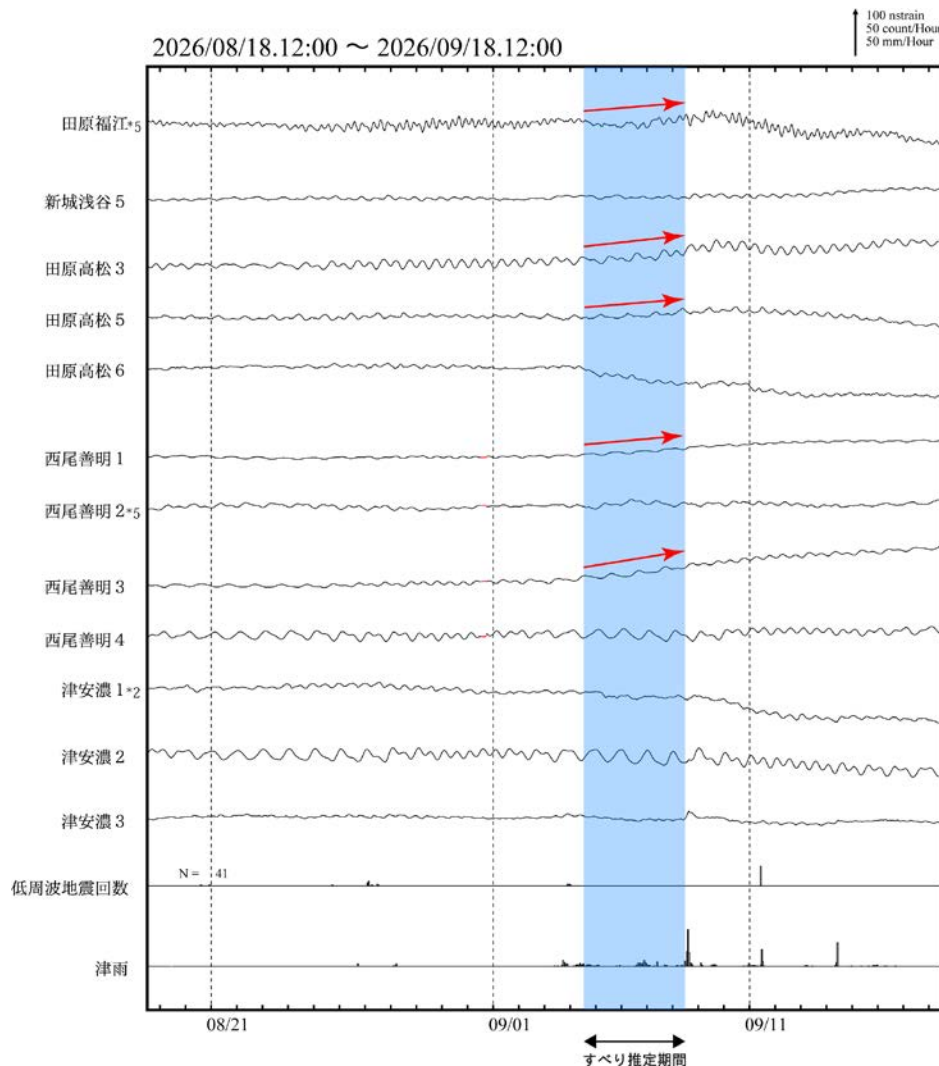
東海

●：9月3日00時～4日12時

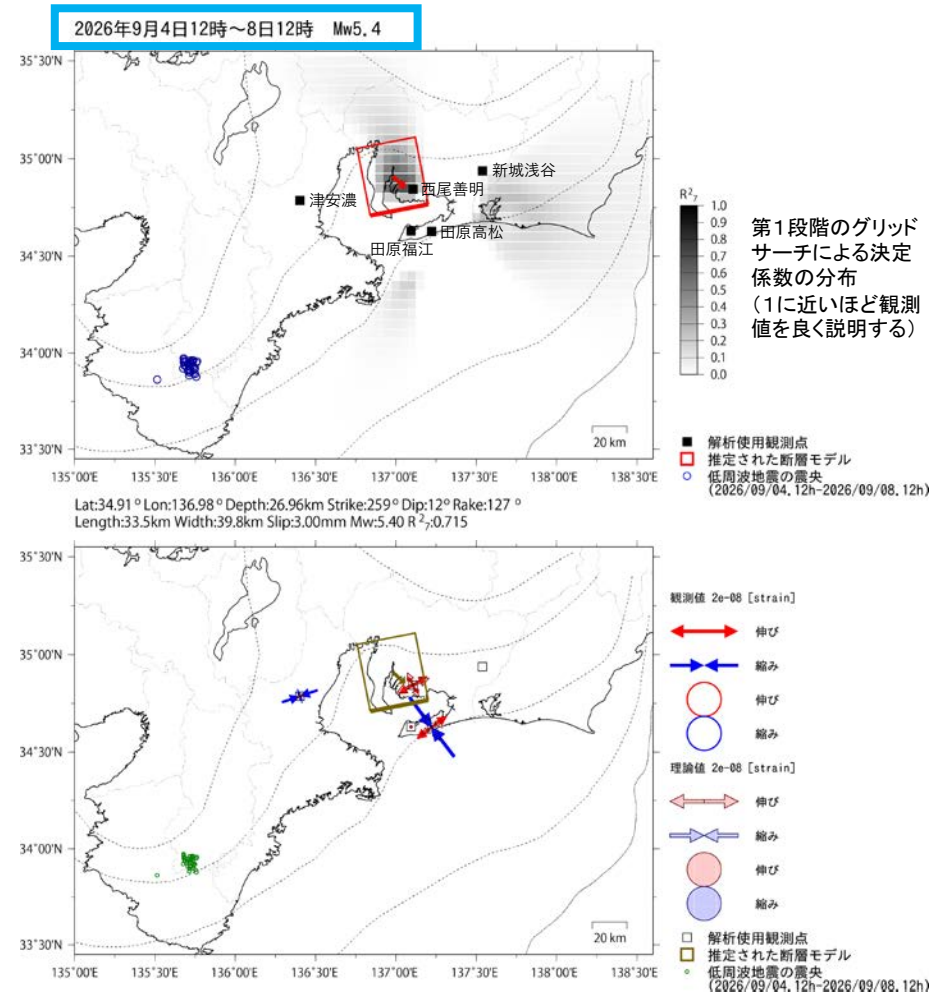
●：9月4日12時～8日12時

東海で観測した短期的ゆっくりすべり(9月4日～8日)

愛知県から三重県で観測されたひずみ変化



西尾善明及び津安濃は産業技術総合研究所のひずみである。
解析に使用したチャンネルについては背景色を塗り、そのうち有意な変化が見られたチャンネルに赤矢印を描画している。
低周波地震回数はゆっくりすべりを示す断層モデル周辺で発生したものを積算している。

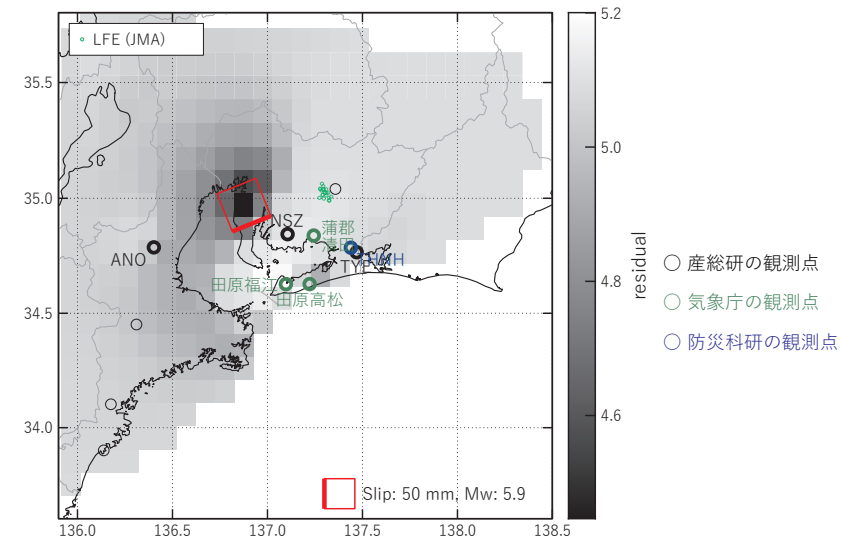


左図に示す観測点での変化量をもとにすべり推定を行ったところ、図の場所にゆっくりすべりを示す断層モデルが求まった。

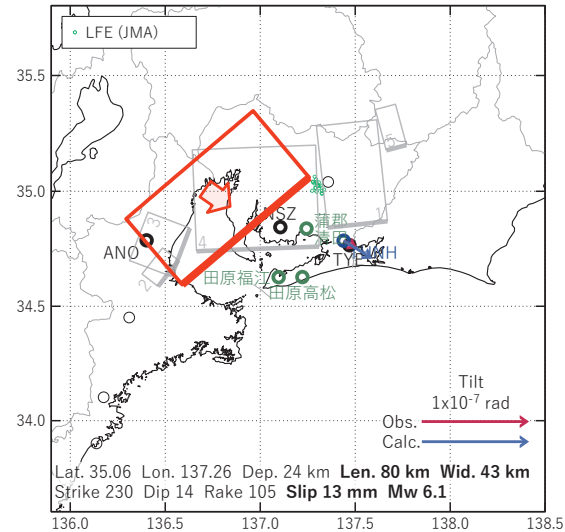
断層モデルの推定は、産総研の解析方法(板場ほか, 2012)を参考に以下の2段階で行う。
・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。
・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

[A] 2026/09/04PM-14

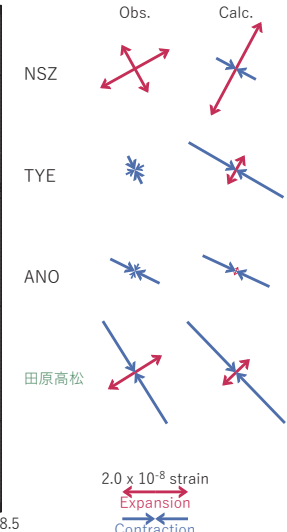
(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪



(b3) 体積歪

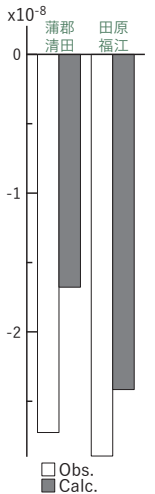


図3 2026/09/04PM-14の歪・傾斜変化（図2[A]）を説明する断層モデル。

- (a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの、対応する残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。
- (b1) (a)の断層面付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生した短期的SSEの推定断層面。
- 1: 2025/07/07-10 (Mw5.7), 2: 2026/02/19-20 (Mw5.6), 3: 2026/02/21-26 (Mw6.0), 4: 2026/03/02PM-07AM (Mw6.1), 5: 2026/03/11PM-14AM (Mw5.6)
- (b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。
- (b3) 体積歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

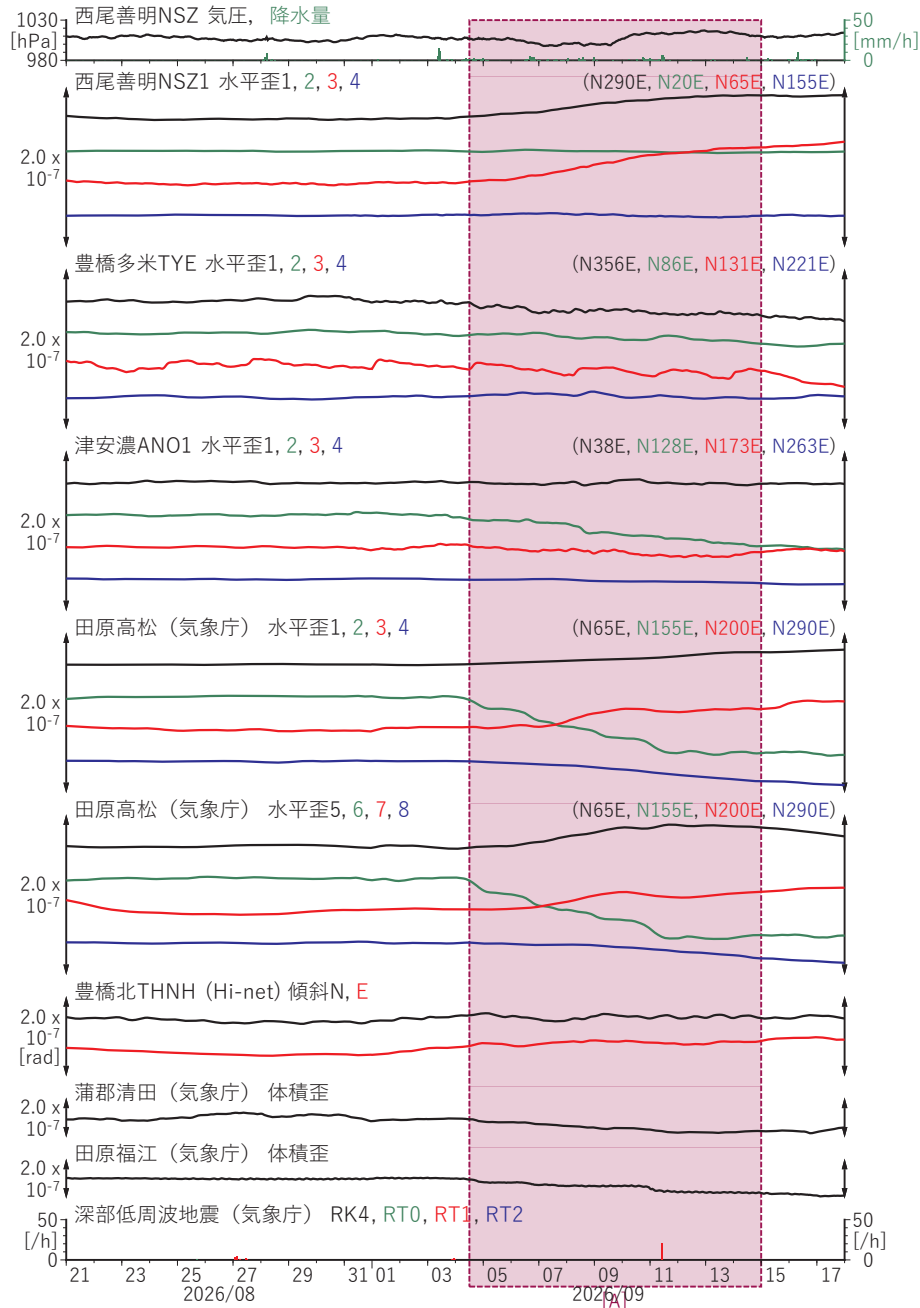
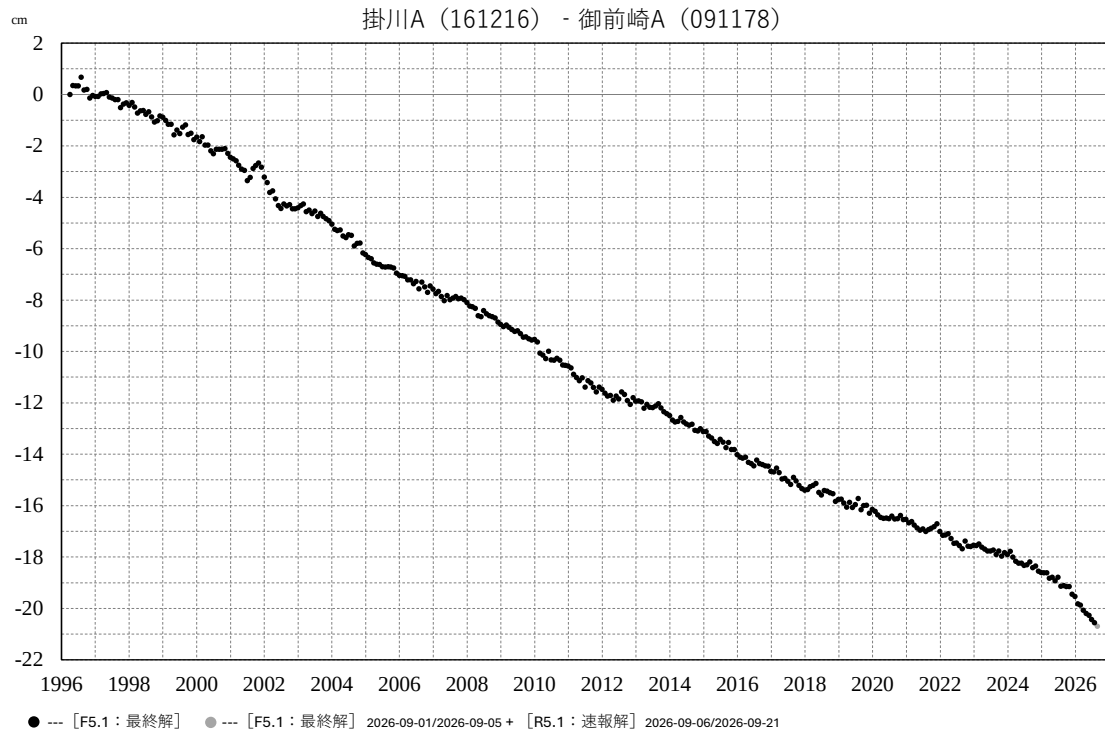


図2 東海・紀伊半島における歪・傾斜観測結果（2026/08/21 00:00 - 2026/09/18 00:00 (JST)）

御前崎 電子基準点の上下変動

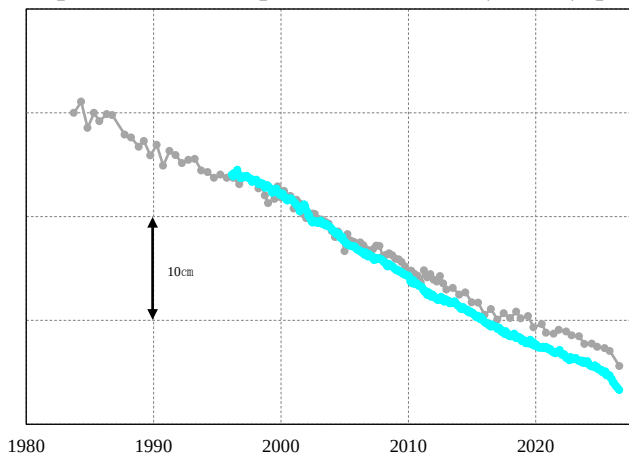
水準測量とGNSS連続観測

掛川に対して、御前崎が沈降する長期的な傾向が続いている。



- GNSS 連続観測のプロット点は、GEONET による日々の座標値 (F5.1:最終解 及び R5.1:速報解) から計算した値の月平均値。
- ※ 2009 年 8 月 11 日の駿河湾の地震に伴う電子基準点「御前崎」の局所的な変動について、地震前後の水準測量で得られた「御前崎」周辺の水準点との比高の差を用いて補正を行った。
- ※ 電子基準点「御前崎A」については、2010 年 3 月 23 日まで電子基準点「御前崎」のデータを使用。
- ※ 電子基準点「掛川A」については、2017 年 1 月 29 日まで電子基準点「掛川」のデータを使用。
- ※ 2026 年初頭頃から見られる沈降速度の増加は、東海地方の長期的ゆっくりすべりのすべりの中心が浜名湖の東側へ移動していることに伴う電子基準点「掛川A」等での変動の影響によるものである。

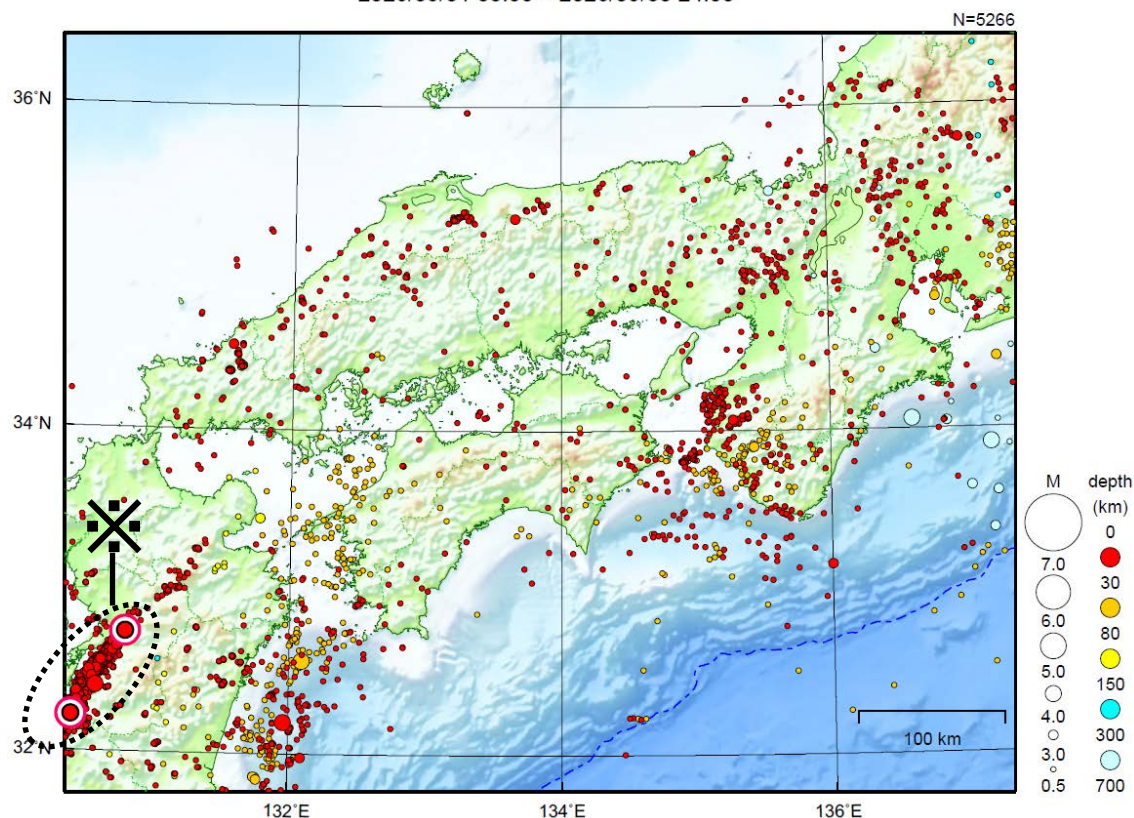
【長期間の上下変動】「固定局：掛川A (161216)」



- 水色のプロットは上記のGEONET による日々の座標値の月平均値。
- 灰色のプロットは電子基準点の最寄りの水準点「10150」の水準測量結果を示している (固定：140-1)。

近畿・中国・四国地方

2026/09/01 00:00 ~ 2026/09/30 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った地震活動はなかった。

※で示した地震については九州地方の資料を参照。

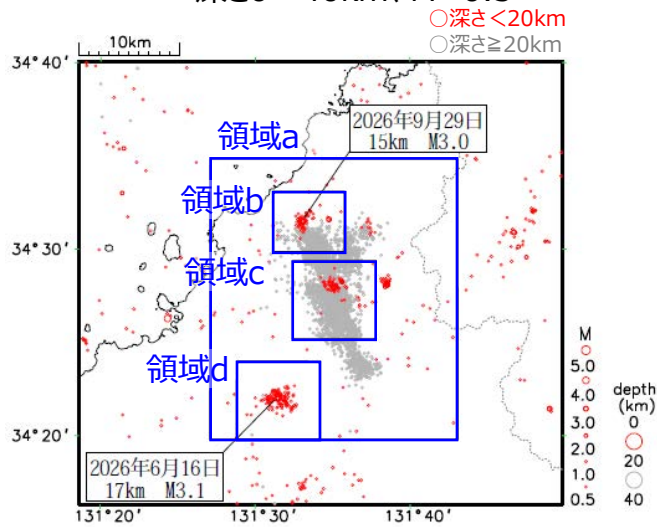
[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

山口県北部の地震活動

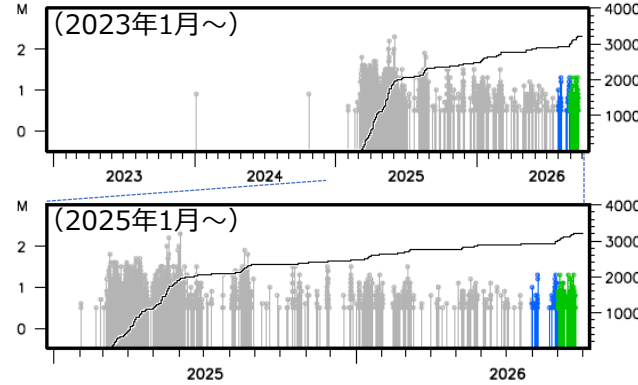
震央分布図

2023年1月1日～2026年9月30日、
深さ0～40km、M $\geq$ 0.5

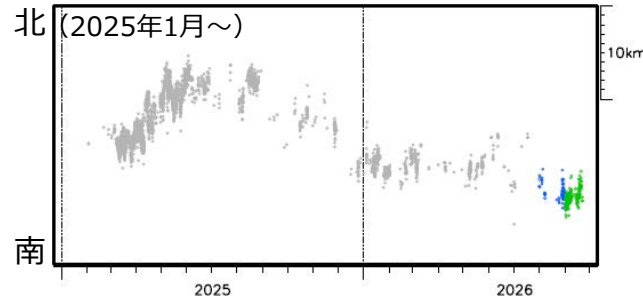


【領域a (深さ20km～40km)】 ●～2026年7月
●2026年8月
●2026年9月

MT図 + 回数積算図



時空間分布図 (南北投影)

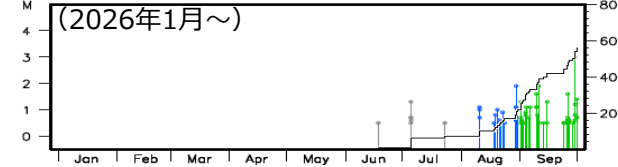


山口県北部の領域aでは、2025年2月から地殻下部の深さ25km程度から35km程度でまとった地震活動が継続している。2025年2月以降の地震活動で、最大規模の地震は、2025年6月2日09時39分に深さ25kmで発生したM2.3の地震である。2026年9月末現在、震度1以上を観測した地震は発生していない。

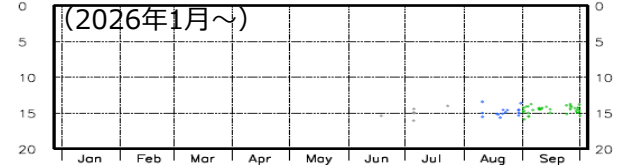
山口県北部の地殻内の深さ20km以浅では、2025年半ば頃からまとった地震活動が継続している。領域bでは2026年9月29日に発生したM3.0の地震で最大震度1を観測した。領域cでは2026年6月16日に発生したM3.1の地震で最大震度1を観測した。

【領域b (深さ0km～20km)】 ●～2026年7月
●2026年8月
●2026年9月

MT図 + 回数積算図

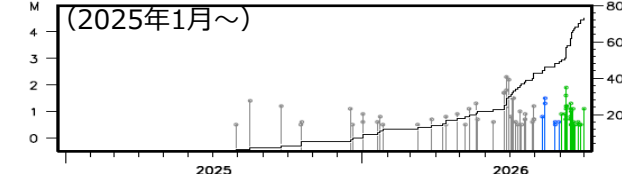


深さの時系列

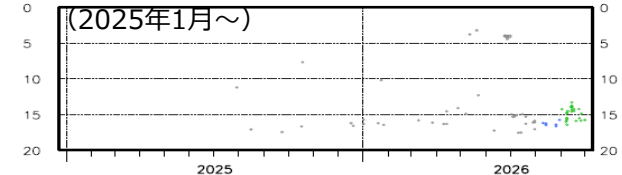


【領域c (深さ0km～20km)】 ●～2026年7月
●2026年8月
●2026年9月

MT図 + 回数積算図

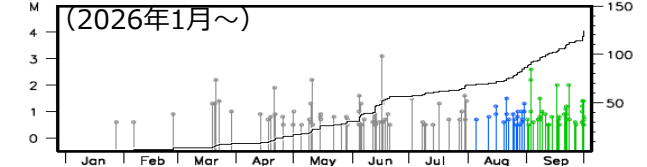


深さの時系列

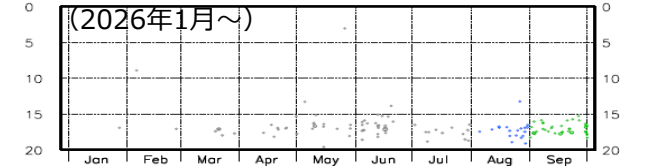


【領域d (深さ0km～20km)】 ●～2026年7月
●2026年8月
●2026年9月

MT図 + 回数積算図



深さの時系列

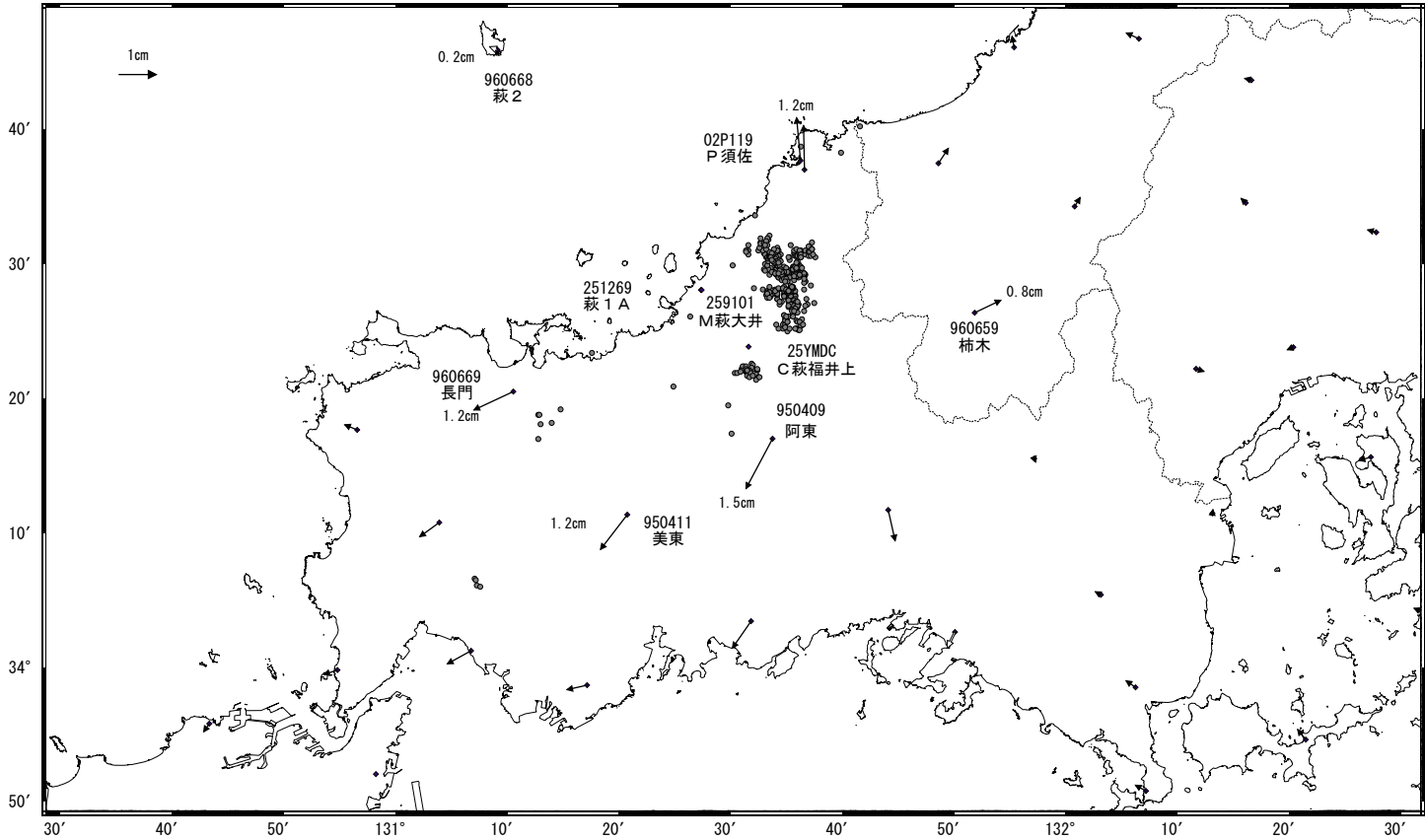


山口県北部の地震活動域周辺の地殻変動(暫定)

地殻変動

基準期間: 2025-01-01~2025-01-07 [F5. 1: 最終解]
比較期間: 2026-09-20~2026-09-26 [R5. 1: 速報解]

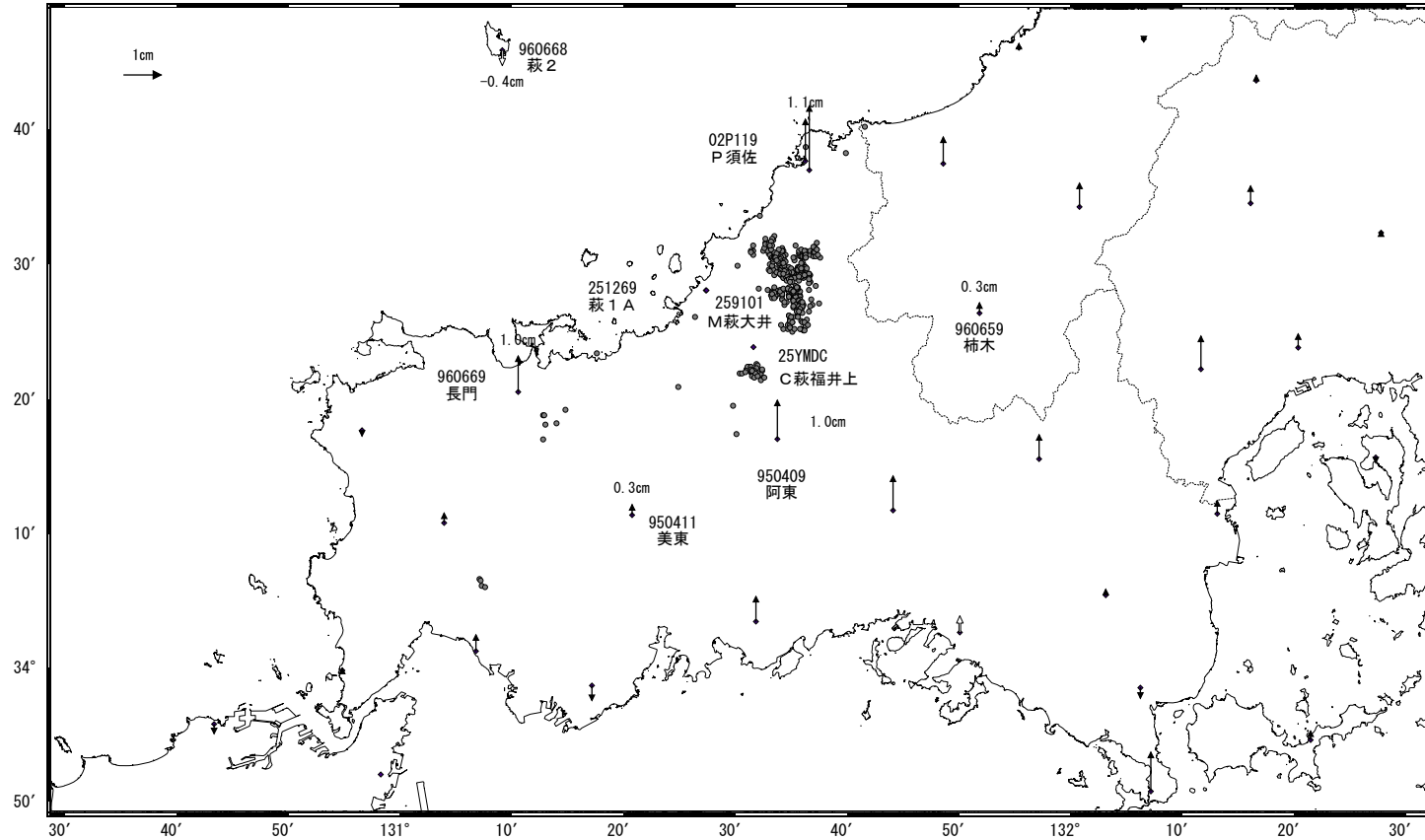
計算期間: 2017-01-01~2020-01-01



● 震央 (M1以上の地震)
★ 固定局: 上対馬 (950456) (長崎県)

基準期間: 2025-01-01~2025-01-07 [F5. 1: 最終解]
比較期間: 2026-09-20~2026-09-26 [R5. 1: 速報解]

計算期間: 2017-01-01~2020-01-01



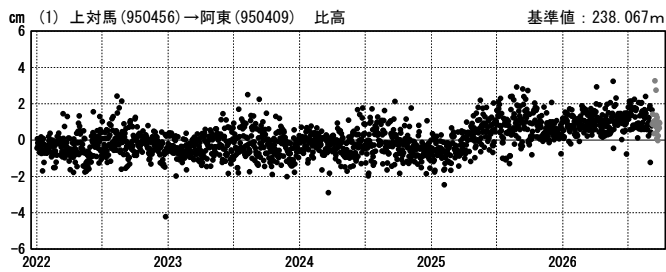
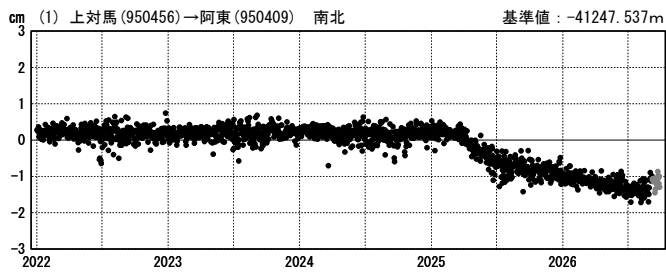
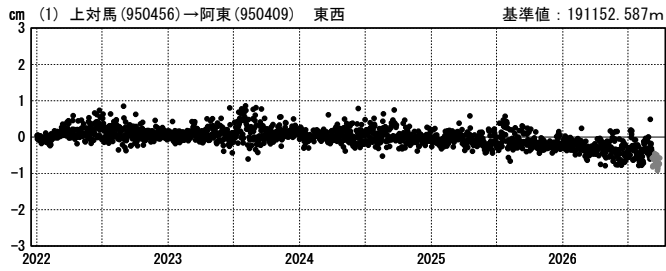
● 震央 (M1以上の地震)
★ 固定局: 上対馬 (950456) (長崎県)

※C萩福井上、M萩大井、萩1 Aは基準期間のデータが存在しない。

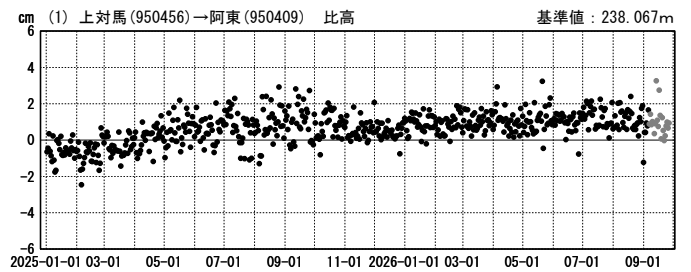
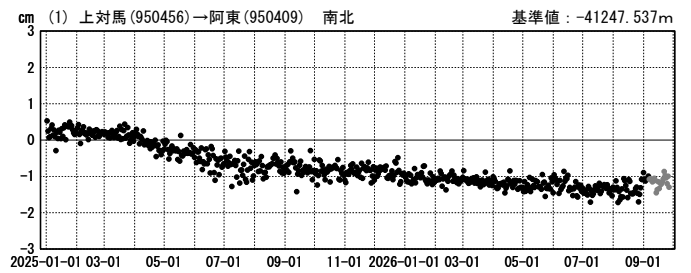
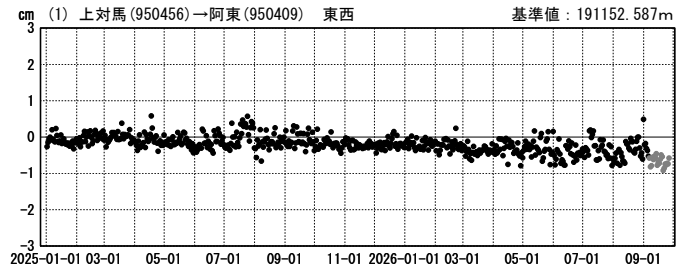
1次トレンド除去後グラフ

計算期間：2017-01-01～2020-01-01

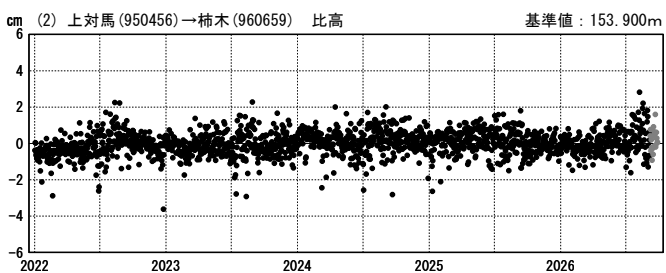
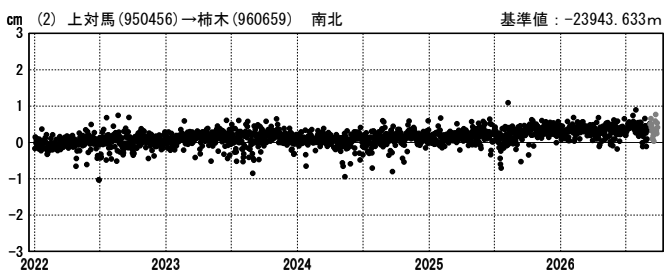
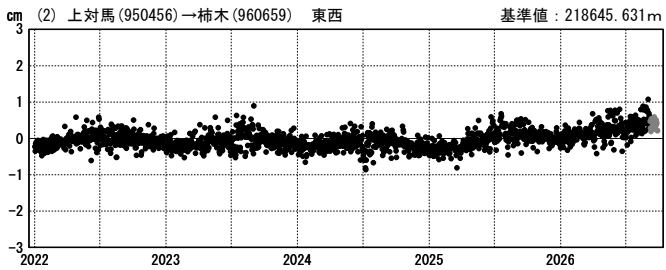
期間：2022-01-01～2026-09-26 JST



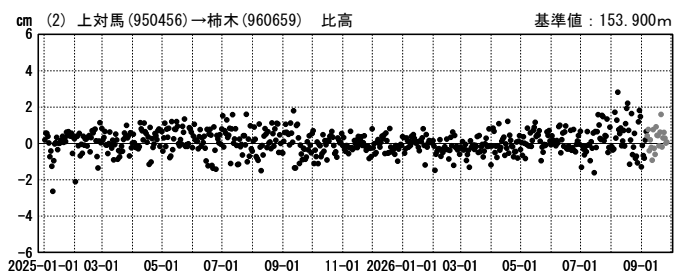
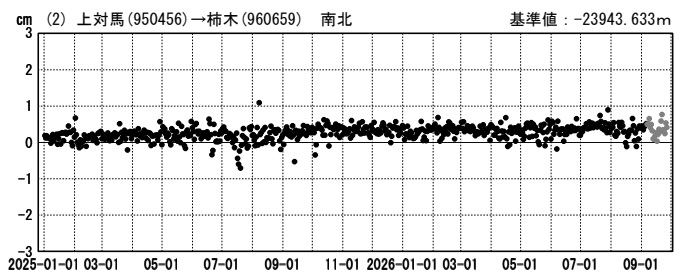
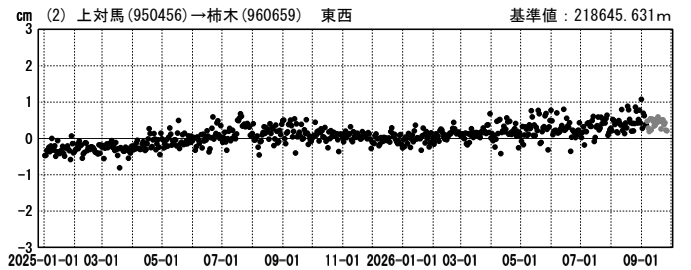
期間：2025-01-01～2026-09-26 JST



期間：2022-01-01～2026-09-26 JST



期間：2025-01-01～2026-09-26 JST

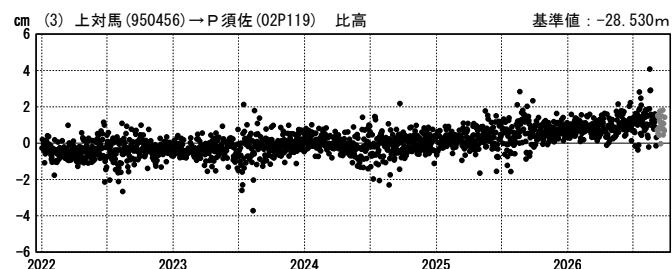
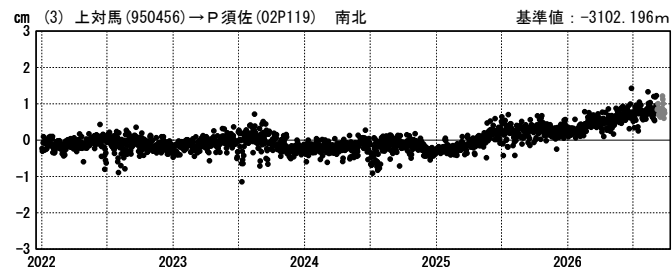
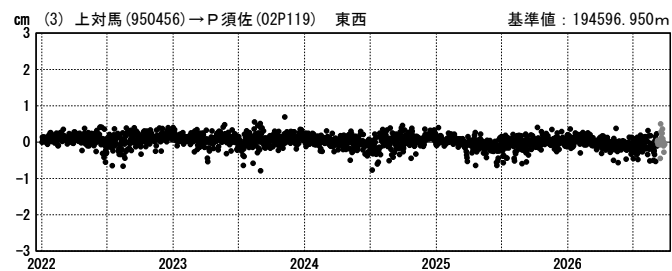


●—[F5. 1:最終解] ●—[R5. 1:速報解]

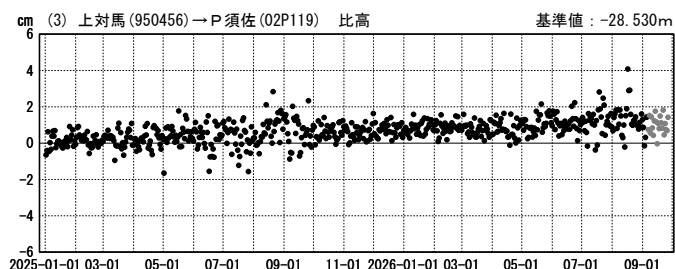
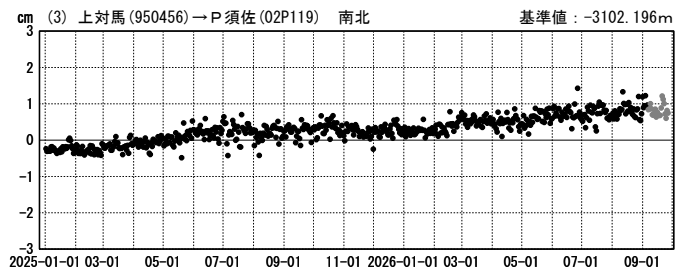
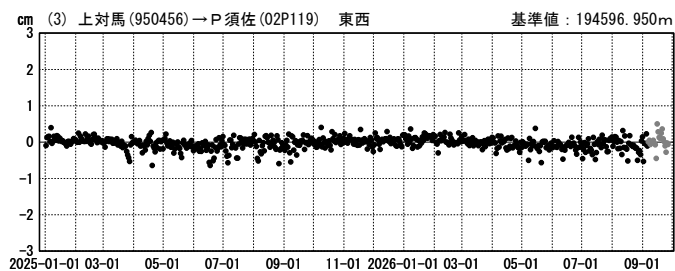
1次トレンド除去後グラフ

計算期間：2017-01-01～2020-01-01

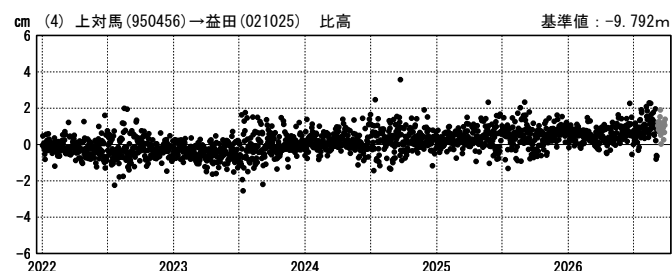
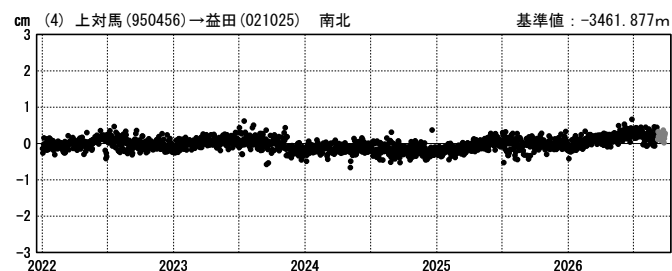
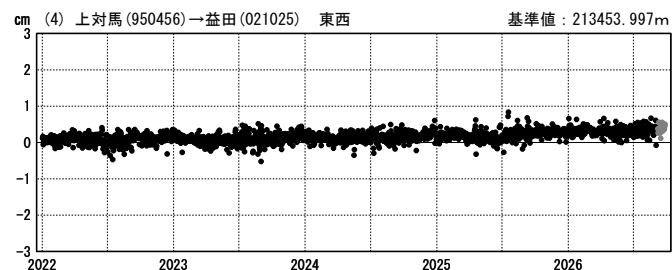
期間：2022-01-01～2026-09-26 JST



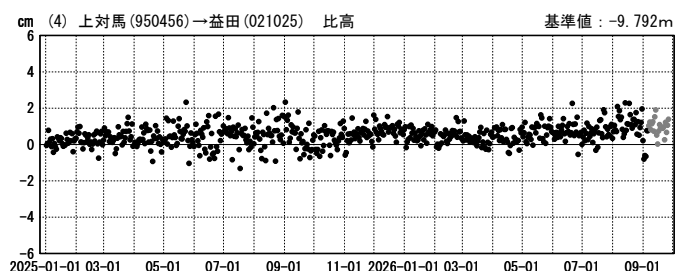
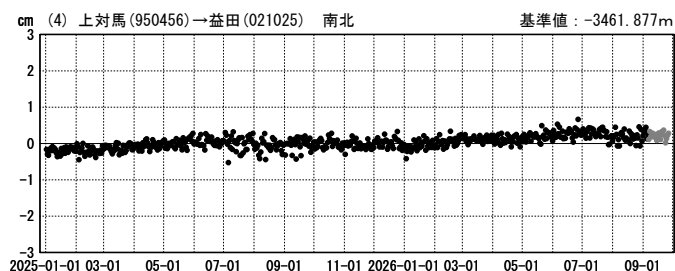
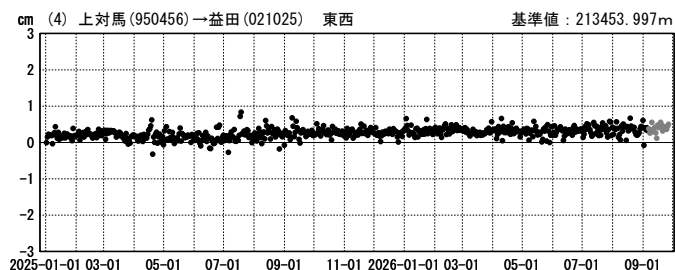
期間：2025-01-01～2026-09-26 JST



期間：2022-01-01～2026-09-26 JST



期間：2025-01-01～2026-09-26 JST

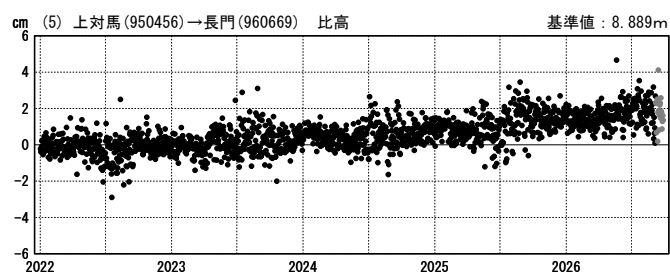
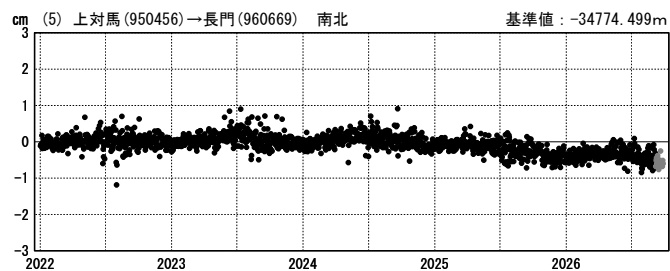
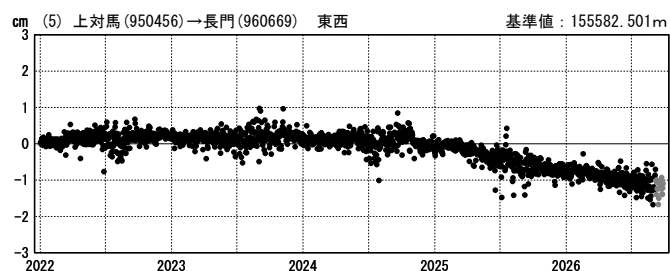


●—[F5. 1:最終解] ●—[R5. 1:速報解]

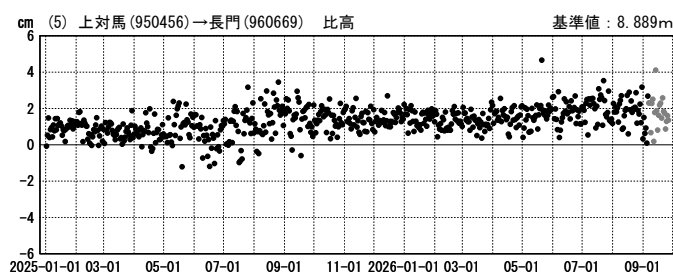
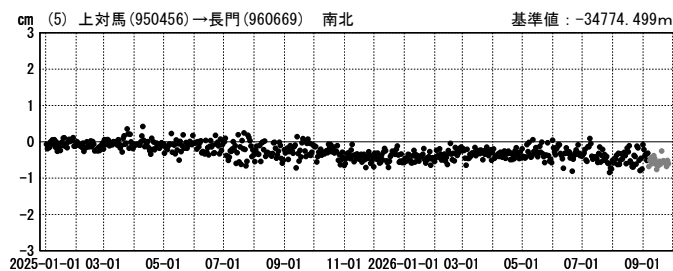
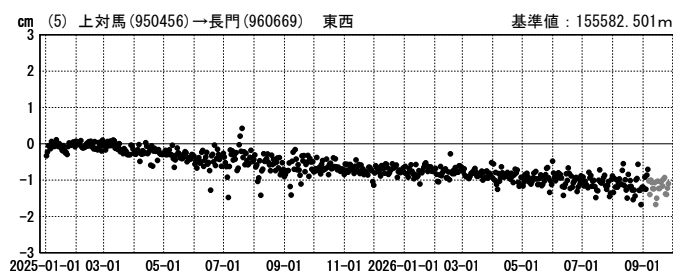
1次トレンド除去後グラフ

計算期間：2017-01-01～2020-01-01

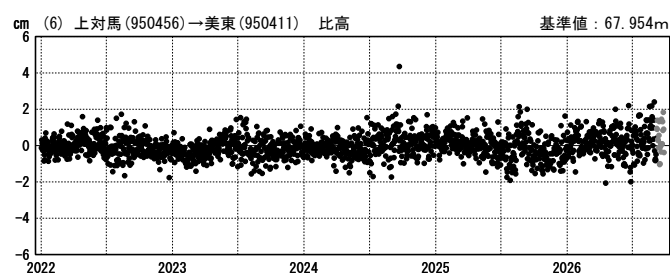
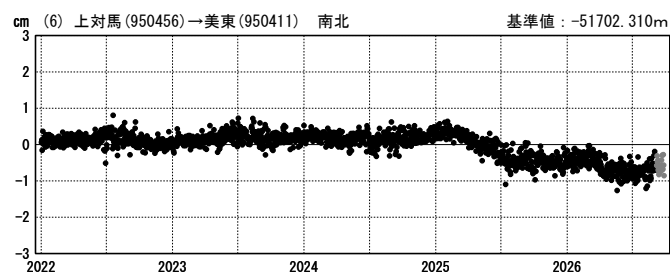
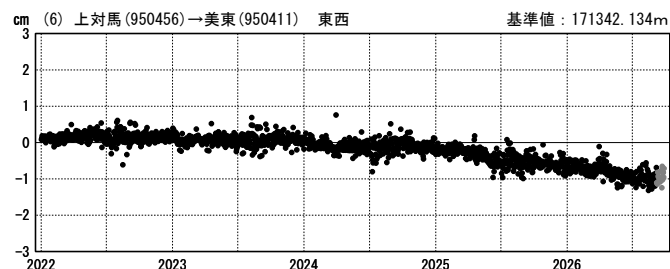
期間：2022-01-01～2026-09-26 JST



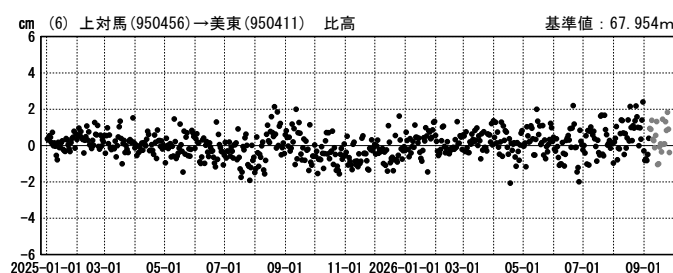
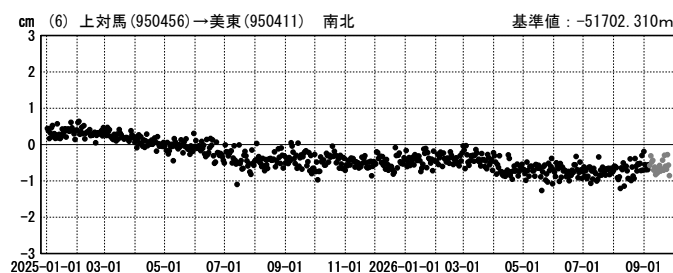
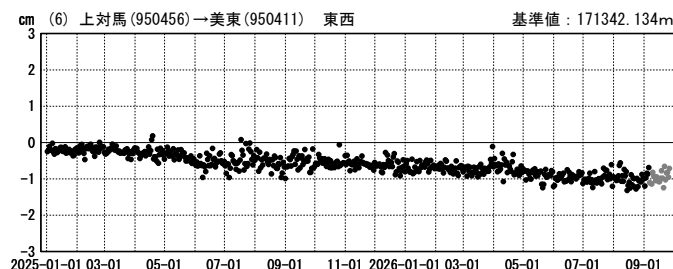
期間：2025-01-01～2026-09-26 JST



期間：2022-01-01～2026-09-26 JST



期間：2025-01-01～2026-09-26 JST

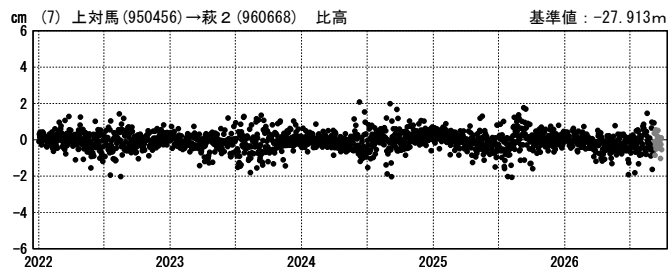
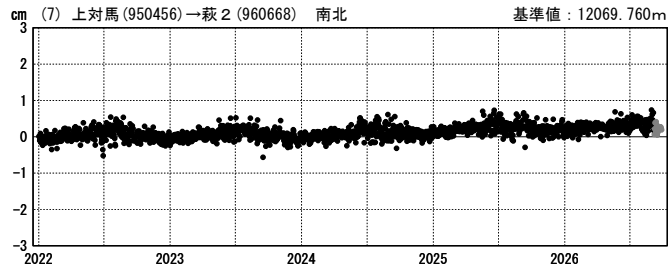
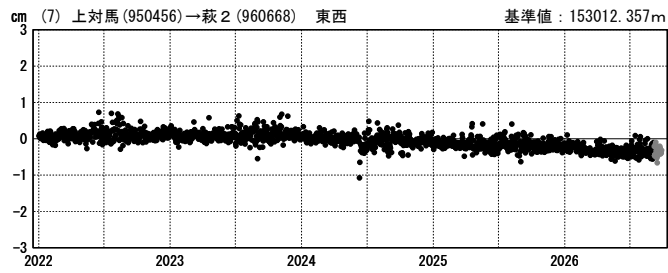


●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

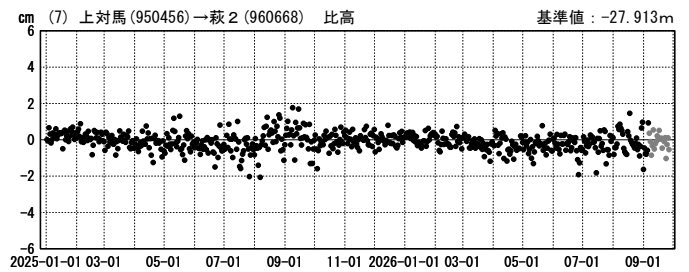
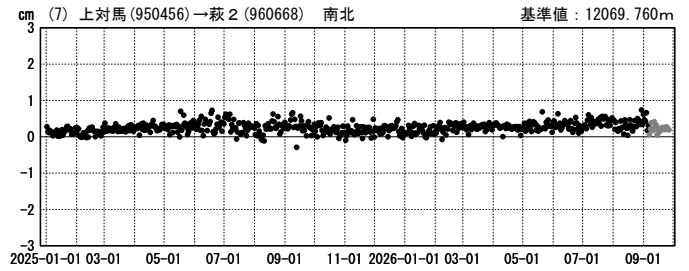
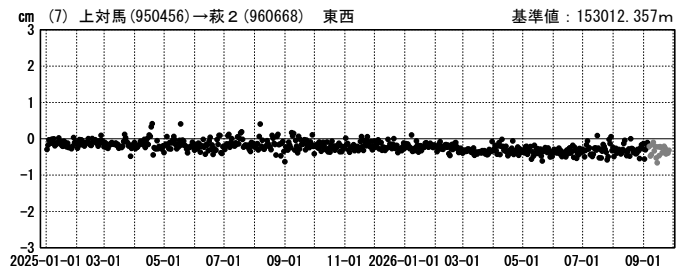
1次トレンド除去後グラフ

計算期間：2017-01-01～2020-01-01

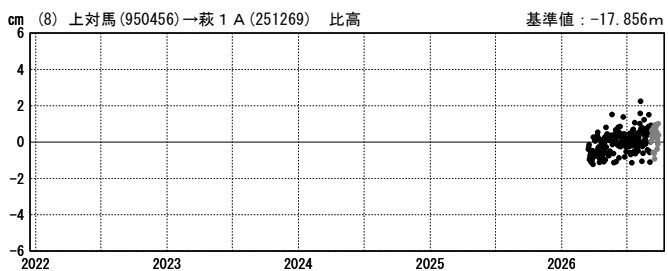
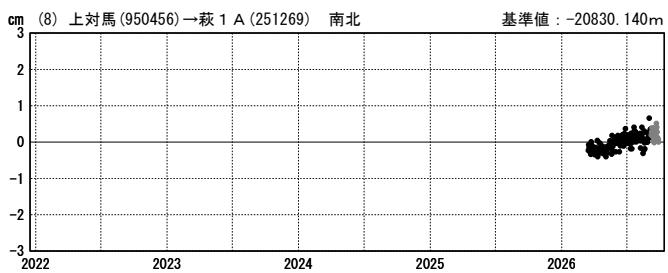
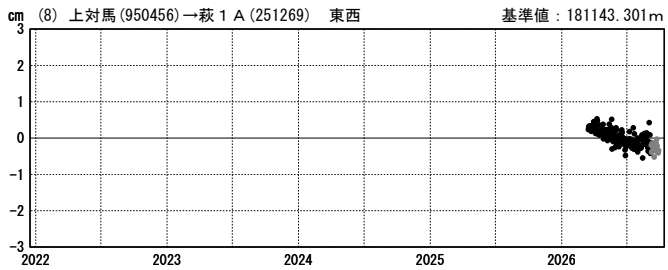
期間：2022-01-01～2026-09-26 JST



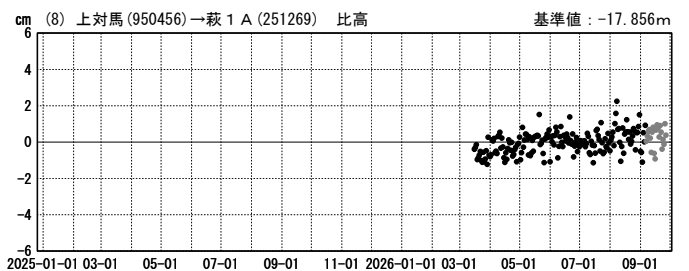
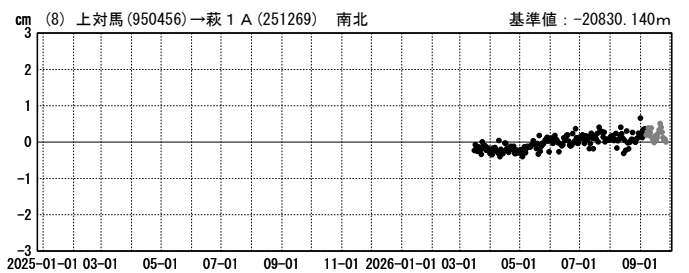
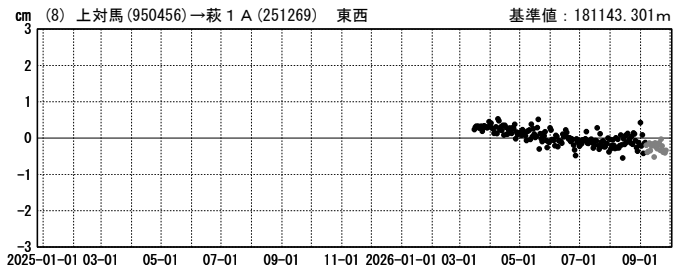
期間：2025-01-01～2026-09-26 JST



期間：2022-01-01～2026-09-26 JST



期間：2025-01-01～2026-09-26 JST



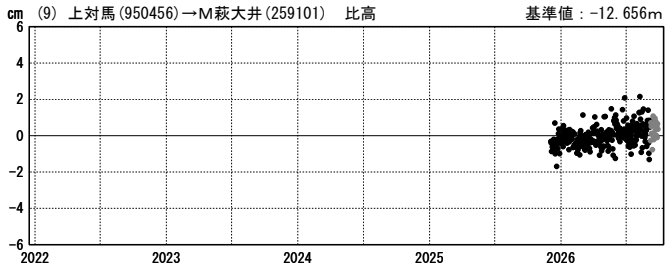
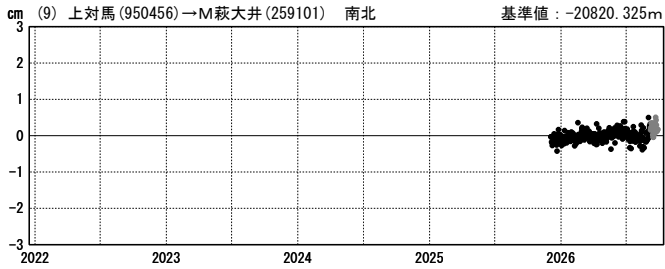
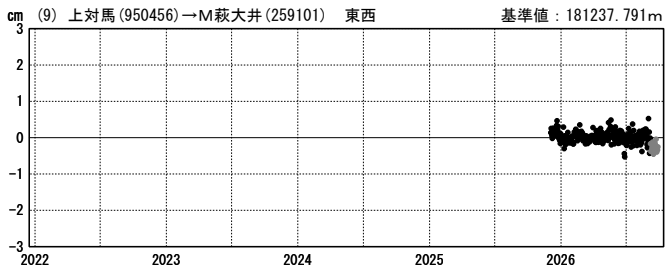
※萩1 Aを含む基線は2026年3月以前の観測データが存在しないため1次トレンドの補正は実施していない。

●—[F5. 1:最終解] ●—[R5. 1:速報解]

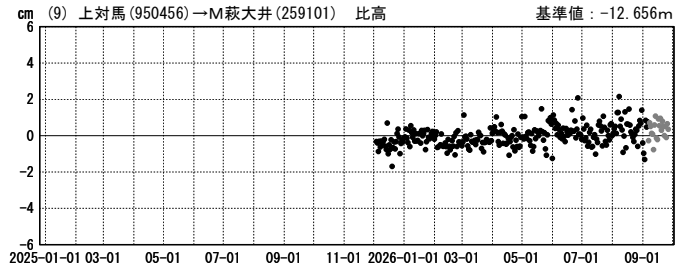
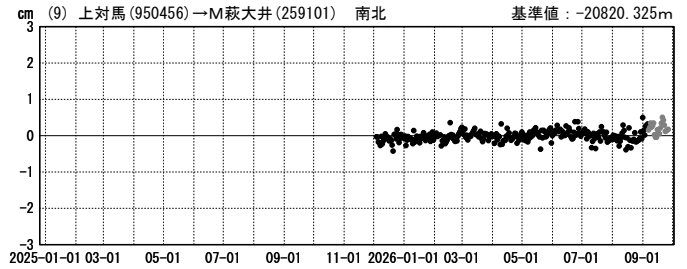
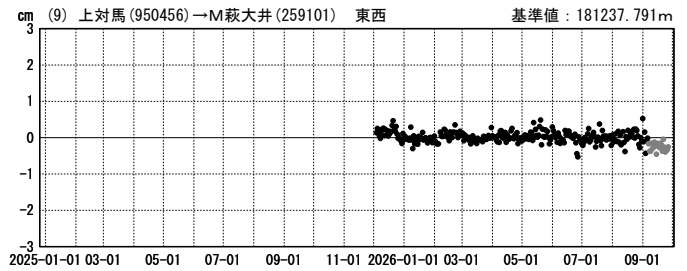
1次トレンド除去後グラフ

計算期間：2017-01-01～2020-01-01

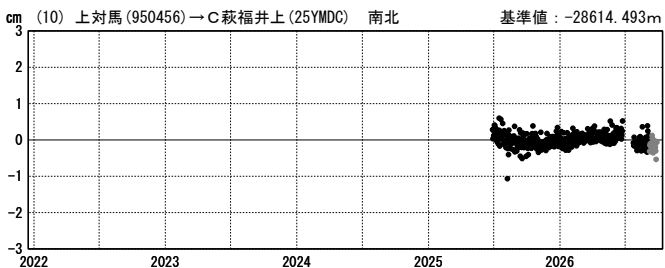
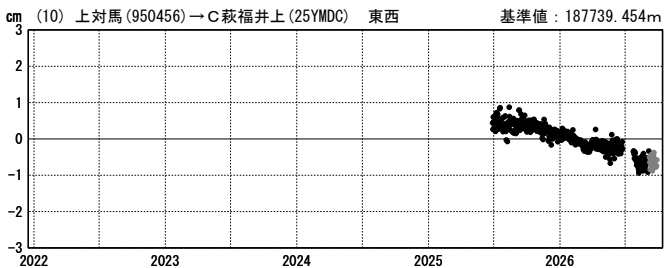
期間：2022-01-01～2026-09-26 JST



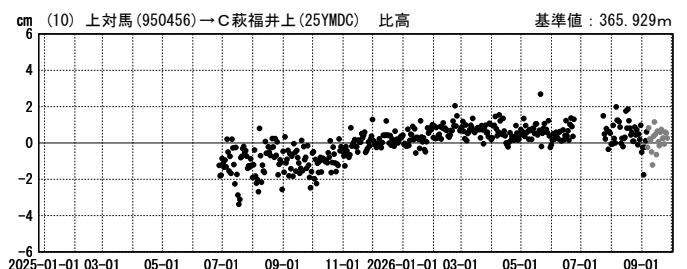
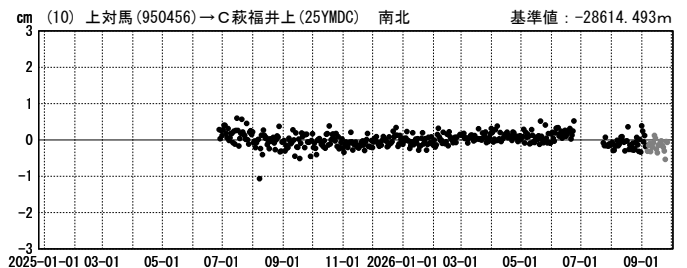
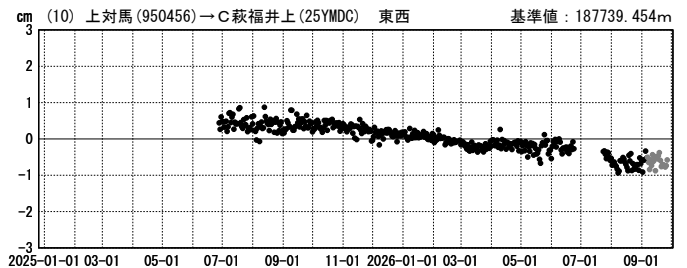
期間：2025-01-01～2026-09-26 JST



期間：2022-01-01～2026-09-26 JST



期間：2025-01-01～2026-09-26 JST



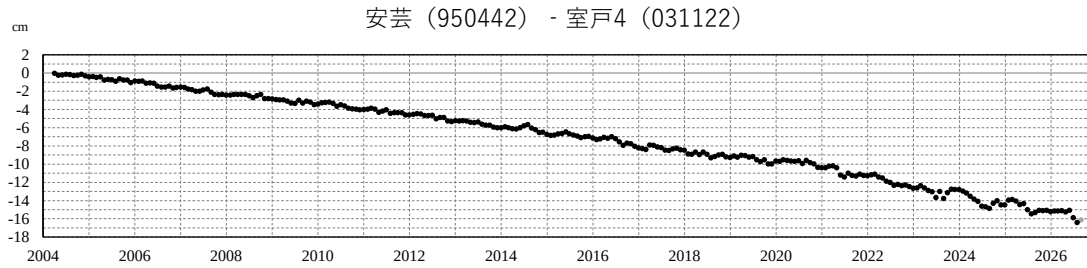
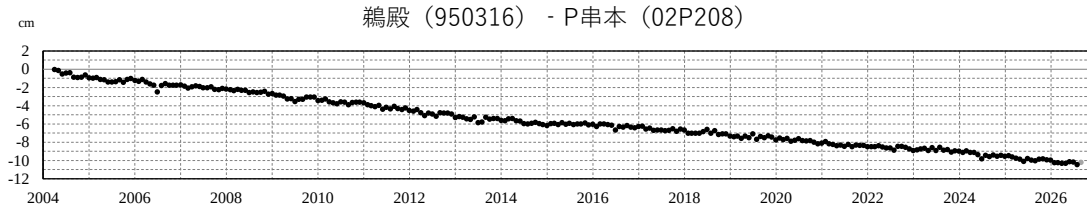
※M萩大井、C萩福井上を含む基線はそれぞれ2025年12月、2025年6月以前の観測データが存在しないため1次トレンドの補正は実施していない。

●—[F5. 1:最終解] ●—[R5. 1:速報解]

紀伊半島及び室戸岬周辺 電子基準点の上下変動

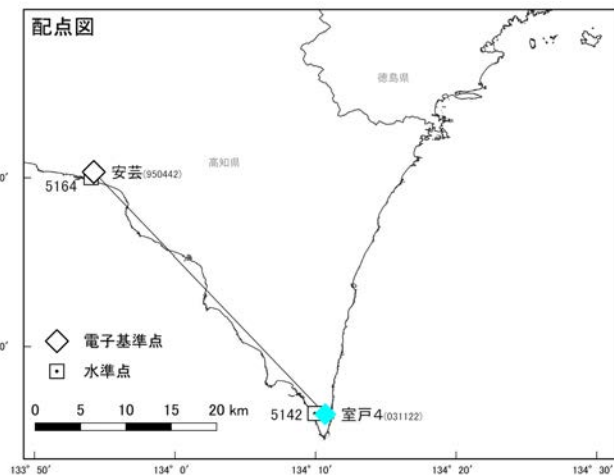
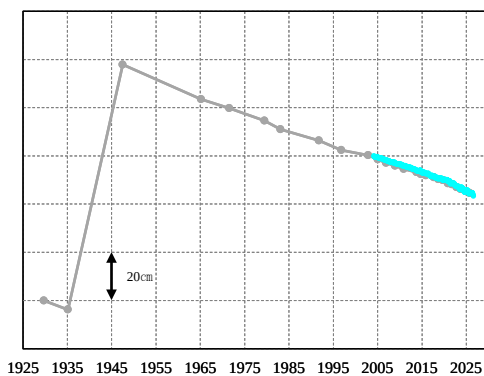
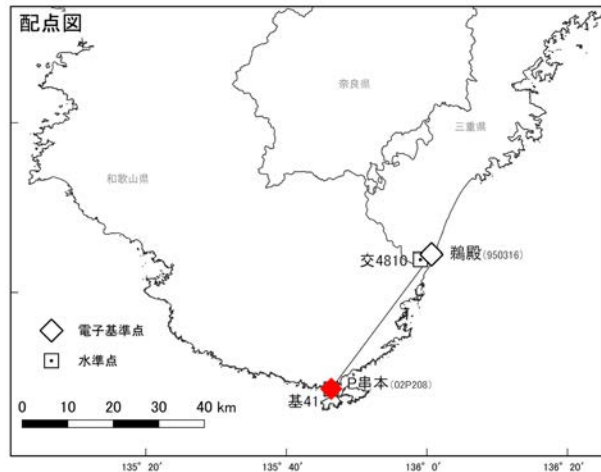
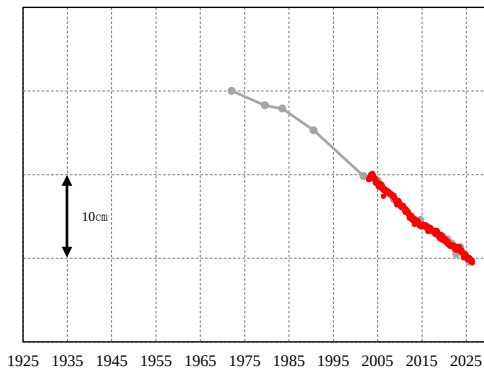
水準測量とGNSS連続観測

潮岬周辺及び室戸岬周辺の長期的な沈降傾向が続いている。



● --- [F5.1：最終解] ● --- [F5.1：最終解] 2026-09-01/2026-09-05 + [R5.1：速報解] 2026-09-06/2026-09-21

【長期間の上下変動】

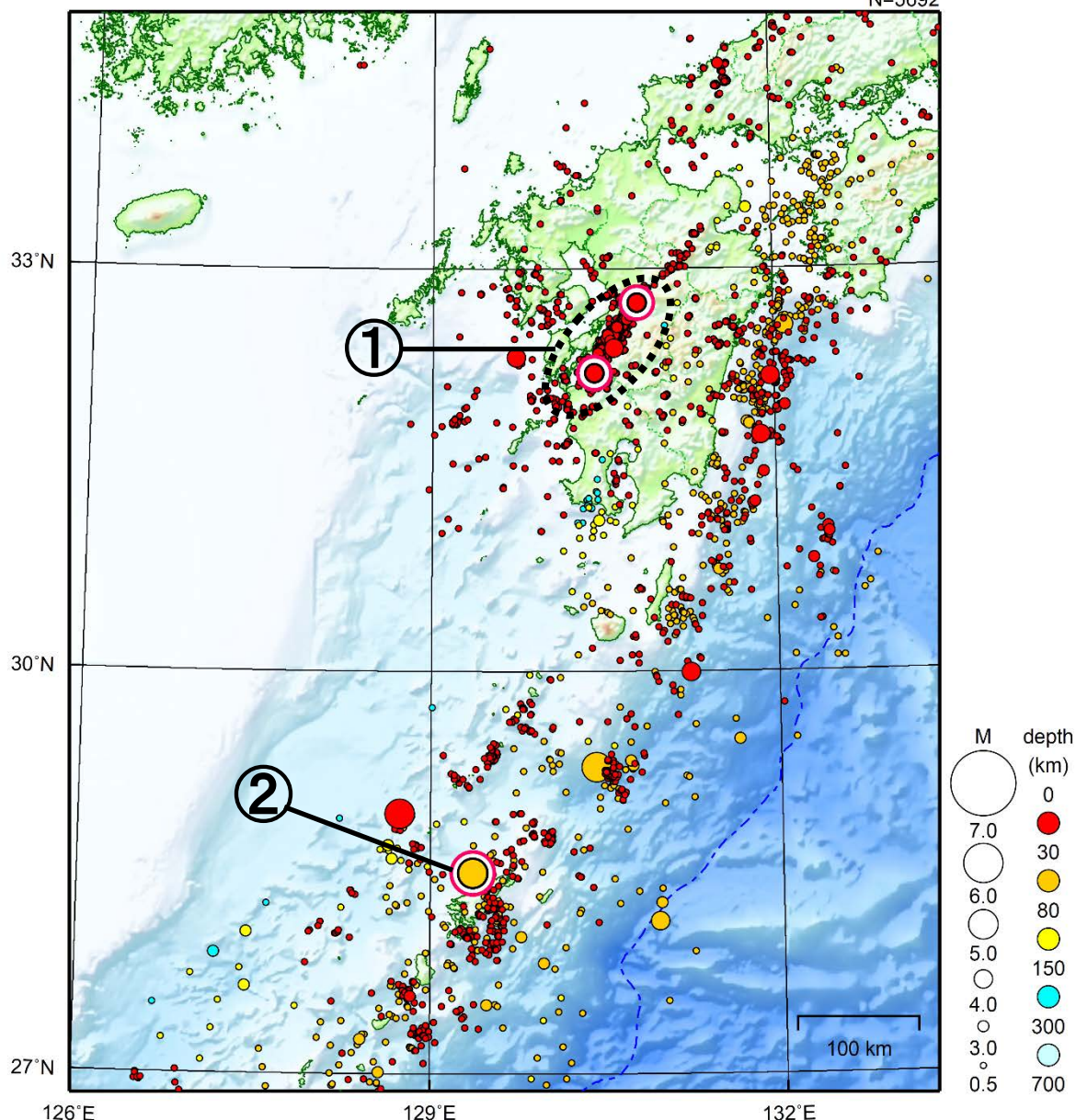


- GNSS 連続観測のプロット点は、GEONET による日々の座標値（F5.1：最終解及びR5.1:速報解）から計算した値の月平均値。
- 灰色のプロットは電子基準点の最寄りの水準点の水準測量結果を示している（固定：交4810、5164）。
- ※ 2021年2月2日に電子基準点「安芸」のアンテナ更新及びレドーム交換を実施した。
- ※ 2024年11月25日に電子基準点「鵜殿」のアンテナ更新を実施した。

九州地方

2026/09/01 00:00 ~ 2026/09/30 24:00

N=5692



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- ① 「令和 8 年熊本地震」の地震活動域では、9 月中に震度 1 以上を観測した地震が 79 回（震度 4：2 回、震度 3：4 回、震度 2：19 回、震度 1：54 回）^(注) 発生した。このうち最大規模の地震は、26 日に発生した M4.6 の地震（最大震度 4）である。
- ② 9 月 20 日に奄美大島近海で M5.0 の地震（最大震度 3）が発生した。

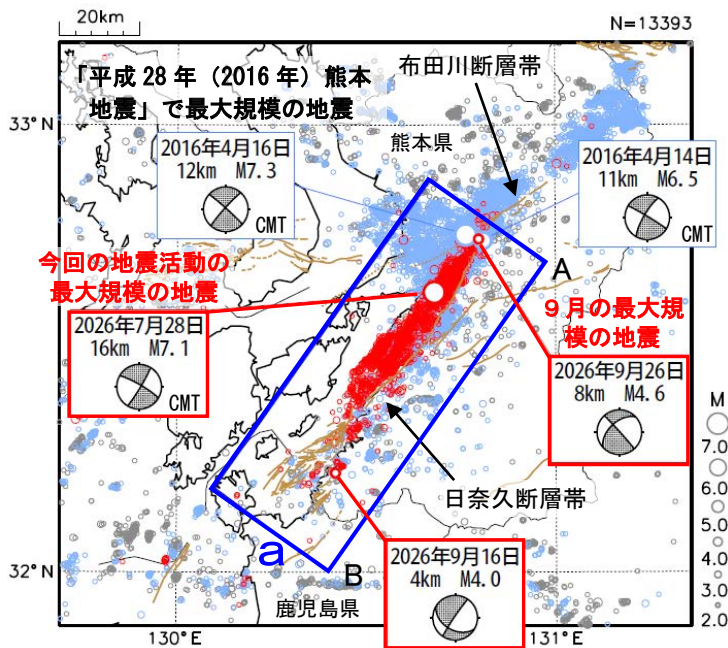
（注）掲載している地震回数は、後日の調査で変更になることがある。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

「令和8年熊本地震」の地震活動

震央分布図
(2000年10月1日～2026年9月30日
深さ0～20km、 $M \geq 2.0$)

2016 年 4 月 14 日 21 時より前に発生した地震を灰色○
2016 年 4 月 14 日 21 時以降の地震を水色○、
2026 年 7 月 28 日 16 時以降の地震を赤色○で表示
茶色の実線は、地震調査研究推進本部の長期評価による
活断層を示す



「令和8年熊本地震」の地震活動は、地震の発生数は平常時と比べて多い状態が継続しているが、大局的には緩やかに減少している。

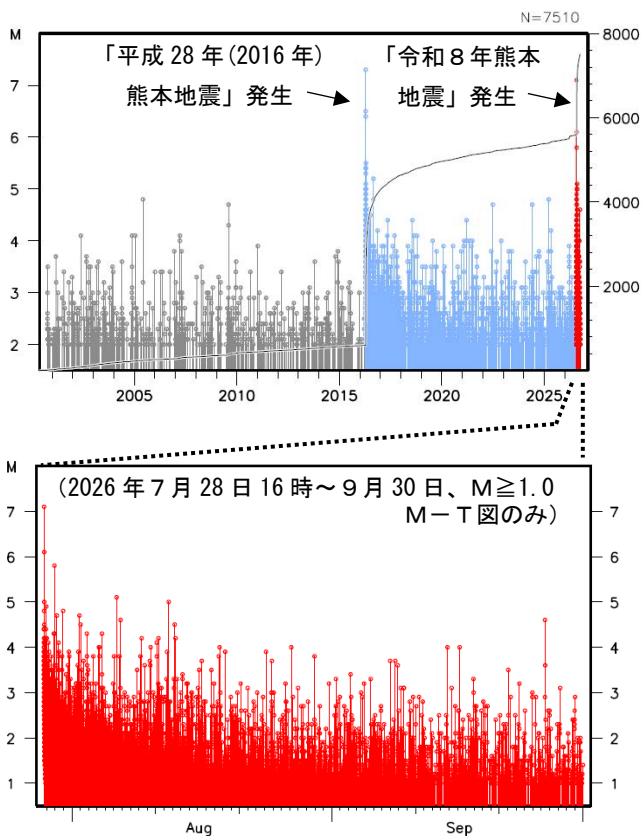
9 月中に震度 1 以上を観測した地震は、79 回^(注) (震度 4 : 2 回、震度 3 : 4 回、震度 2 : 19 回、震度 1 : 54 回) 発生した。このうち最大規模の地震は、26 日 10 時 31 分に発生した M4.6 の地震 (深さ 8 km、最大震度 4) である。この地震は地殻内で発生した。発震機構は南北方向に張力軸を持つ横ずれ断層型である。

今回の地震活動により、死者38人（災害関連死の可能性のある死者を含む）、負傷者373人、住家全壊2,270棟、半壊6,357棟などの被害が生じた（被害は2026年9月24日17時00分現在、総務省消防庁による）。

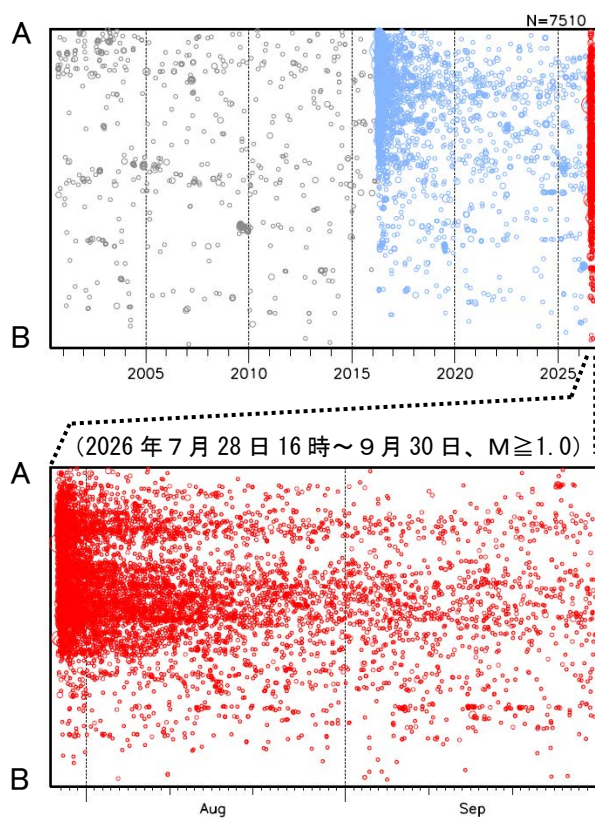
2000年10月以降の活動を見ると、今回の地震活動域の周辺(領域a)では「平成28年(2016年)熊本地震」が発生している。「平成28年(2016年)熊本地震」では、熊本県で死者275人、大分県で死者3人などの被害が生じた(熊本県は2025年4月11日現在、熊本県による、その他は2019年4月12日現在、総務省消防庁による)。

(注) 掲載している値は後日の精査で変更する
場合がある。

領域 a 内の M-T 図及び回数積算図



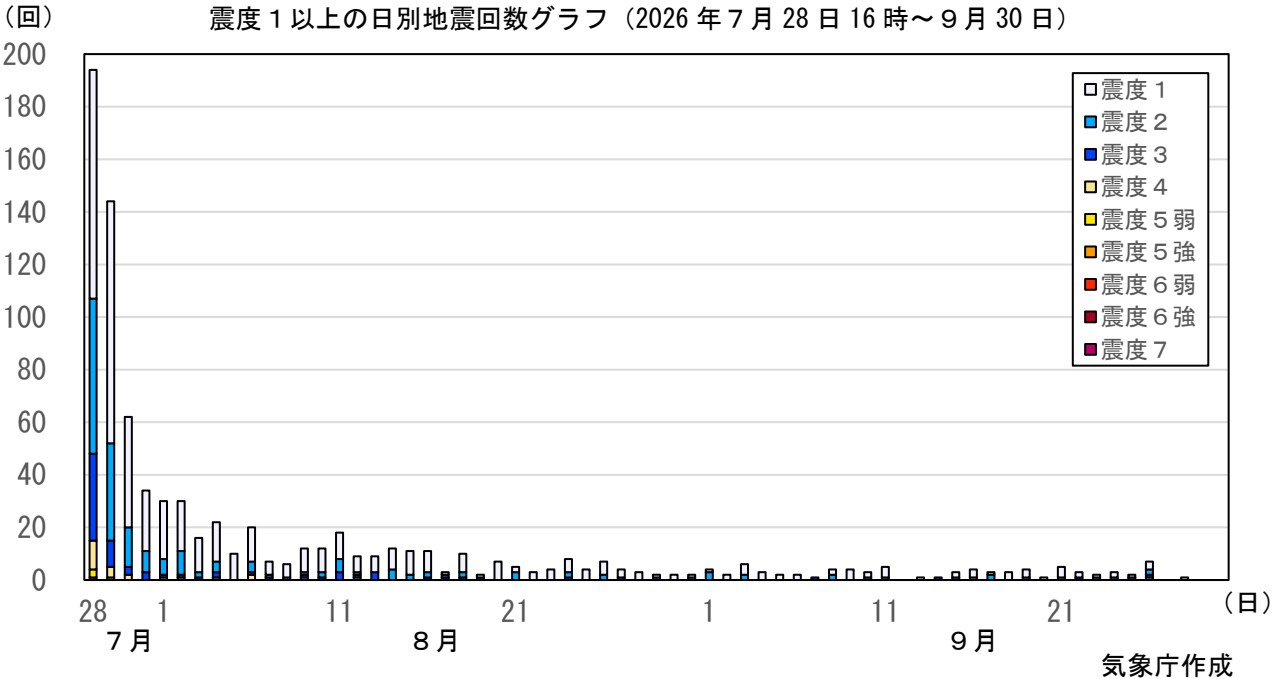
領域 a 内の時空間分布図 (A-B 投影)



「令和 8 年熊本地震」の最大震度別地震回数表

期間	最大震度別回数									合計	累計
	震度1	震度2	震度3	震度4	震度5弱	震度5強	震度6弱	震度6強	震度7		
7月28日-31日	244	119	49	17	4	0	0	0	1	434	434
8月1日-31日	216	56	22	6	1	0	0	0	0	301	735
9月1日	1	3	0	0	0	0	0	0	0	4	739
9月2日	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	741
9月3日	4	2	0	0	0	0	0	0	0	6	747
9月4日	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	750
9月5日	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	752
9月6日	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	754
9月7日	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	755
9月8日	2	2	0	0	0	0	0	0	0	4	759
9月9日	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	763
9月10日	2	1	0	0	0	0	0	0	0	3	766
9月11日	4	1	0	0	0	0	0	0	0	5	771
9月12日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	771
9月13日	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	772
9月14日	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	773
9月15日	2	1	0	0	0	0	0	0	0	3	776
9月16日	3	0	0	1	0	0	0	0	0	4	780
9月17日	1	2	0	0	0	0	0	0	0	3	783
9月18日	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	786
9月19日	3	1	0	0	0	0	0	0	0	4	790
9月20日	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	791
9月21日	4	1	0	0	0	0	0	0	0	5	796
9月22日	2	0	1	0	0	0	0	0	0	3	799
9月23日	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	801
9月24日	2	1	0	0	0	0	0	0	0	3	804
9月25日	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	806
9月26日	3	2	1	1	0	0	0	0	0	7	813
9月27日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	813
9月28日	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	814
9月29日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	814
9月30日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	814
合計	514	194	75	25	5	0	0	0	1		814

※この資料は速報値であり、後日の調査で変更されることがある。

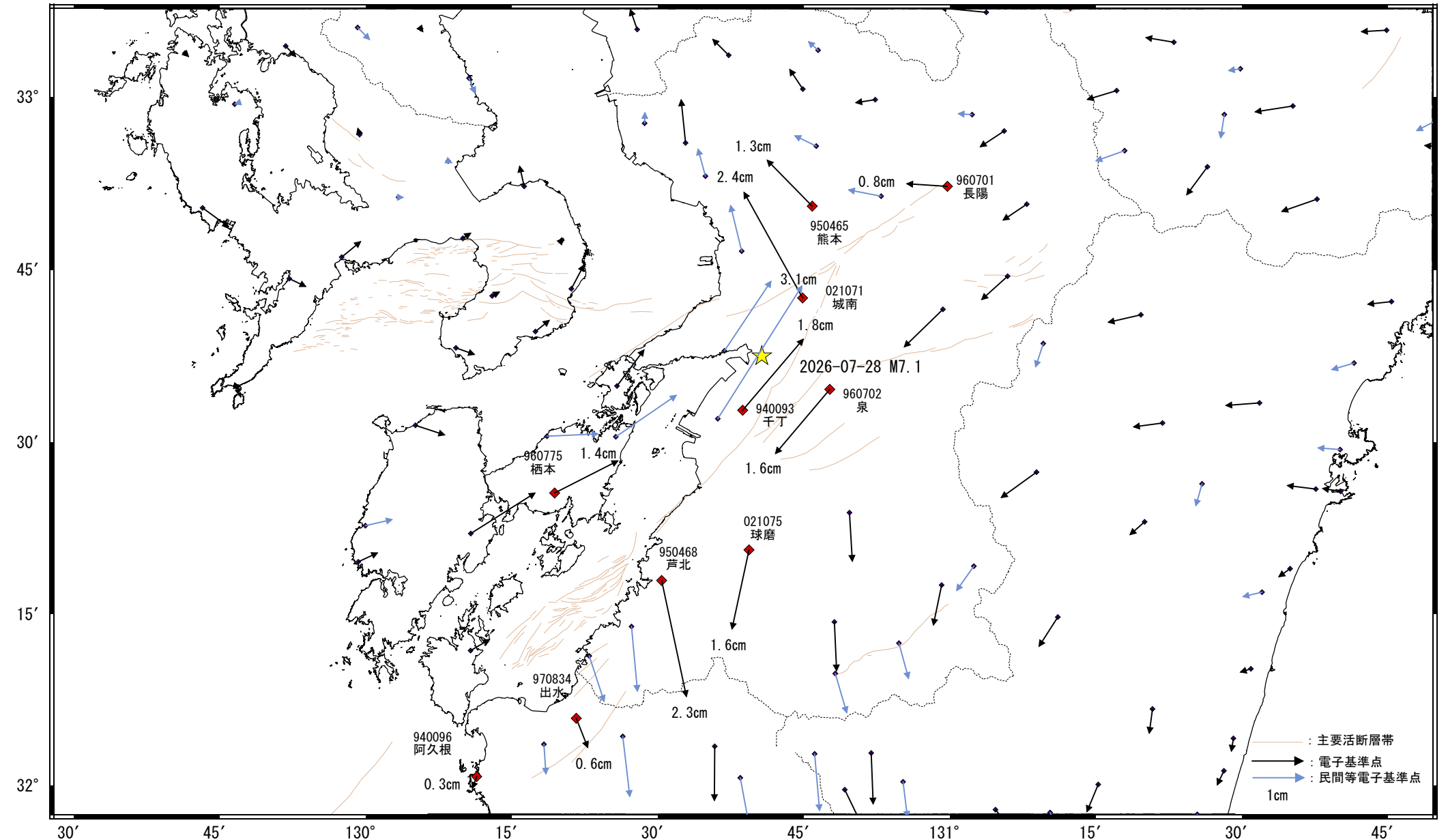


令和8年熊本地震(7月28日 M7.1)後の地殻変動(暫定)

地殻変動(水平)

基準期間: 2026-07-29~2026-07-29 [F5.1: 最終解]

比較期間: 2026-10-02~2026-10-03 [R5.1: 速報解]



- ★ 震央
- ☆ 固定局: 上対馬 (950456) (長崎県)
- ◆ 観測局 (グラフ表示)

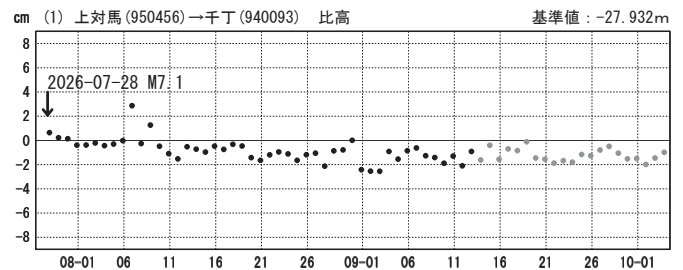
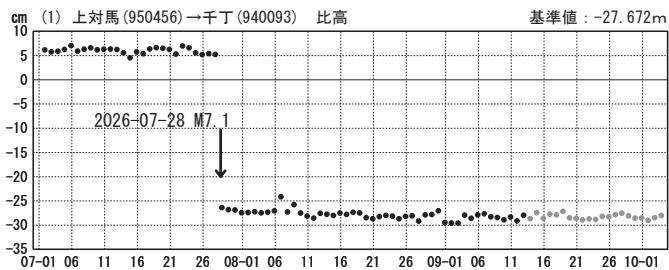
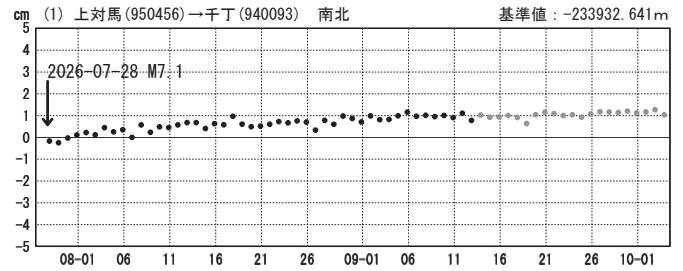
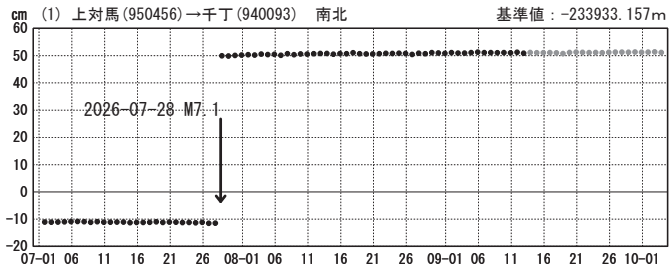
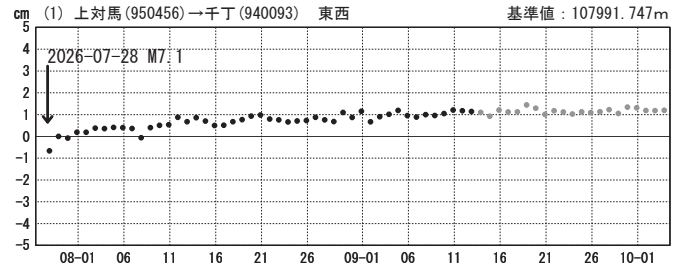
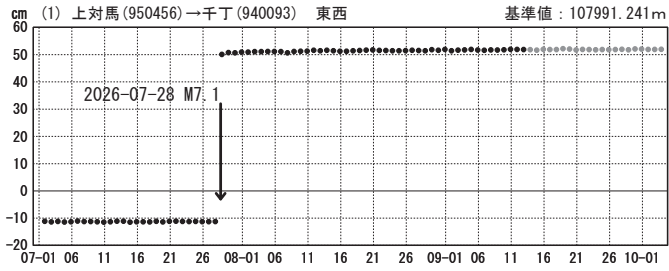
※民間等電子基準点: 株式会社NTTドコモ
 ※城南: 傾斜による局所的な変化が含まれている
 ※主要活断層帯 (地震調査研究推進本部による) を重ねて表示

令和8年熊本地震(7月28日 M7.1)前後の観測データ(暫定)

成分変化グラフ

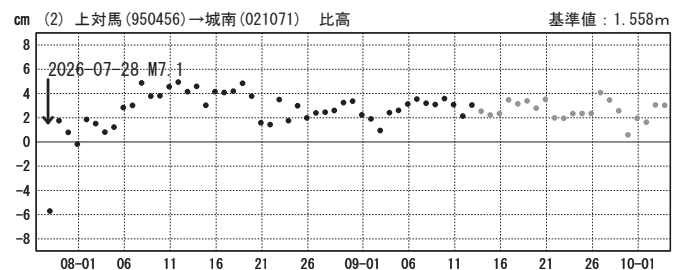
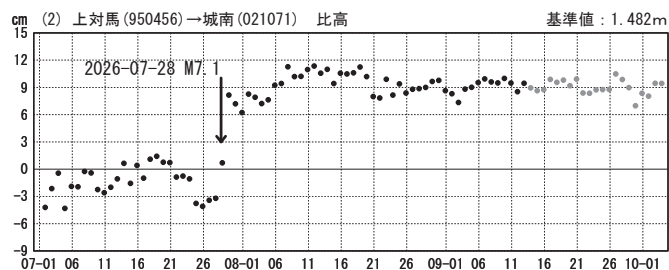
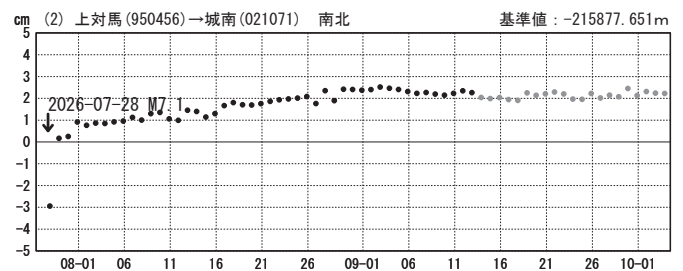
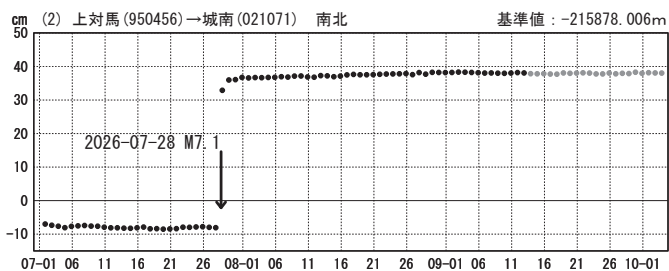
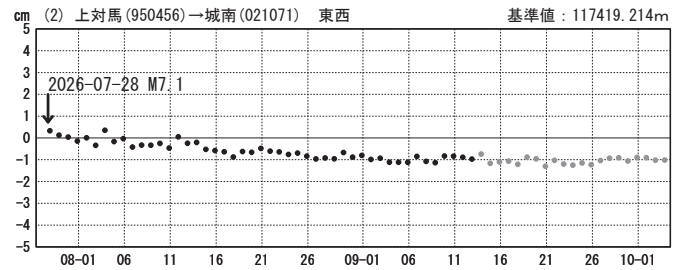
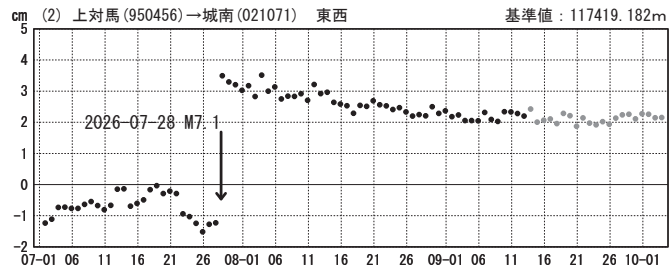
期間：2026-07-01～2026-10-03 JST

期間：2026-07-28～2026-10-03 JST



期間：2026-07-01～2026-10-03 JST

期間：2026-07-28～2026-10-03 JST



※城南：傾斜による局所的な変化が含まれている

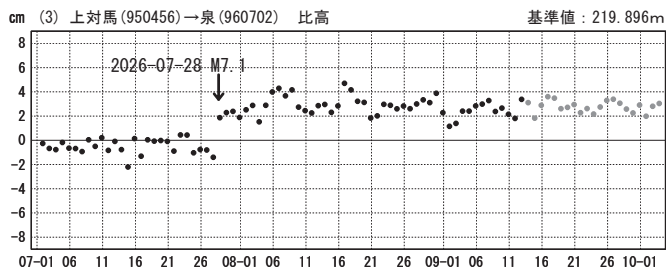
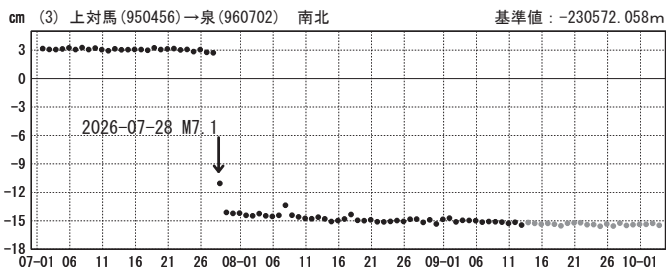
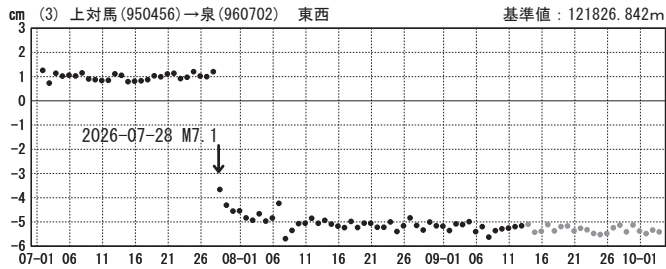
●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

国土地理院

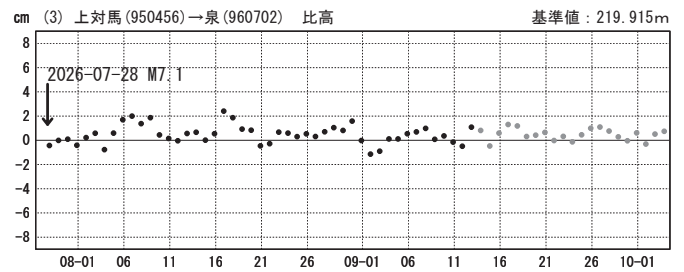
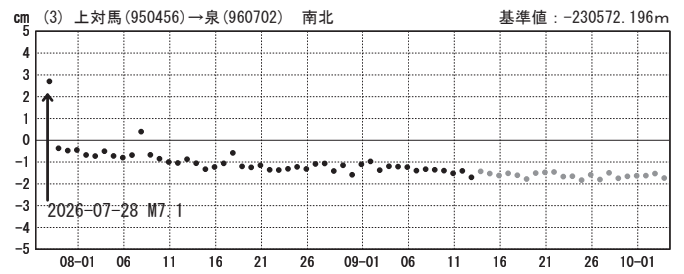
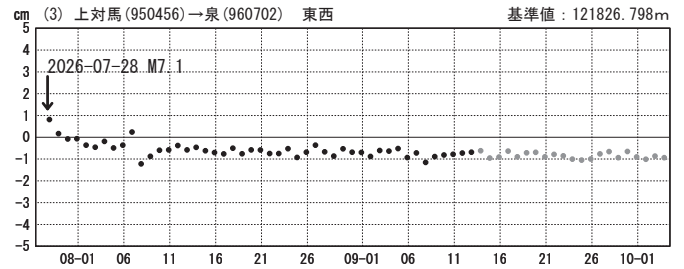
令和8年熊本地震(7月28日 M7.1)前後の観測データ(暫定)

成分変化グラフ

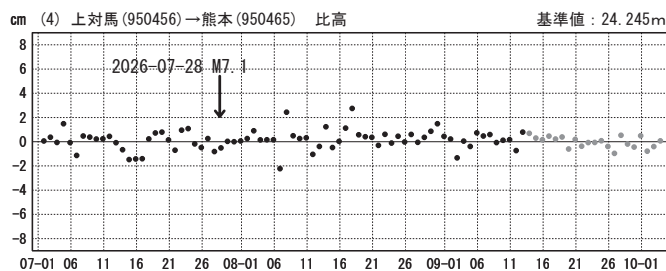
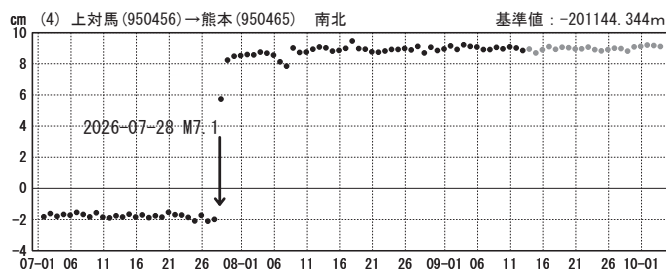
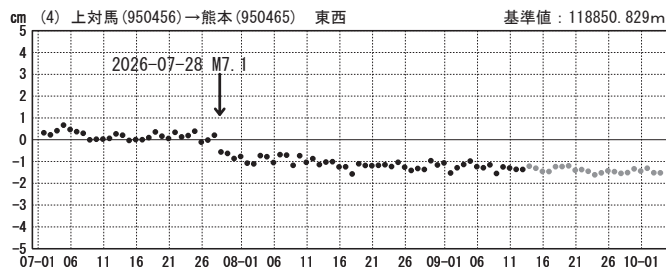
期間：2026-07-01～2026-10-03 JST



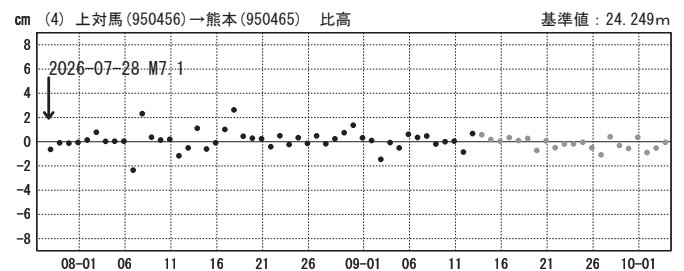
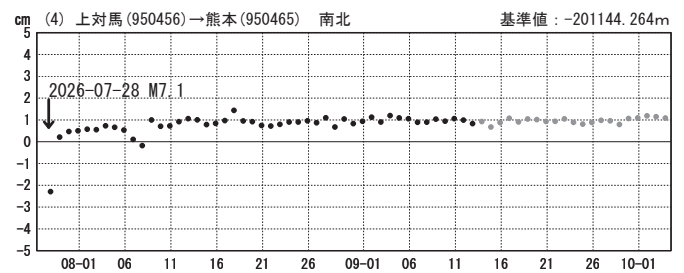
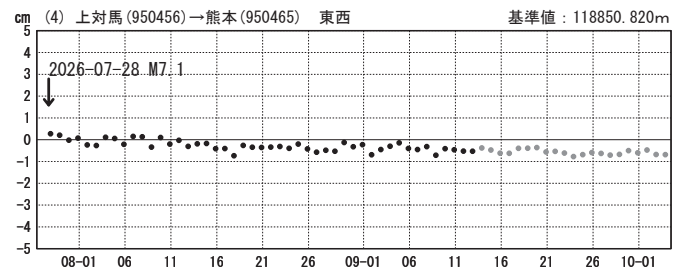
期間：2026-07-28～2026-10-03 JST



期間：2026-07-01～2026-10-03 JST



期間：2026-07-28～2026-10-03 JST

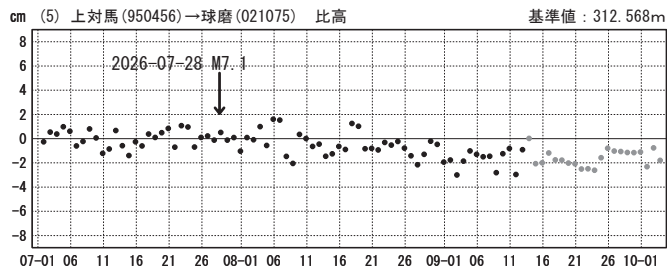
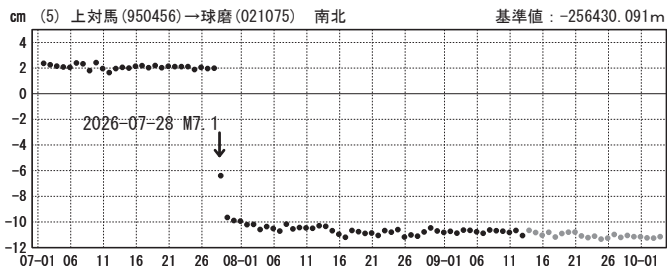
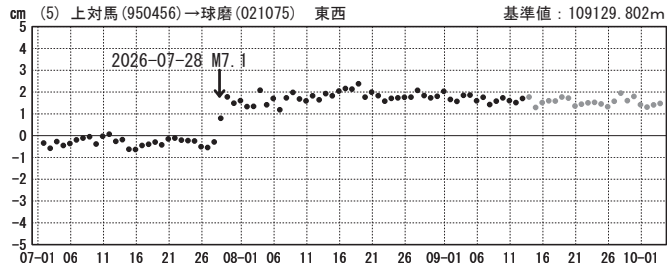


●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

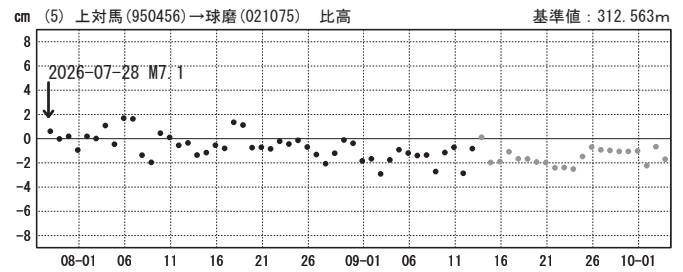
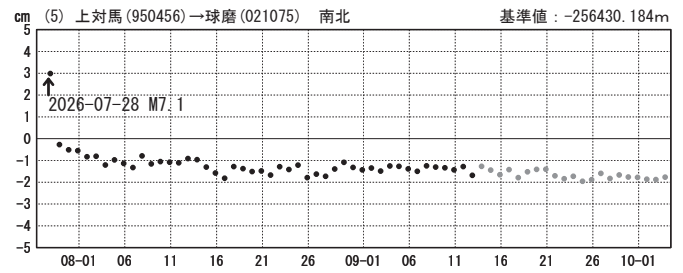
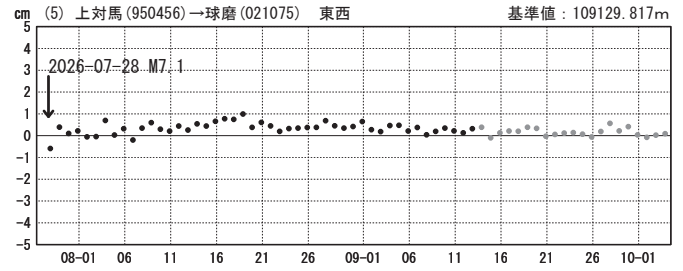
令和8年熊本地震(7月28日 M7.1)前後の観測データ(暫定)

成分変化グラフ

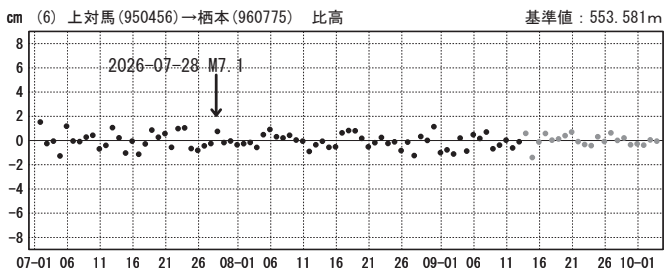
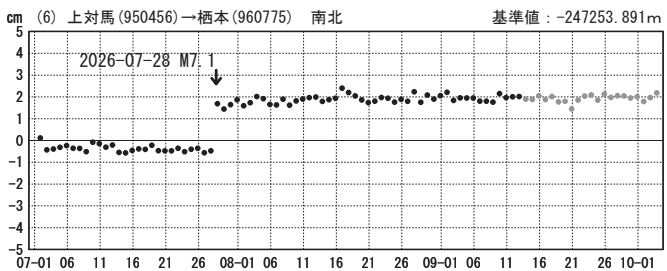
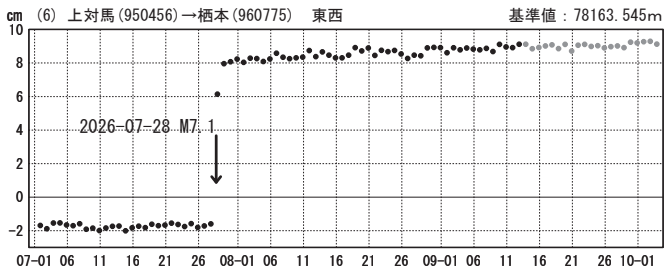
期間: 2026-07-01~2026-10-03 JST



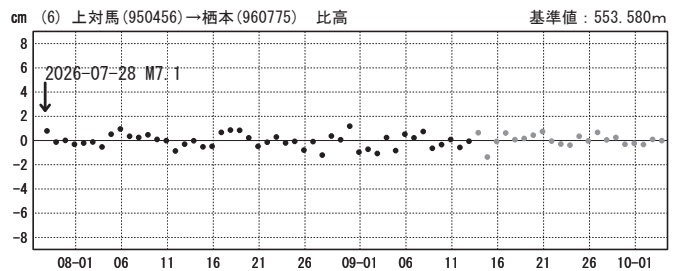
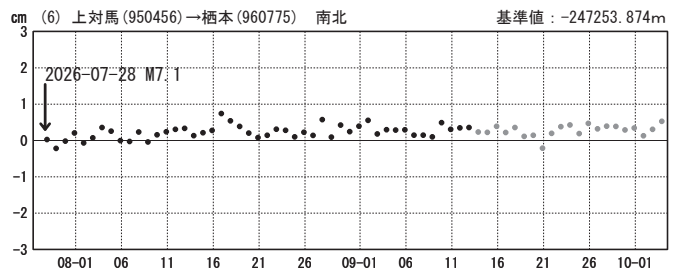
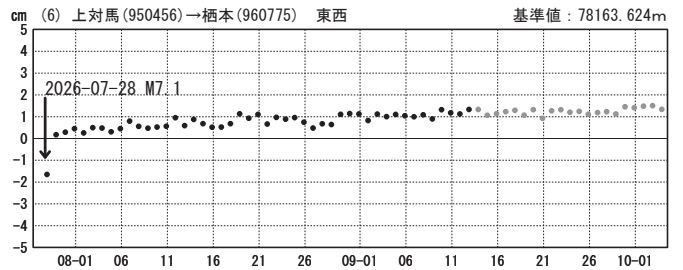
期間: 2026-07-28~2026-10-03 JST



期間: 2026-07-01~2026-10-03 JST



期間: 2026-07-28~2026-10-03 JST



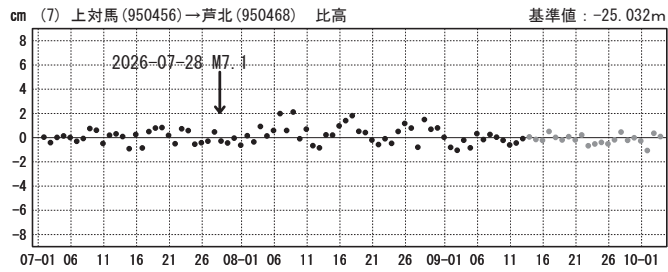
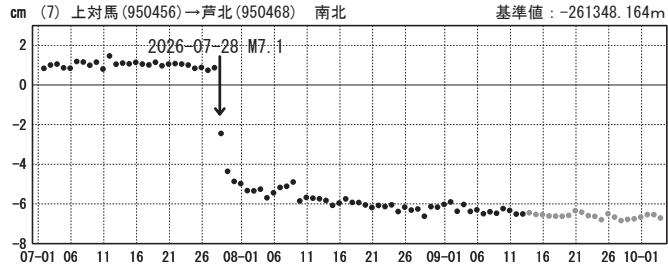
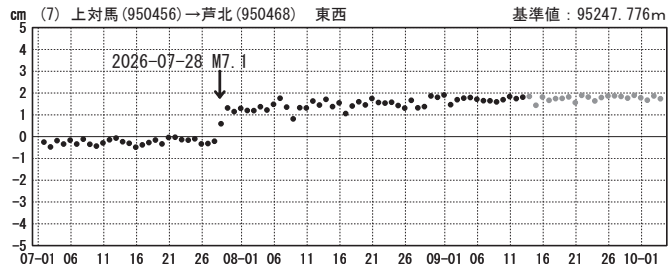
●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

国土地理院

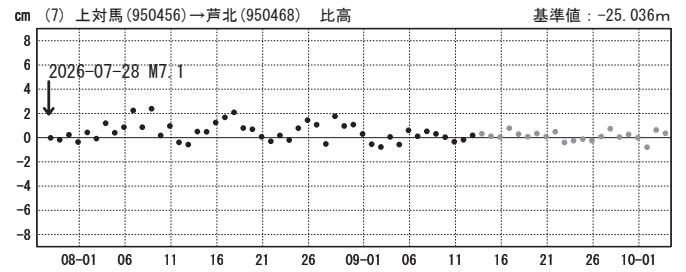
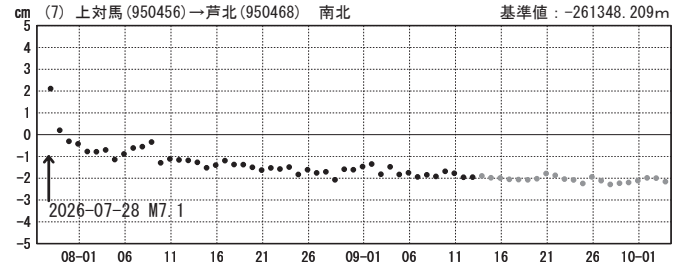
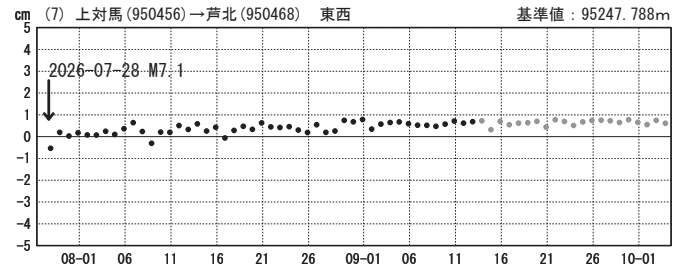
令和8年熊本地震(7月28日 M7.1)前後の観測データ(暫定)

成分変化グラフ

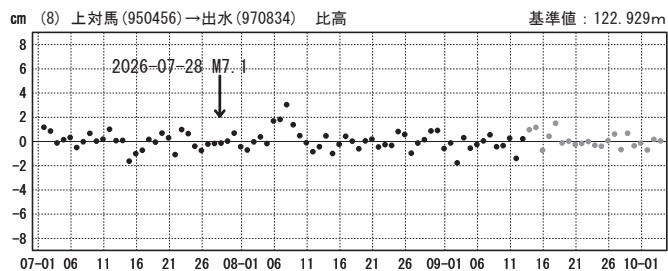
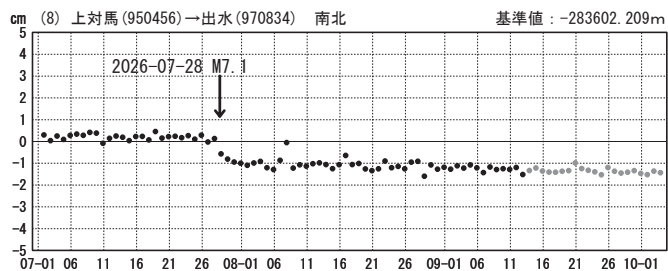
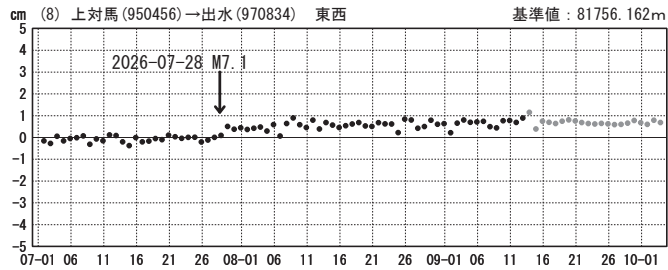
期間: 2026-07-01~2026-10-03 JST



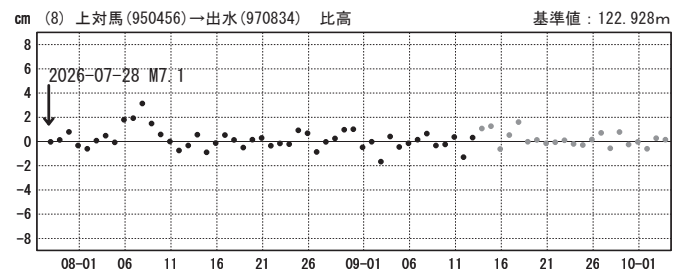
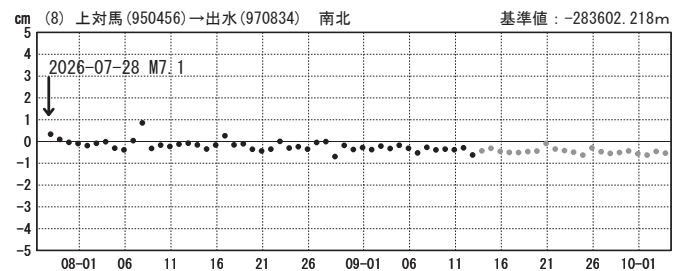
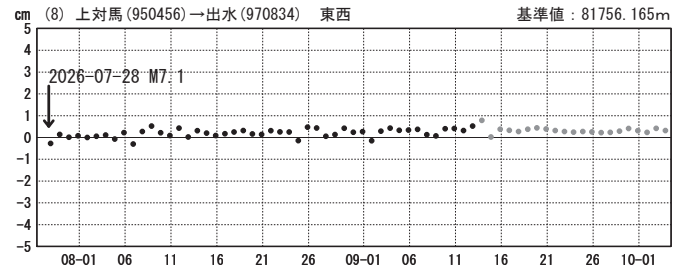
期間: 2026-07-28~2026-10-03 JST



期間: 2026-07-01~2026-10-03 JST

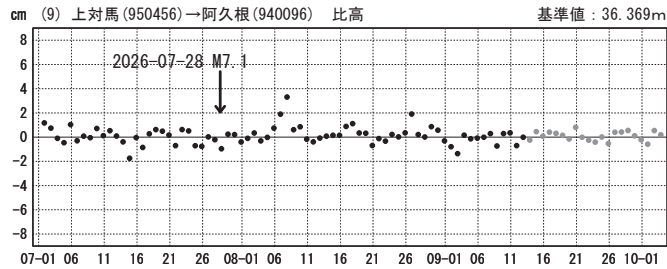
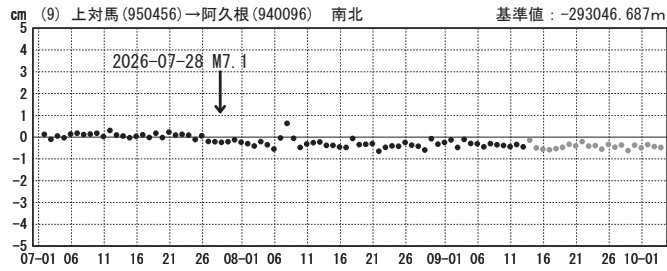
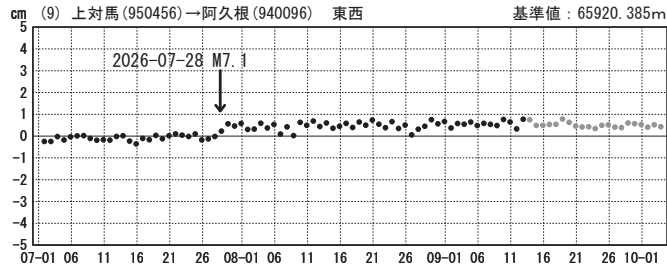


期間: 2026-07-28~2026-10-03 JST

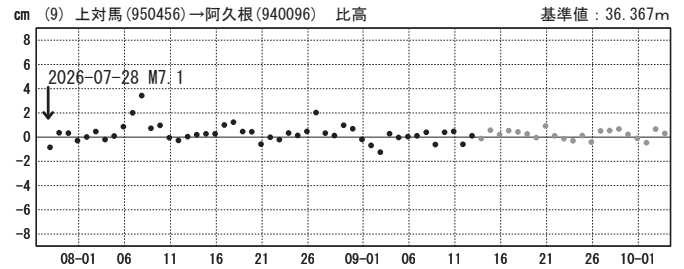
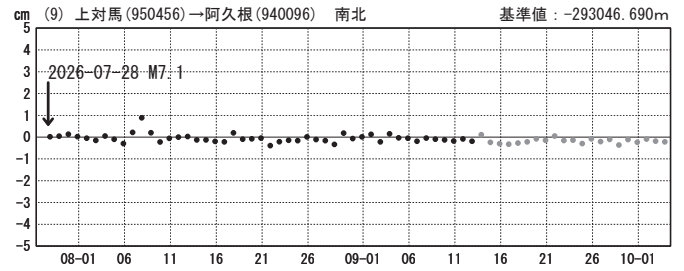
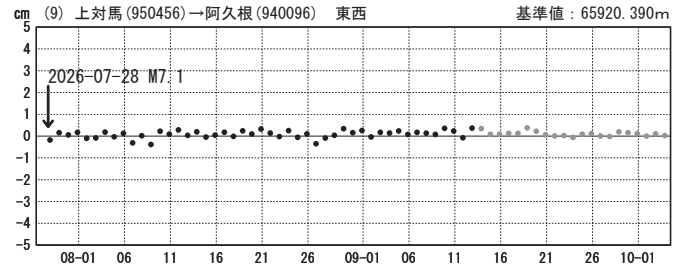


令和8年熊本地震(7月28日 M7.1)前後の観測データ(暫定) 成分変化グラフ

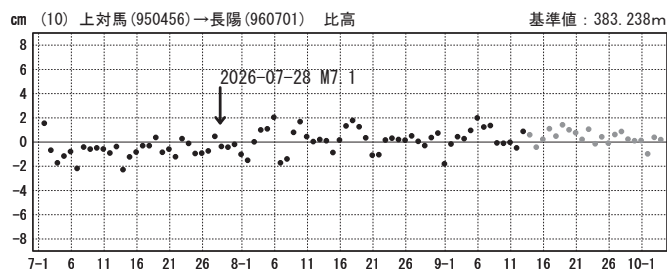
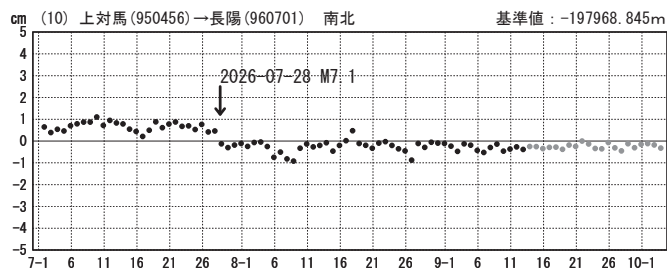
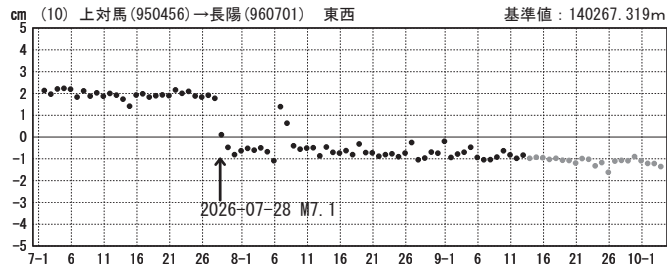
期間：2026-07-01～2026-10-03 JST



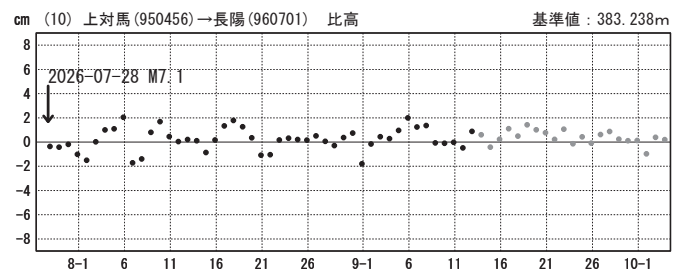
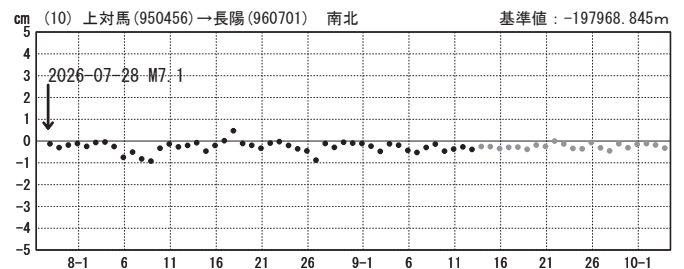
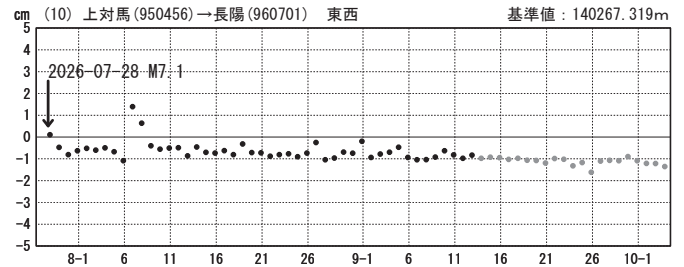
期間：2026-07-28～2026-10-03 JST



期間：2026-07-01～2026-10-03 JST



期間：2026-07-28～2026-10-03 JST



●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解]

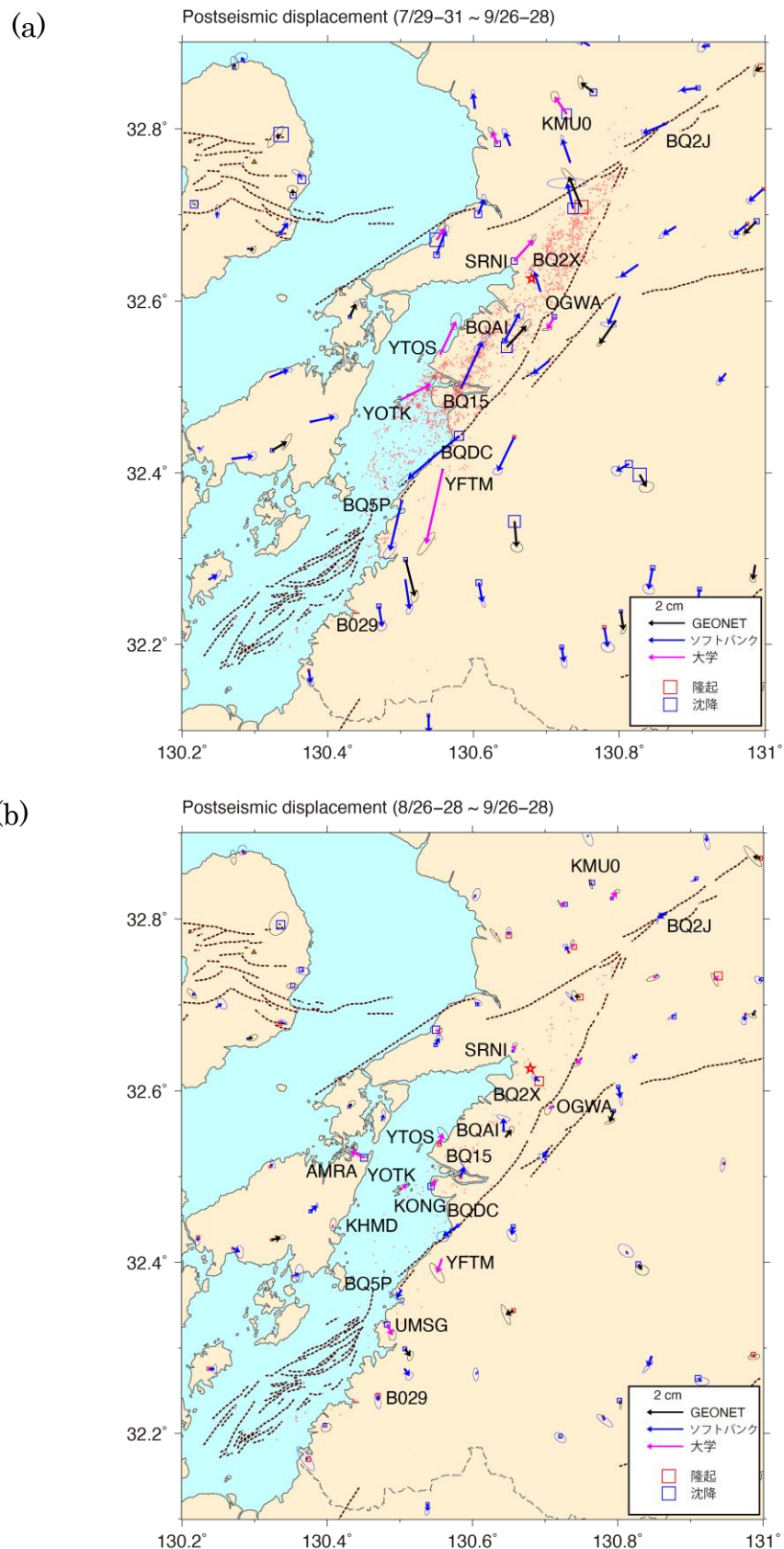


図1 GNSS 統合解析による令和8年熊本地震の地震後地殻変動。星印および赤点は、気象庁一元化震源による本震およびM2以上の震央を表す。茶色の破線は、地震本部による主要活断層を表す。(a)地震後2ヶ月間(7月29-31日から9月26-28日まで)の地殻変動。(b)最近1ヶ月間(8月26-28日と9月26-28日)の地殻変動。

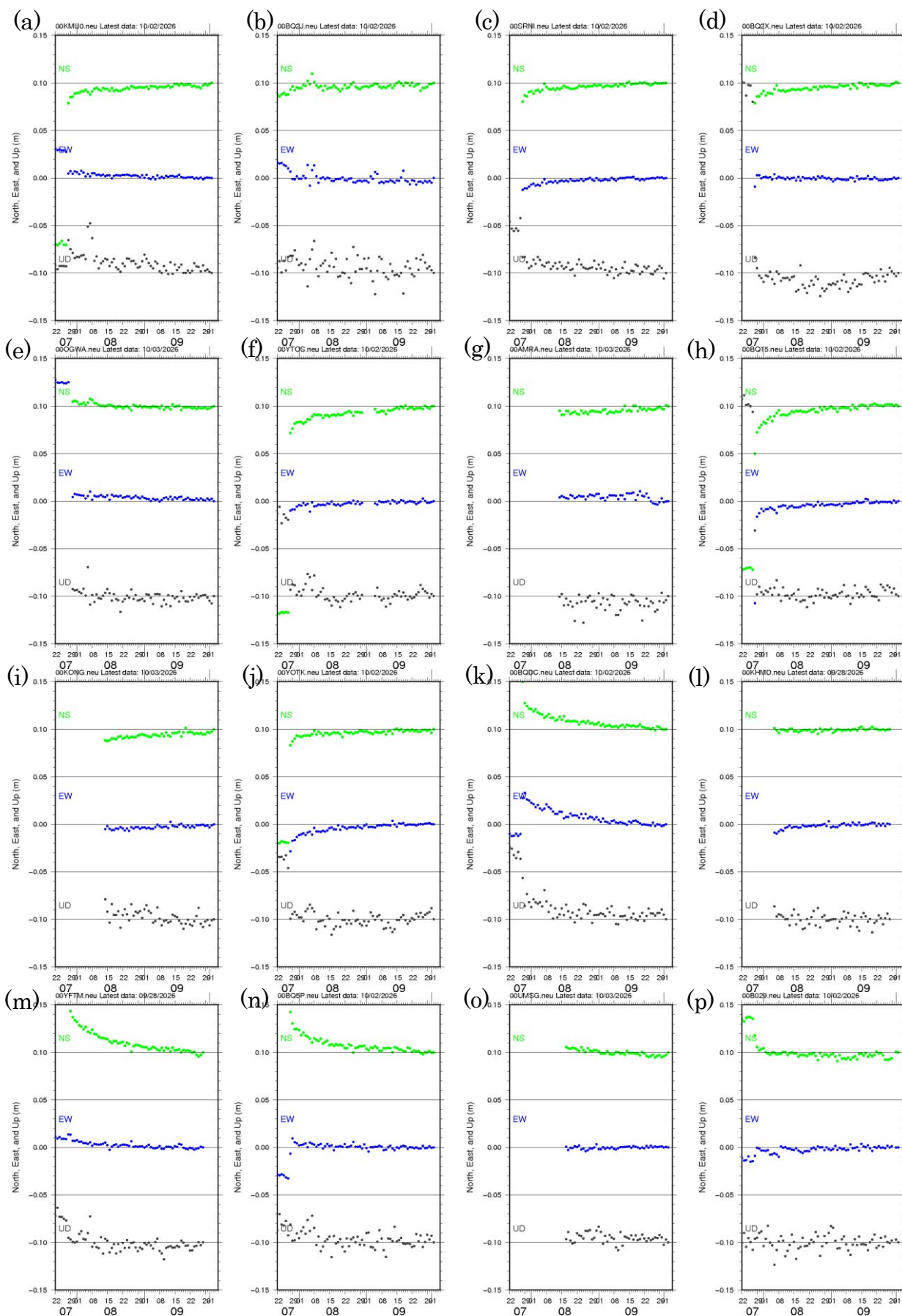


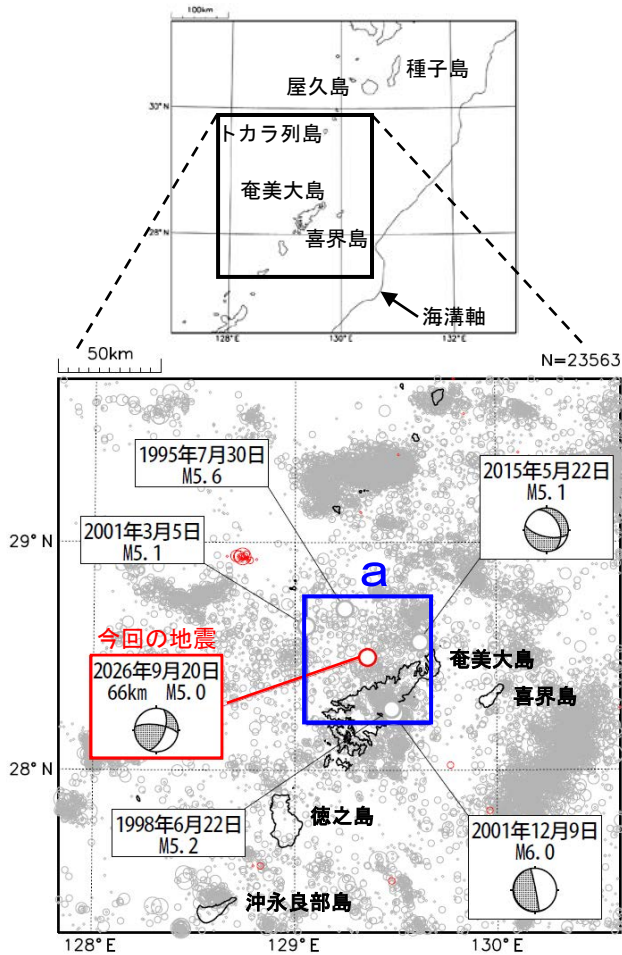
図2 熊本地震余震域周辺の地震前後のGNSS時系列(日座標値)。(a) KMU0。(b) BQ2J。(c) SRNI。(d) BQ2X。(e) OGWA。(f) YTO5。(g) AMRA。(h) BQ15。(i) KONG。(j) YOTK。(k) BQDC。(l) KHMD。(m) YFTM。(n) BQ5P。(o) UMSG。(p) B029。

防災上の留意事項と今後の見通し

- この2週間で、最大震度4の地震1回を含め、最大震度1以上の地震が38回発生するなど、平常時より地震発生数の多い状態は当分続く
- 最大震度5弱程度以上の地震が発生する可能性は低くなっており、その発生頻度は1ヶ月に1回程度の発生に相当する状況を下回っている
- 揺れが強かった地域を含め、日本国内では、いつどこで規模の大きな地震が発生してもおかしくないので、日頃からの地震・津波への備えを

9月20日 奄美大島近海の地震

震央分布図
(1994年10月1日～2026年9月30日、
深さ0～90km、 $M \geq 2.5$)
2026年9月の地震を赤色○で表示
図中の発震機構はCMT解

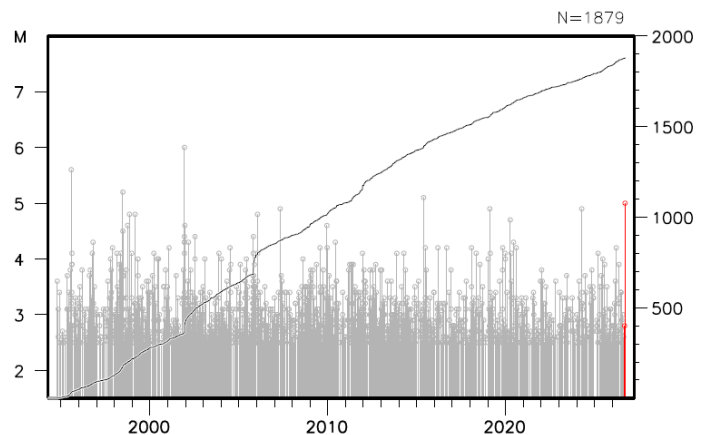


2026年9月20日16時28分に奄美大島近海の深さ66kmでM5.0の地震（最大震度3）が発生した。この地震は、フィリピン海プレート内部で発生した。この地震の発震機構（CMT解）は、北北西-南南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

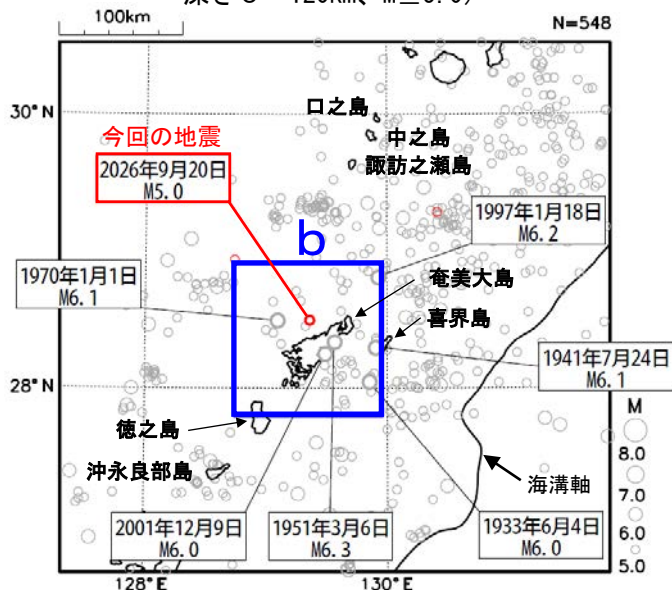
1994年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域a）では、M5.0以上の地震が今回の地震を含め6回発生している。2001年12月9日に発生したM6.0の地震（最大震度5強）では、住家一部損壊1棟などの被害が生じた（被害は総務省消防庁による）。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域b）ではM6.0以上の地震が6回発生している。1970年1月1日に発生したM6.1の地震（最大震度5）では、負傷者5人、住家一部破損1,462棟などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。

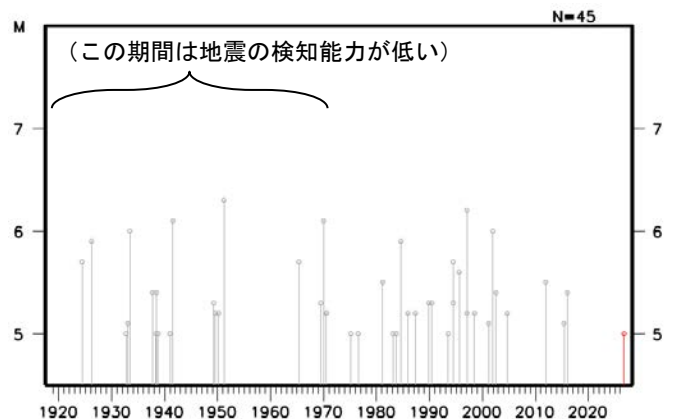
領域a内のM-T図及び回数積算図



震央分布図
(1919年1月1日～2026年9月30日、
深さ0～120km、 $M \geq 5.0$)



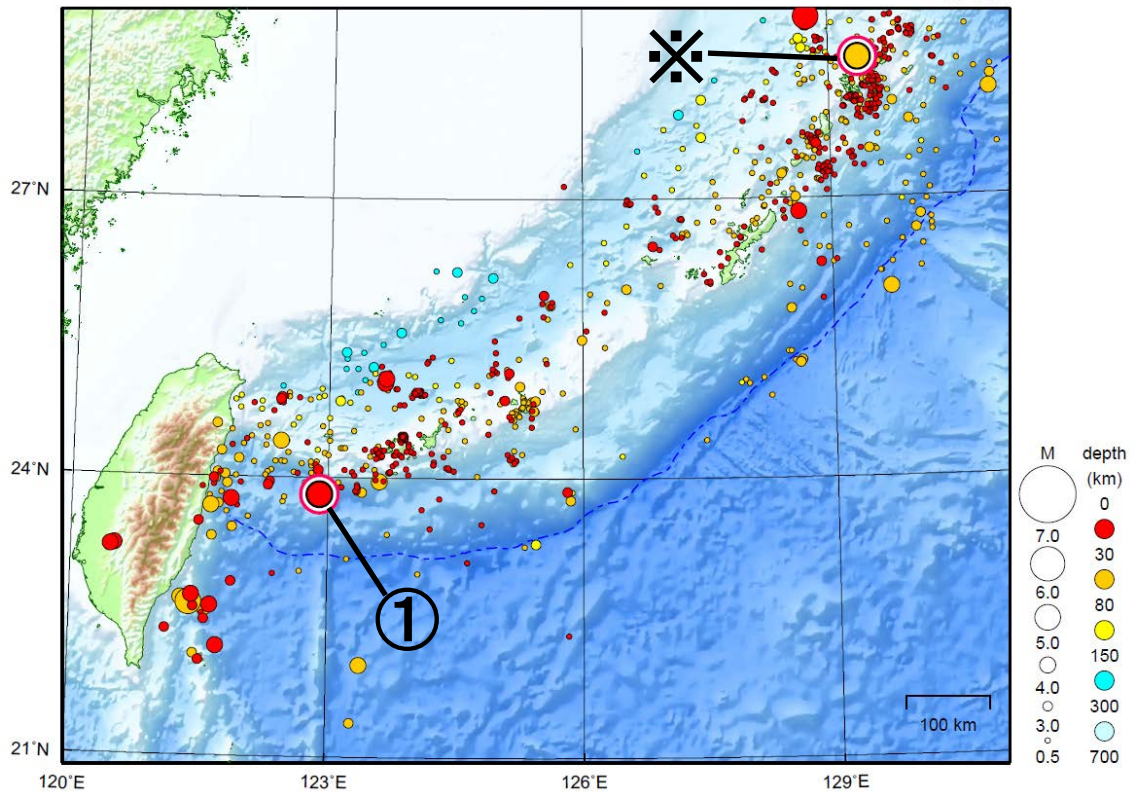
領域b内のM-T図



沖縄地方

2026/09/01 00:00 ~ 2026/09/30 24:00

N=1273



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- ① 9月30日に与那国島近海で M5.9 の地震(最大震度3)が発生した。

※で示した地震については九州地方の資料を参照。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度4以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度3以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

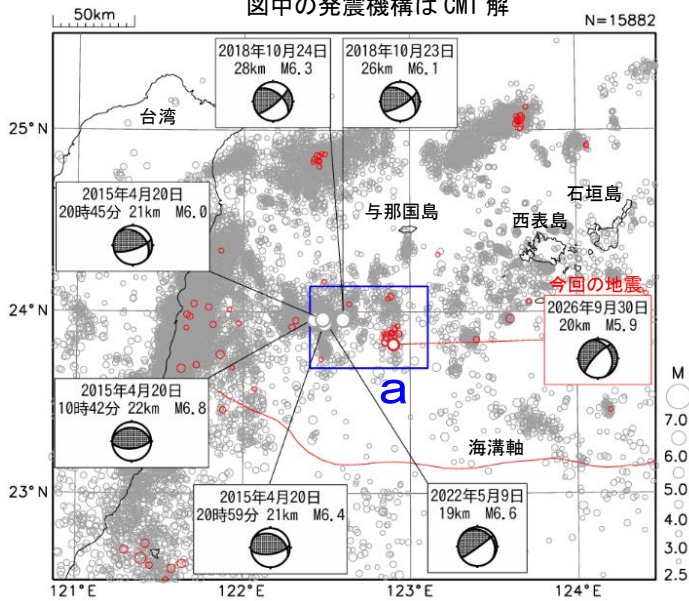
9月30日 与那国島近海の地震

震央分布図

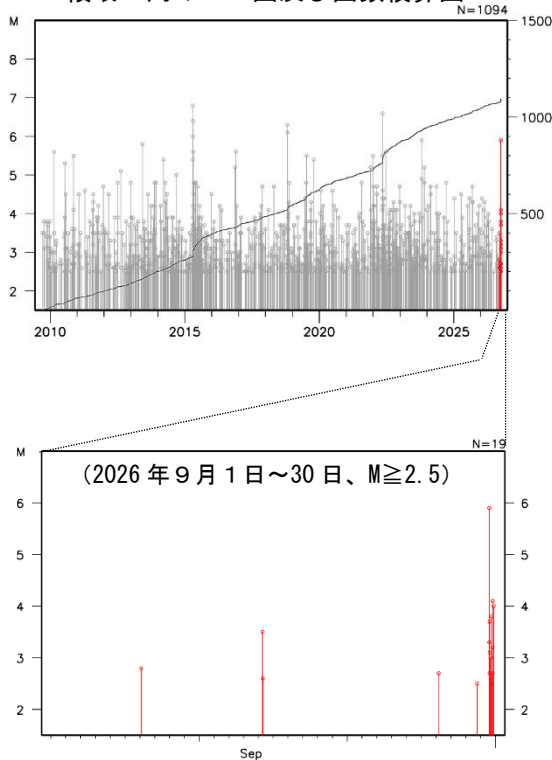
(2009年9月1日～2026年9月30日、
深さ0～50km、 $M \geq 2.5$)

2026年9月の地震を赤色で表示

図中の発震機構はCMT解

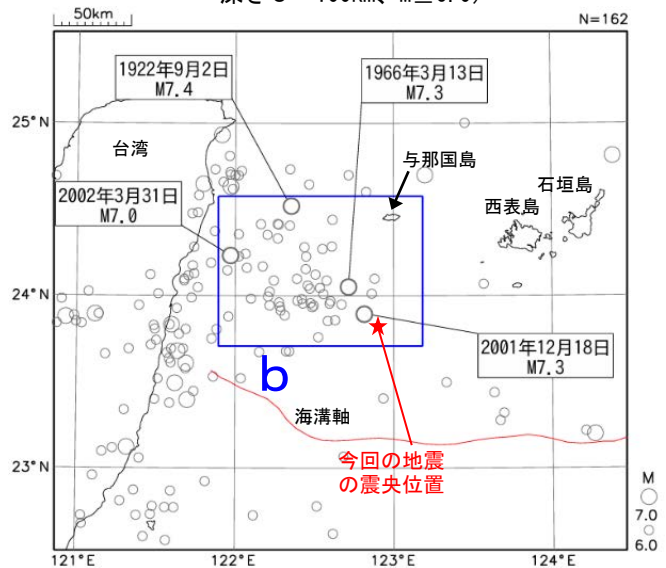


領域a内のM-T図及び回数積算図

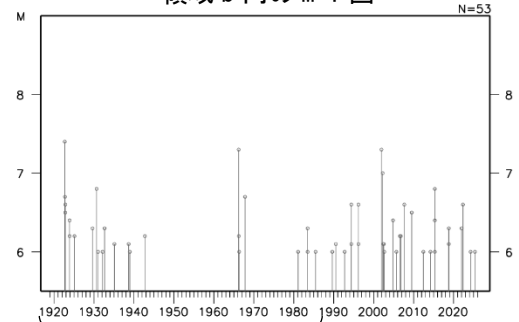


震央分布図

(1919年1月1日～2026年9月30日、
深さ0～100km、 $M \geq 6.0$)



領域b内のM-T図



(この期間は検知能力が低い)

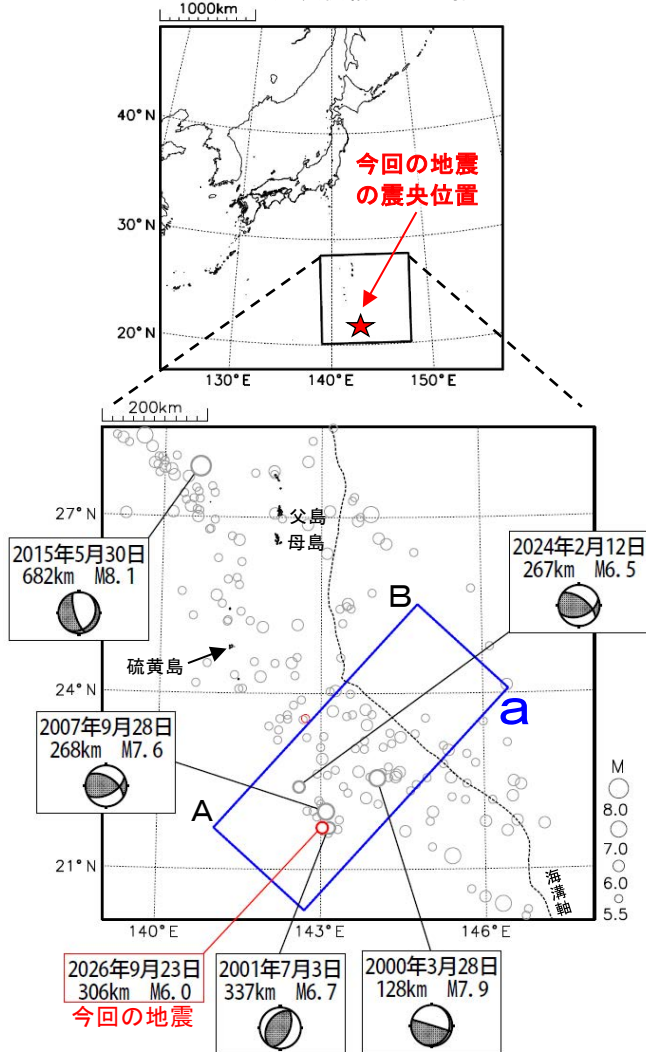
9月23日 マリアナ諸島の地震

震央分布図

(2000年1月1日～2026年9月30日、
深さ0～700km、 $M \geq 5.5$)

2026年9月の地震を赤色で表示

図中の発震機構はCMT解

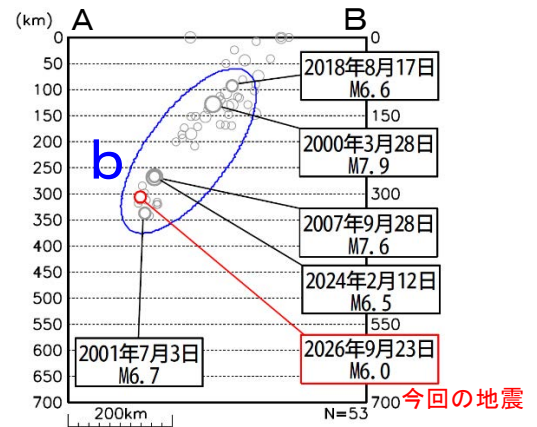


2026年9月23日22時01分にマリアナ諸島の深さ306kmで $M 6.0$ の地震（日本国内で震度1以上を観測した地点はなし）が発生した。

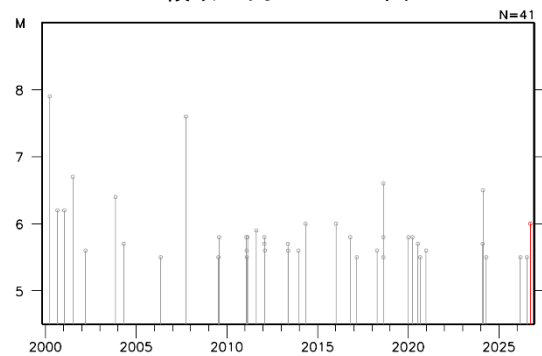
2000年1月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）では、 $M 6.0$ 以上の地震が時々発生している。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺では、 $M 7.5$ 以上の地震が時々発生している。2000年3月28日の地震（ $M 7.9$ ）では、小笠原村父島で最大震度3を観測したほか、東北地方を中心に震度2～1を観測している。

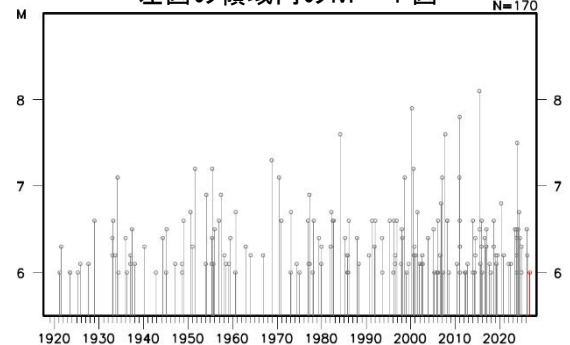
領域a内の断面図（A－B投影）



領域b内のM－T図



左図の領域内のM－T図



震央分布図

(1919年1月1日～2026年9月30日、
深さ0～700km、 $M \geq 6.0$)

2026年9月の地震を赤色で表示

